

全日本大学ソフトボール連盟機関誌

ウインドミル

第 21 号



全日本大学ソフトボール連盟

フェアプレイ宣言(日本体育協会)

私は、スポーツを愛する者として、何事にも全力で取り組み、精神・肉体ともに成長させることに努めます。そして、フェアプレイを通じて思いやり、誇り、努力、勇気を最大限に発揮し、その力を人に、地域に、社会のために生かしていきます。

マナーについて(日本ソフトボール協会)

マナーは、自分もしくは自チームに対して求めるもので、他者や相手チームを不快な気分にはさせないよう気遣うことであり、自分もしくは自チームの正当性を主張するものではありません。

フェアプレイの徹底について(全日本学連)

フェアプレイに反する行為を撲滅するために特に留意すべき事項

1. 投手がセットポジションに入ったら、チームメンバー及び観衆は競技に及ぼす声や鳴り物を発してはならない。
2. チームメンバー及び観衆は、投手対打者の競技場面においてどちらかに有利に働くような行為や言動をしてはならない。

そのために徹底されるべき具体的な禁止事例

1. 声による投球コースや球種の伝達
2. 動作による投球コースや球種の伝達
3. 声による相手打者への過度なプレッシャー
4. 声による相手投手、捕手、野手への過度なプレッシャー



全日本大学ソフトボール連盟

ごあいさつ

全日本大学ソフトボール連盟会長代理
中野 元

平成29年7月13日、一谷宣宏会長が任期半ばで逝去されました。急遽、その代行といたしまして、今回は私から学連機関誌ウインドミル第21号の発刊に当たってのごあいさつを申し上げます。

平成29年度の諸行事は、皆さまのご協力とご支援のおかげをもちまして滞りなく無事終わることができました。特に、今年の第52回全日本インカレは、女子が広島県（東広島市、呉市）、男子が岡山県（新見市）といったように、別会場で開催されました。これは、第29回（群馬県、神奈川県）、第30回（福井県、広島県）に次いで3回目の別開催方式でした。第54回大会からは、男女別開催が常態化し、男子富山市・女子安城市における大会の拠点化が行われます。今回の経験をこれからの大学ソフトボール選手権大会のさらなる発展に活かしてもらいたいと願っています。同時に、全日本インカレの隆盛は各地区のソフトボール競技の活性化にかかっています。各地区の活性化を基礎に、大学連盟全体の競技能力、大会運営力の向上につなげてもらえることを期待しています。

国際面では、2020年に東京オリンピックが開催されます。それに向けて、日本ソフトボール協会では独自に女子の選手強化体制が整備されています。その体制の中で、各カテゴリー別に大学関係の指導者や学生選手が活動しています。大学連盟としては、このオリンピック開催を利用して国際的な視野を広げる必要があり、大学ソフトボール競技の世界への普及・活動について、男女とも真剣に考える時期に来ているように思います。

大学を取り巻く環境は刻々と変化しています。その中には、大学経営・スポーツ環境など克服しなければならない問題もあります。そうした状況にあるからこそ、学連機関誌の役割は高まっています。このウインドミルを通じて、競技力の向上に関する論文・報告からスポーツ環境にいたるまで各種の情報、成果を共有し、問題解決とさらなる発展に進んでいくことを願っています。このウインドミルの発刊にご協力いただきました皆さま、関係各位に心より感謝申し上げます、ごあいさついたします。

ウインドミル

第21号

目 次

ごあいさつ ●会長代行 中野 元	-----	1
〔追 悼〕 ●故一谷宣弘先生を偲んで	-----	4
元会長 大内 敬哉		
●一谷宣弘先生	-----	5
元理事長 末井 健作		
●『せやなあ〜！』に支えられて	-----	6
前理事長 高橋 伸次		
●追悼 吉野みね子先生	-----	7
〔事業報告〕 ●平成30年度の事業報告と今後の活動方針	-----	8
理事長 久保田 豊司		
〔総 説〕 ●運動後のクールダウンについて 2	-----	10
(公財)日本ソフトボール協会医事委員長 山下 義則		
〔特 集〕 ●男子ソフトボールの魅力!!	-----	14
ソフトボールの魅力とこれから	-----	14
事務局長 森田 啓之		
大学の役割と今後の課題	-----	17
東京理科大学 柳田 信也		
私のソフトボールライフ	-----	19
環太平洋大学 西村 信紀		
〔卒論要約〕 ●高校卒業後のソフトボール継続に関する意識調査		22
～長野県高校女子ソフトボール部員を対象として～		
松本大学 北川原 芽生 (指導教員 岩間 英明)		
〔研究NOTE〕 ●スポーツビジョンがソフトボールの競技力に		
及ぼす影響について		26
松本大学 杉山 恭香 (指導教員 岩間 英明)		
主催大会の記録 ●文部大臣杯第52回全日本大学男子選手権大会	-----	30
●文部大臣杯第52回全日本大学女子選手権大会	-----	42
共催大会の結果 ●第49回西日本大学選手権大会	-----	52
●第32回東日本大学選手権大会	-----	54
後援大会の結果 ●第16回大学ソフトボール東海オープン	-----	56

●第8回城西大学学長杯大学女子ソフトボール大会	-----	56
●第19回千葉オープンチャレンジカップ	-----	57
●第18回「峠のまち」Matsuida Cup	-----	58
●第15回北信越大学オープンソフトボール大会	-----	59
●第9回HAKUBA CUP 大学女子ソフトボール大会	-----	60
●第48回関東大学男女ソフトボール選手権大会	-----	61
●藤原初男杯第9回		
全国大学・実業団対抗ソフトボール選抜大会	-----	63
全国大会の結果●第63回全日本総合男子選手権大会	-----	64
●第69回全日本総合女子選手権大会	-----	65
各地区の大会結果●北海道・東北地区		
春季大会	-----	66
選手権大会	-----	67
秋季大会	-----	68
●関東地区		
春季リーグ戦	-----	69
選手権大会	-----	71
秋季リーグ戦	-----	72
●北信越地区		
選手権大会	-----	74
新人選手権大会	-----	74
●東京地区		
春季リーグ戦	-----	76
出場枠決定戦・2次予選	-----	78
秋季リーグ戦	-----	80
順位決定戦	-----	82
●東海地区		
春季リーグ戦	-----	83
選手権大会	-----	87
秋季リーグ戦	-----	88
●近畿地区		
春季リーグ戦	-----	92
秋季リーグ戦	-----	97
●中国地区		
インカレ予選会	-----	102
選手権大会	-----	103
●四国地区		
インカレ予選会	-----	104
秋季大会	-----	105
●九州地区		
春季大会	-----	106
秋季大会	-----	107
調査研究部会●投稿規定・執筆要項	-----	108
広報記録部会●優勝エンブレムとロゴマークの制定	-----	109
資料●全日本大学ソフトボール連盟役員名簿	-----	110
平成29年度加盟大学一覧	-----	112
編集後記	-----	114

追悼

故一谷宣弘先生を偲んで

前全日本大学ソフトボール連盟会 大内敬哉

全日本大学ソフトボール連盟会長一谷宣弘先生（学校法人園田学園女子大学理事長）が本年7月13日に急逝されましたは、私にとりまして、誠に痛恨の極みであります。

ここに先生のご遺徳を偲びつつ拙文を捧げ心より哀悼の意を表します。

先生を偲ぶ時、まず以って思い出されるのが先生の父であり、元全日本大学ソフトボール連盟会長、故一谷定之丞先生（学校法人園田学園女子大学学長・理事長）との出会いであります。確か、昭和58年の暮れだと思います。当時、西日本大学ソフトボール連盟会長の岩野次郎先生（関西大学教授）の体調が優れず、関西学生ソフトボール連盟会長であった故一谷定之丞先生に是非会長をお引き受け願いたく、当時、西日本大学ソフトボール連盟理事長の私と関西学生ソフトボール連盟理事長、末井先生の二人で園田学園へ出向きました。その折、故一谷定之丞先生は気さくに玄関先でお声を掛けて頂きました。その後、西日本大学ソフトボール連盟のお話を聞いて頂き、心よく会長職をお引き受けくださいました。後で判ったのですが、故一谷定之丞先生の「追悼集」で故一谷宣弘先生が父である故定之丞先生のことにはふれられ「春風を以って、人に接す」この言葉が先生の座右の銘であったと語られています。「人間は舌一つ二つの耳がある」、「語るより他人から2倍よく聞くことが大切である」と聞き上手な父であった事も語られています。その座右の銘の理由により西日本大学ソフトボール連盟の会長を引受けて頂いたのだと理解できました。

さて、私は会長であった故一谷宣弘先生と最初にお会いしたのは、平成元年2月（1989年）に、故一谷定之丞先生が、急逝されましたその告別式の式場で全日本大学ソフトボール連盟の役員にご挨拶された時だと、記憶しております。爾来、先生には、今日迄の29年間に亘って温かい友情と励ましを受けたことは誠に言葉にはいい表すことはできません。今日の学校法人園田学園の発展に寄与されたその偉大な業績に感動を覚えます。

特に、私は先生に感謝することがあります。それは忘れもしない平成8年（1996年）に、全日本大学ソフトボール連盟会長をお引き受けした時、当時私は全日本大学準硬式野球連盟の会長に就任しており、二足の草鞋を履く事になり、理事会に対しお断りをいたしました時に、当時副会長であった先生が「私ができる限り、補佐をいたしますからお引き受けください。」と心強い申し出をして頂き、会長を引き受けることになりましたが、両方の連盟の大会が、夏期休暇に期日が集中し、大学ソフトボール選手権大会の開会式、又は閉会式のいずれかを副会長であった先生にお願いした事があります。私より随分とご多忙にも拘らず、いつも快くお引き受け頂き、誠にありがとうございました。心よりお礼を申し上げます。又先生は、全日本大学ソフトボール連盟に於いて信念として学生のスポーツは、「国際大会に参加し、以って人間性を養い、日本のスポーツ界のリーダーになれ」が持論であり、特に日本に於いて世界大学ソフトボール選手権大会を開催しなければならない。これが私の夢である言われていました。この遺志を受け継ぎ、全日本大学ソフトボール連盟では、一日も早く実現して頂きたく、思う次第であります。

今故一谷宣弘先生を偲ぶ時、あの人懐っこい笑顔を浮かべられた顔が、彷彿として思い

出されます。73歳という人生の半ばで生涯を終えられた先生は、さぞ無念であったと思います。まだまだ、これから、日本のソフトボール界でのご活躍を期待していましたが、残念でなりません。情に厚く、温厚で明るい先生が、生涯にソフトボールに情熱を持たれ、生命をかけて尽くされたご指導は誠に立派であったと存じます。私は、生成の精神を受け継ぎ、全力を挙げて努力する事をお誓い申し上げ、安らかなご冥福を心よりお祈り申し上げます。

平成29年10月記 合掌

追悼

一谷宣宏先生

元全日本大学ソフトボール連盟理事長 末井健作

私は一谷会長が急逝されたことを（2017年7月13日当日）お聞きし、「えっ！」と絶句しました。ただただ残念至極の言葉しかりません。そして、一谷会長との出会いから現在までのいろいろなことが走馬灯のごとく脳裏を駆け巡りました。一谷会長とは30年前に関西学連の会長を大学へお願いに伺い、快諾していただいたことから始まります。今もその時のソフトボールへの情熱に満ちた力強い声でのお話を思い出すことができます。一谷会長は私に「学生スポーツとして加盟大学を如何にして増やしていくか。その為にはソフトボールの魅力をどう学生に伝えていくか。そして、国際交流とソフトボールを取り巻く環境を整備していくことが重要ですね」、と話された笑顔が眼前に浮かびます。

その後、全日本学連の副会長に就任され、2008年には第8代会長に就任されました。

副会長として最初に全日本大学選手権大会に出席されたのが、28回大会（宇部市・1993年）でした。大会期間中は試合を一生懸命観戦され、時にはこちらが心配する程、身を乗り出して熱く声援を送られるので、思わず「大会本部役員であることをお忘れないようにして下さい」と、お話しすると、「頑張っていて欲しいものね」と苦笑された姿を忘れることが出来ません。最後に出席された51回大会（南九州市・2016年）まで、その思いは変わることなく選手に大きな声で激励されておられました。学生にいつも笑顔で元気よく気軽に話かけられ、その気さくなお人柄が慕われていました。一谷会長は本当にソフトボールをこよなく愛し、学生の成長を微笑ましく見守っておられました。

本学連主催の海外遠征はブラジル（1992年）親善試合が始まりです。その後、一谷会長が日本オセアニア協会の会長に就いておられたことから、ニュージーランドチーム（男子）やオーストラリアチーム（女子）との国際交流事業が始まりました。現在、男子はニュージーランドチームとの親善試合が継続されています。一谷会長は学生に国際試合やホームステイ等を経験することによって異文化を理解し、国際的にも活躍できることを願っておられました。

忘れることができない一つに、2020年の東京オリンピックでのソフトボール競技の復活

を歓喜され、「一緒に応援に行こう」と満面の笑みでお話しされたのを昨日のことに思い出します。オリンピックで学生・大学出身者の活躍を切望されていました。

一谷会長は本学連50周年を迎えた2016年に「急速に進む少子高齢社会を迎え、大学ソフトボールの使命を改めて認識し、グローバル化のなかで大学ソフトボールの進むべき立ち位置を考え、多くの人々から信頼され親しまれる大学連を目指したい」と含蓄のある方針を示されました。その願いと熱き思いはこれからも引き継がれていくことと思います。

このように大学連盟の躍進を牽引してこられた一谷会長のご功績は永遠に本学連の歴史に燦然と刻まれることでしょう。

在りし日の一谷会長の熱弁をふるっておられる姿を思い浮かべ、謹んでご冥福をお祈り申し上げます。合掌

追 悼 『せやなあ〜！』に支えられて

前全日本大学ソフトボール連盟理事長 高 橋 伸 次

私は、一谷会長のもとで3期6年間、理事長を務めさせていただきました。地方の小さな公立大学チームを率いる一介の指導者である私にとって、会長を補佐し、大学連盟全体の舵取りを任されるという重職は、とにかく身の丈に余るものでしたので、会長には随分とご心労をお掛けしたのではないかと感じております。

会長とは、兵庫県と群馬県と遠距離であったため、理事会やインカレなど年に数回しかお目にかかることができませんでした。専らメールなど顔の見えないやり取りでしたので、どうしても互いに遠慮がちになってしまった面もあったのでしょうか。しかしそうした心理的な距離を埋めるかのように、ご一緒させていただいた時は、いつも明るく、賑やかで、そしていつでも、それとなく労っていただいていたように、改めていま感じています。

『せやなあ〜！』という甲高い声は、今でも私の耳に残っています。若輩で至らぬ私への、ときに「承認」を意味するそのコトバは、何よりも私に安心感と活力を与えてくれる魔法のコトバでもありました。このコトバに支えられ、また手がかりにしながらの6年間であったように思います。

一谷会長との邂逅は、私にとって大変幸運なことでした。人をさりげなく包み込む暖かさや、毅然と決断を下す潔さは、亡くなられた今もなお、私に、人としての、また指導者としての指針を与えてくれてありがとうございます。本当にありがとうございます。

心よりご冥福をお祈り申し上げます。合掌。

追悼

吉野 みね子 先生

吉野みね子全日本大学ソフトボール連盟顧問（前副会長）は、2017年12月5日に急逝されました。

先生は、東京女子体育大学3年時にソフトボール同好会を結成し、卒業後も教員として大学に残り、全日本大学女子選手権大会（インカレ）では選手・コーチ・監督・学連役員として第1回大会からすべての大会に関わり、この間、優勝15回（1998年から2002年までは5連覇）、準優勝15回、第3位8回を記録されました。

また、以下のように国際大会においても活躍されましたので、記してその功績を讃え、心よりご冥福をお祈り申し上げます。 合掌

吉野みね子先生の国際大会における功績

年	事 項	成 績
1980年	ミニワールドシリーズ（オーストラリア）に日本代表コーチとして出場	準優勝
1985年	世界ジュニア選手権大会（アメリカ、ノースダコタ州ファーゴ）に日本代表監督として出場	準優勝
1986年	第6回女子世界選手権大会（ニュージーランド、オークランド）に日本代表監督として出場	8位
1992年	全日本大学連盟女子選抜チーム・ブラジル遠征（ブラジル、サンパウロ他）に監督として出場。	9勝0敗
1995年	第2回全日本大学連盟女子選抜チーム・ブラジル遠征（ブラジル、サンパウロ）に監督として出場（95年12月20日から96年1月5日の期間）	6勝0敗
1996年	アトランタ・オリンピック（アメリカ、アトランタ）に総監督として出場	第4位
1999年	第7回アジア女子選手権大会（中国、上海）に日本代表監督として出場	準優勝
2000年	全日本大学連盟女子選抜チームのオーストラリア遠征（ブリスベン）に監督として出場	5勝2敗
2003年	第8回アジア女子選手権大会（大学女子選抜チーム）の監督として出場することが決まっていたが、種々の事情により大会が中止	
2004年	第3回アジア女子ジュニア選手権大会（韓国、ソウル）に日本代表監督として出場 第1回世界女子大学選手権大会（アメリカ、フロリダ州ブラントシティ）に大学日本代表監督として出場	優 勝 第3位
2005年	大学女子日本代表チームの国際強化試合（オーストラリア）に監督として出場	第3位
2007年	カナダカップ（カナダ、サレー市）に日本代表Bチームの監督として出場	第3位

『未来に向かって 大学ソフトボール50年の歩み』 [資料編] より中野元会長代理作成

【事業報告】 平成29年度の事業報告と今後の活動方針

理事長 久保田 豊 司（大阪国際大学）

本連盟の主催事業である「文部科学大臣杯第52回全日本大学男女ソフトボール選手権大会」は、男子は岡山県協会のご協力のもと、新見市憩いとふれあいの公園を中心に実施されました。新見市は、豊かな自然に恵まれ「ソフトボールの町新見市」をスローガンに掲げ、競技レベルの向上はもとより、健康増進、地域コミュニティの醸成、スポーツボランティアの育成などソフトボールを通したまちづくりを推進しています。女子は広島県協会、東広島市協会、呉協会のご協力のもと、東広島市運動公園、入船山公園多目的広場で実施されました。東広島市は、全国でも名高い酒の都として発展してきました。また、呉市は、戦前は戦艦大和を建造した東洋一の軍港として栄え、戦後は世界最大級のタンカーなどを生み出す瀬戸内海有数の臨海工業都市として、海とともに発展してまいっています。今大会は、岡山県と広島県で開催され、52回の長い歴史の中で初めて県をまたぐ実施となりました。

男子の試合は、日本体育大学が8年ぶり29回目の優勝を飾り、準優勝には国士舘大学、3位には関西大学と城西大学が入賞しました。女子の試合は、環太平洋大学が強豪大学相手に勝ち進み初優勝を成し遂げました。準優勝には、園田学園女子大学、3位には準決勝戦で惜敗した日本体育大学と中京大学でした。優勝チームには、チャンピオンエンブレムをユニホームの袖に付けてプレーする権利が与えられ、優勝チームとしての名誉は基より、連盟の模範チーム、選手としての活動、さらにはソフトボール競技の普及、発展への活動等、リーダーとしての多くの期待が込められています。

共催している東日本・西日本大学選手権大会は、東日本男子は福島県郡山市、女子は岩手県花巻市、西日本は宮崎県宮崎市他で開催されました。東日本では日本体育大学（男子）と城西大学（女子）が、西日本では環太平洋大学（男子）と園田学園女子大学が頂点に立ちました。また後援大会についても、関東・北信越・東海・近畿・九州の5つの地区で11大会が開催されました。これらは、大学ソフトボールのレベルアップや底辺拡大に役立ててもらおうためのものであり、各種大会において確実にその成果はあ

がっています。

国際関係では、男子が第10回アジア男子ソフトボール選手権大会に派遣が決定されていましたが、開催されず次年度以降に残念ですが持ち越しとなりました。

本連盟の今後の活動方針としては、大学ソフトボール界を今まで以上に発展させるべく、競技人口の拡大・競技力の向上・知名度の向上を目指しています。そのために、全日本大学選手権大会の開催方法を見直しています。全日本大学選手権大会は、平成30年度は北信越地区（石川県）で開催されることが決定しています。平成31年度以降の開催地については、これまでの各地区での開催から、「大学ソフトボールのブランド構築」「選手が憧れる舞台の創出」のために、拠点化を前提とした開催地を検討しています。さらに、男女共に選手育成強化事業・国際教育事業を立ち上げ展開したいと考えています。

最後になりましたが、本連盟の主催・共催・後援大会の開催にあたっては（公財）日本ソフトボール協会、また各地の都道府県協会をはじめ多くの関係者のご支援のおかげであります。この場をお借りして厚くお礼を申し上げます。次年度の事業においても、本年度の反省を踏まえ大学連盟は、より一層の発展のために全力で取り組む所存であります。今後とも、関係者の皆さまの絶大なるご支援・ご尽力をお願い申し上げます。

最後になりましたが、全日本大学ソフトボール連盟は、昭和41年に創立され50年の時が経ちました。2月には50周年記念誌の発刊とCDの作成、記念パーティーは創立からご尽力をくださった大学連の先輩や多数の関係者のご出席により、盛大に挙行されました。これもひとえに、（公財）日本ソフトボール協会、また各地の都道府県協会をはじめ多くの関係者のおかげであります。また、本連盟の主催・共催・後援大会の開催にあたってご支援を頂き、この場をお借りして厚くお礼を申し上げます。次年度の事業においても、本年度の反省を踏まえ大学連盟は、より一層の発展のために全力で取り組む所存であります。今後とも、関係者の皆さまの絶大なるご支援・ご尽力をお願い申し上げます。



TO CARBON

多層の弾きに、新素材の手応え。

新素材「TOカーボン」をミズノのバットに初採用。多層構造の
飛びに加え、これまで以上に弾く打感を実現した新型エックス。
バランス設計も一から見直し、装いも新たにリニューアル。

エックス【3号革・ゴムボール用】 本体価格 ¥42,000 + 税

●TOカーボン ●φ57mm ●中国製

1CJFS10584	84cm	平均710g	ホワイト×ピンク (64710)
1CJFS10585	85cm	平均710g	ホワイト×ピンク (64710)
1CJFS10585	85cm	平均740g	ホワイト×ピンク (64740)
1CJFS10586	86cm	平均720g	ホワイト×ピンク (64720)

【総説】 運動後のクールダウンについて 2

(公財)日本ソフトボール協会医事委員長 山下 義 則

はじめに

前回、運動後のクールダウンの一般論について話しましたが、今回は運動直後のクールダウンの注意事項について話します。

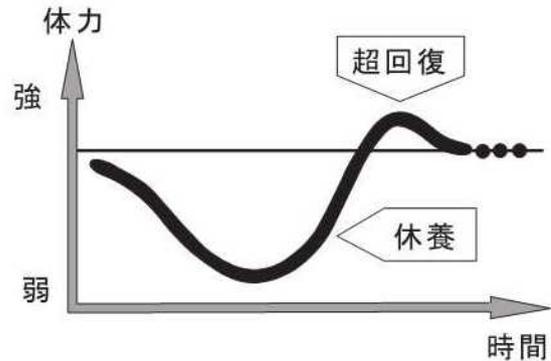
(1) 運動後の筋肉の変化

激しい運動をすればするほど、筋肉には断裂が起こります。比較的軽い運動でも医学的には筋肉の微小断裂が起きます。当然、運動量が強ければ強いほどその断裂が多くなります。その結果、激しい炎症が起きています。激しく筋肉が損傷された場合は、時として、破損された筋肉より酵素が放出され、この酵素が正常な細胞に接すれば、その細胞も壊れていきます。このため、激しい運動時は、すぐにクーリング（アイシングが望ましい）して、これ以上の筋肉損傷を避けなければなりません。軽い運動であればここまでの変化は起こりません。

この損傷した筋肉が修復されるときに、前回と同じ力では再び損傷されないように修復されます。これが超回復といわれる現象（図1）で、トレーニングにより筋力増強が起こる理由です。図2には有名なトレーニングの仕方を示します。適切なトレーニングと休息を行うことで、パフォーマンスが増大することを示しています（図2）。この超回復が起こるためには、適切な休息が必要ですが、それ以外にも筋肉の炎症がある程度収まっていることが必要です。

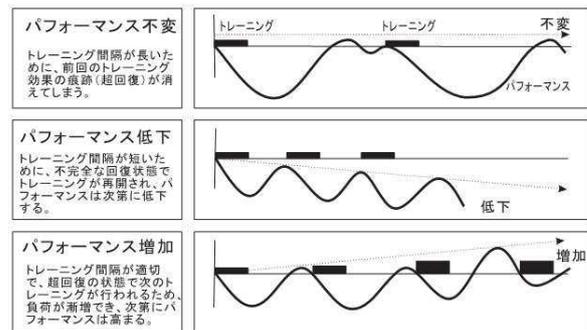
この炎症を素早く収めるために、激しい運動後はすぐにクーリング（できれば、アイシング）を行わなければなりません。クーリングすることで、激しい炎症を素早く抑え、これ以上の筋肉損傷を防ぐことができます。

運動中の選手は、心臓より多くの血液が送られてきて、筋肉が欲しがると酸素を十分に運



超回復とは、筋肉が損傷を受けると、その組織は修復するときに、同じ力では壊れないように強く修復される。超回復には、休養が必要です。

図1. 筋肉増強には超回復が必要
(オゾーリン&ロマンフ1996より改変)



川原貴・オーバートレーニングの概念と臨床像より改変

図2. トレーニング間隔の調整によるパフォーマンスの差

んでいます。しかし選手は、運動をやめるとすぐに心臓の脈拍数が少なくなり、血液の供給が下がり始めます。運動直後は筋肉内に多くの血液がありますが、筋肉は運動後も多くの酸素を必要としています。このため、筋肉内では酸素不足が起きて、低酸素障害を来すようになります。この障害を起こさせないためには、クールダウンを行い、この大量に酸素を要求している状態から平常状態に戻します。筋肉に必要な酸素量を徐々に下げる方法としては軽いランニング、急激に下げるためには、アイスバス等を使用します。

炎症が治まった後は、筋肉の修復のための十分な血行が必要です。筋肉修復のための材

料（特にアミノ酸）があり、さらに十分な血液が損傷部に運ばれてくる必要があります。

運動直後であれば、タンパク質等は、通常よりも多く吸収されます。このため、運動直後に、プロテインやアミノ酸ゼリーの摂取が勧められています。

クーリングは、冷やす温度と時間を慎重に設定し、効果的なクーリング方法を知ることが大切です。

（2）運動後の靭帯や関節の変化

激しい運動をすれば、関節・靭帯及び腱にも強い炎症を来します。この炎症に対しては、運動後に軽いジョギングなどを行うクールダウンでは、その炎症は、自然に治まるのを待っているだけで、徐々にしか改善しません。時として、軟骨損傷も来します。軟骨損傷が起これば、硝子軟骨から繊維軟骨に変化します。硝子軟骨がそのまま修復することは考えられません。この場合も含め、この関節・靭帯及び腱部は急速に炎症を改善する必要があります。このためにできるだけ早く氷を使用したクーリングが必要となります。このクーリングの方法として、最近では上肢にはアイスパック、下肢にはアイスバスが多く用いられています。大きな大会には、アイシングコーナーや疲労回復コーナー（図3）などとして、氷を用意している場合も多く見られます。



最近の大きな大会では、アイシングコーナーや疲労回復コーナーとして、氷が用意されていることが多い。

図3. アイシングコーナーの例

（3）運動直後の注意

激しい運動直後に暖めることは禁忌です。激しい運動や筋力トレーニングを行った直後

に、熱いサウナやお風呂に入ると、損傷した筋肉の炎症が収まらず、筋肉の修復が遅れ、関節炎の回復も遅れます。少し時間が経つての入浴が勧められますが、すぐに入浴したい場合は、まず下肢の冷水浴を行い体を十分冷やしたり、激しく使用した部分をシャワーなどでクーリングを行って、ほてった状態をなくして、運動前の状態になってから入浴してください。下半身の冷水浴はほとんどの競技種目で有効です。

運動直後とその後では治療方法が異なります。運動直後はクーリングを行い強い炎症を抑える必要があります。この時間は、運動強度や運動の種類で異なりますが、20分以上することは、通常ありません。運動後のクーリングでは、運動後はできるだけ早く、遅くとも30分以内に行います。これをゴールデンタイムと呼んでいます。運動直後から数時間以内でクーリングを終了し、最も激しい運動でも8時間以後は行いません。これ以降クーリングを行えば、損傷した筋肉の回復を阻害します。クーリングで通常の状態に戻れば、組織修復のために暖めて血行の改善が必要となります。

ケガをした場合は、まずアイシングによる治療が優先され、受傷直後のアイシングは、24時間から重傷の場合は72時間が勧められます。これは、組織の損傷を最低限にすることを目的としているためです。

（4）トップレベルの人のクーリング

トップレベルの人は、自分の能力を極限にまで引き出して、競技をしています。このために、体温、筋肉温も高くなります。深部温度の限界に近い39度近くまで上がっています。これ以上の温度では、長時間の競技は持続できません。運動により約40℃という高体温となれば、危機的限界レベルとされこれ以上の運動はできません（臨界温度）。

深部温度が低くければ、長時間の運動に耐えられます。この深部温度を下げるために、

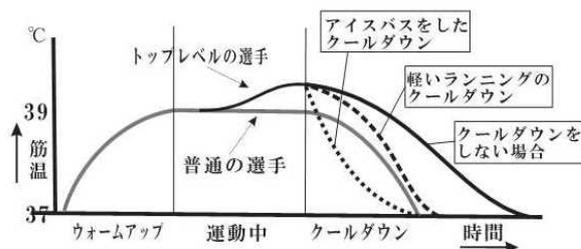
オーストラリアの身体障害者競技や自転車競技の選手は試合直前に氷（シャーベット状のスラリーアイス）を服用したり、アイスベスト（体表から温度を下げるベスト）を着用して練習する場面があります（図4）。これを「プレクーリング」と言います。



自転車競技で、アイスベストを着用して訓練するオーストラリア選手

図4. アイスベストの例

トップレベルの選手は、競技後極力早くクールダウンを行っています。このためには、ほとんどがアイスバスを使用しています。この方法は、まずは体表の温度を下げ、筋肉の温度も下げます。筋肉が必要としている酸素の必要量を下げます。さらに高まっている深部温度も下がってきます。さらに、関節や靭帯の激しい炎症も抑えてくれます。この方法は最も早く通常の状態に戻してくれます。図5に運動後に何もしない場合、ランニングなどでゆっくりクールダウンをした場合、さらにアイスバスをすぐ使用した場合の模式図を示します。トップレベルの人は、いかに早く炎症を抑えるかを考え最も効率が良いアイスバスを使用していることが解ると思えます。自分の運動レベルを考え、どのクーリング方法が早く通常の状態に戻れるかを検討してください。



トップレベルの選手は、運動直後にアイスバスを使用してクールダウンをする選手が多い。アイスバスは最も早く筋温や関節の温度を下げてくれる。

図5. 筋温の変化（模式図）

(5) アイスバスの現状

大きめのバケツや四角い容器に氷水を作って、その中に足や手などを入れてクーリングする方法です。温度の調整に氷を使用するため、アイスバスと呼ばれていますが、決して氷の中に入るものではありません。この方法は、冷やしたい部位全体がクーリングされるのでとても効果的で、下肢のクーリングに多用されています。

下肢のアイスバスを行う場合は、できるだけで下腿が横になって入るものを指導しています。下肢に水圧もかかり、心臓への負荷も立った場合よりも少ないと考えられます。

図6は有名なサッカー選手が運動直後にアイスバスを使用している写真です。（図6）



運動直後にアイスバスをしているサッカー選手

図6. アイスバスの例

アイスバスを使用する場合、入浴時間のガイドラインがあります。水温18度以上では入浴時間は30分まで、水温15～18度では入浴時間は20～25分まで、水温12～15度は15～20分

まで、水温10～12度は12～15分まで、水温7～10度は8～10分までを指導しています。水温7度未満では行いません。通常この時間で十分クーリングができると考えられます。

(6) スポーツ活動中の熱中症予防ガイドブック（日本体育協会）

平成25年度に改訂されましたスポーツ活動中の熱中症予防ガイドブックには、「運動後のアイスバス」として以下のように書かれています。

近年、氷と水を入れた水槽またはバケツ（12℃）に下肢を浸して3～5分間漬かるアイスバスが、競技現場で頻繁に利用されるようになってきました。これは、菌の微細な損傷への対処や上昇した筋温を素早く下げることが狙ったものです。施設が整っている場合は、アイスバスを用いた冷水浴と温浴の交代浴による疲労回復法が活用されます。ストレッチ後のクールダウン後にアイスバスで下肢を冷却することも行われています。また、1日に複数試合が行われる場合などは、試合との間に用いると効果的であると言われてい

(7) 子供のクーリングについて

子供に運動後のクーリングについて話します。上肢・下肢にアイスパックを使用する場合は、氷嚢には、SOFT ICE BAGや専用の容器を使用した少量の水を入れてください。ビニール袋では冷感が強く、いやがることもあります。通常は、5～10分で、クーリングを終了してください。（図7）

【編集部註】

山下先生には4回にわたり、ソフトボールに特化したアイシングとクールダウンについて、貴重な情報をご提供いただきました。記して御礼申し上げます。



子供のサッカー選手も、運動直後にはアイシングを行っている。

図7. 子供のアイシング

下肢のアイスバスの場合、子供は冷感に対しての耐性が低いため、まず20℃前後の冷水で開始してください。慣れてくれば、適正温度（通常は、15～20℃で5～10分）での冷水を使用する事ができます。

さらに、2つの試合が同じ日にある場合がありますが、ほとんどの試合は、1時間以上の間隔が開いているので、最初の試合後は、必ずクーリングを行ってください。子供では、試合終了後もエネルギーの消費は大きいため、5～10分のクーリングでも、かなりエネルギーの消費が抑えられます。また、クーリング後にウォーミングアップをすれば、その必要時間は短くて済みます。

運動後のクーリングを十分理解して、良いコンディショニングを作ってください。

【特集】 男子ソフトボールの魅力!!

ソフトボールの魅力とこれから ～押川尚生氏へのインタビューから～

全日本学連事務局長 森田 啓之

今回は、ソフトボールの黎明期に選手として活躍し、大学卒業後は教員・指導者として、さらには協会役員として現在まで献身的にソフトボールに関わっておられる押川尚生氏に、インタビューという形で「ソフトボールへの思い」を語ってもらった。主なテーマは、(1)男子ソフトボールの魅力、(2)男子ソフトボールの課題とした。なお、インタビューの中身に入る前に、押川氏の経歴を紹介しておく。

《プロフィール紹介》

日本体育大学ソフトボール部出身。第1回全日本大学選手権大会（今年度で52回を数える）における選手宣誓者。大学卒業後は、出身地である宮崎県に戻り、教員生活の中で顧問としてソフトボールに関わると同時に、日本ソフトボール協会の役員、さらには今年度まで宮崎県並びに九州協会の理事長をしてこられた。

主管する大会中では、理事長自らゴミ拾いをしたり、ボランティアの中学生や高校生、大人に至るまで気さくに声をかけたりなど、ソフトボールを愛してやまない方である。これまで、全日本大学選手権大会や西日本大学選手権大会を宮崎で開催した際には大変お世話にもなっている。

【森田】まずは、先生とソフトボールの関わりについてお話しいただけますでしょうか。

【押川】私は中学生の頃は、主に野球をしていました。ただ、当時は1つだけの種目ではなく、複数種目やったりもしてまして、軟式テニスもしていました。また、学校にはサッカー部がなかったので、メンバーが集まって即席でしたがチームを作って、大会にも出場しました。県大会で2位になったのは懐かしい思い出です。

【森田】1つのことだけに集中しすぎるとということが批判的に言われる現在からすれば、ある意味で、中学生らしい部活動だったとも言えますね。

【押川】高校では、腰を痛めてしまった関係で部活動は特段していなかったのですが、両親が小学校の教員をしていた関係や影響があったのか、「教員になりたい」、そして運動が大好きだったので「体育の先生になりたい」という思いで、日体大に進学しました。入学した時はサッカーをやりたいかたのですが、4年に在籍してサッカーをやっていた兄に「俺とは別のことをやれ！」言われ、さらに同じ宮崎出身の1つ上と2つ上の先輩がソフトボール部にいたこともあって、ソフトボール部の門をたたいたというのが、私とソフトボールとの最初の関わりです。

【森田】正直なところ意外でした。日体大で主将を務められた方に、そのような過去があったとは(笑)。

【森田】大学で初めてソフトボールに触れられたわけですが、どのような印象を持ちましたでしょうか。例えば、野球と異なる部分とか…

【押川】そうですね。まず、ソフトボールの「スピード感」、そして「瞬時の判断力」が求められるところが驚きでもあり、新鮮でした。野球では、一呼吸おいてということも許されますが、ソフトボールでも特に男子では一瞬の決断や迷いがプレーの分かれ目となりますからね。

【森田】私も、弱小チームですが男・女のチームの監督をさせてもらっています。まず野球と同じ動作ですが、求められる動きが全く違いますし、さらに同じ種目であっても男子のソフトボールと女子のソフトボールでは全く違う感じがしていま

す。

ちなみに、当時の日体大部長であり監督だった下奥先生とはどのような関わりだったのでしょうか。

【押川】下奥先生は当時、私たちが男子であったことも関係しているのか、「自分たちでやれ」という感じでした。もちろん、試合ではサインを出すなど采配を振るってもらっているのですが、それが私たちがうれしかったことは覚えていますし、そのためにも上手くなろうとしましたね。

【森田】卒業後は、宮崎に戻られたんですね。

【押川】当時の教員採用試験は中学校と高校の両方を受験することができたのですが、幸運にも両方通ることができました。ただ、採用され配属されたのは日南市の中学校で、そこで女子のソフトボール部の顧問となり、そこから指導者としてのスタートを切ることになりました。

【森田】これまた意外でした。私の勝手なイメージかもしれませんが、押川先生は男子ソフトボールの指導者とばかり思っておりました。

【押川】その後、6年間、4年間と2つの中学校で顧問をしました。ただ、県での優勝というところまでは行かず、4位入賞が最高でした。

【森田】そのような先生が、男子のソフトボールに関わるようになった契機（きっかけ）は何だったのでしょうか。

【押川】その当時、宮崎県には昭和54（1979）年の宮崎国体に向けてソフトボールを強化するという課題がありました。国体チームとして女子チームの監督はいたのですが、男子チームの監督が不在だったもので、どうやら私に白羽の矢が立ったようです。男子ソフトボールは未成熟種目と位置付けられ、特に高校男子の強化が急務という事情がありました。それで、中学校籍から高校籍に移動となり、高校男子のチームを指導するようになったというわけです。以降、後輩の先生方の協力も得ながら、宮崎県の高男子のレベルアップが飛躍的に進んでいったと思っています。そこから約20年間男子の指導に携わりました。ちなみに、最後の3年間は、再び女子の指導者となりまして、

教員生活を終えた次第です。

【森田】確かに、大学や社会人でプレーしている男子プレーヤーの中には、宮崎県の高出身者は多いですね。具体的には、日向工業や日向高校といった名前がずっと出てきます。

【森田】当時の宮崎県の高男子チームのレベルをアップしたり活性化するために有効だったこと、役立ったことは何でしょうか。

【押川】旭化成は今でも西日本男子リーグで活発に活動していますが、「少年男子の強化」という意味では、日体大が継続して宮崎に合宿に来てくれたことは大きかったですね。高校生にとって、大学生と一緒にプレーしたり試合したりするという機会は、少数の学校ということでマンネリ化しがちな高校生のソフトボール経験を魅力的、刺激的にしてくれ、自分たちの一步先の姿を目標として生徒たちに垣間見させることができたと思っています。今も感謝です。

【森田】どの種目でも、学校部活動の活性化ということで、上や下の学校段階や世代のメンバーと一緒に活動することが盛んに言われていますが、子供たちがソフトボールを継続し、またさらに普及させていく上で、非常に重要なことですね。

【森田】ところで、「男子のソフトボールの魅力」とは何だと思われますか。先に申しましたように、私も男・女のチームを持ち、さらには大学連盟役員として両方のトップ選手の試合やプレイを見ていますが、同じ種目でありながら、かなり異なる部分（魅力）があるといつも感じています。いかがでしょうか。

【押川】そうですね。まず、投手一捕手間の距離が1m長くなっていることが、投球にも打撃にもかなり影響していると思います。現在の投手は男女ともに、上下左右の変化球が求められる時代になっていますが、その変化量が男子は大きいですね。当然ですが、それに対応する打撃も求められます。

【森田】そのためでしょうか。私は、男子のゲー

ムを見ていて、「投手と打者との真剣勝負」みたいな感じを強く持っています。

【押川】さらに当然のことですが、走力についても男子の敏捷性は目を見張るものがあります。男子の動きを見慣れてしまうと、女子はかなり遅く感じてしまいます。男子の魅力として、先ほどの「投手と打者のぶつかり合い」や「足を絡めた攻撃やそれに対する守備のスピード」は大事にしてほしいですね。

【森田】今のお話を伺っていると、私は、ソフトボールは集団競技（点を取り合う）ですが、ある意味、個人競技として「動きの質」にも着目してほしいということかなと思いました。男子のソフトボールでは、「一つひとつのプレイの凄さ」も見たいということですかね。

【森田】最後に、「男子ソフトボールの課題」というテーマに移らせて下さい。現在は、オリンピック競技での扱いに表れているように、ソフトボールは女子の種目というイメージがあるのですが、それを払拭してより男子のソフトボールを多くの人に知ってもらい、プレイしてもらうためには何が必要だと思われませんか。

【押川】九州、宮崎だけかもしれませんが、大人のソフトボール人口は、ゴムボールですが結構チーム数は多いんですよ。また、小学校段階でも男子のチームはそこそこあります。ところが、中学校段階の子どもたちの主な活動場である部活動には、男子のソフトボールがあまりない状況です。九州ならば、宮崎、長崎、沖縄くらいかな。さらにチーム数的にも決して多くない。小学生でソフトボールをやっていて、次の段階でも継続して希望するにもかかわらず、それがかなわないために他の種目にトラバユする、そんなパターンがかなり多いと思われませんか。

ですので、高校部活動につながる中学生時期をどうしていくのが喫緊の課題だと強く認識して

います。ただ、学校部活動自体も少子化により種目選択の幅はどんどん狭くなっている状況で、考えるべきは「クラブチームの育成」しかないかと。ここ数年、鹿児島、熊本、長崎ではクラブチームが少しずつ増えて、U13代表選手に九州のチームから多く選出されています。高校や大学でプレイした人たちが社会人として地元の子どもの教える、そんな循環が広まりつつあります。特に、大村、島原、天草という地域はそれができていると思います。なかなか簡単なことではないのですが、さっき話をしたような「野球とは異なるソフトボールの魅力」を学校段階の壁を越えて絶やさないようにすること、それに尽きるのではないかと考えます。

【森田】小学校でソフトボールに触れた子どもを高校生までつないでいく、さらに野球とは異なる楽しさがあることをより多くの小学生や中学生に知ってもらうこと、こういう地道な取り組みしかないかもしれませんね。

あと、男子の大学ソフトボールに関しては、しばしば「マナー問題」が言われてきたのですが、どうお考えですか。

【押川】これについては長らく色々なところで指摘されてきましたが、最近には本当にグラウンド内外での行動や振る舞いは良くなってきたと思います。一番の課題は「ソフトボールという魅力ある競技をやっているんだという『自負』と『愛着』、そして未来につなぐ『責任感』をいかに彼ら選手の中に宿していくか」だと思います。その意味で、私はすべての大会で「入場行進」をさせてやりたいし、やってほしいと考えています。指導者はもちろん、協会関係者、多くの大人が一緒になって、この「素敵なソフトボールを未来につなぐ」意識を大事にしていくかが、男子ソフトボールの課題だと思っています。

【森田】本日は、貴重なお話をありがとうございました。

男子ソフトボールの魅力 ～大学の役割と今後の課題～

東京理科大学 柳田 信也

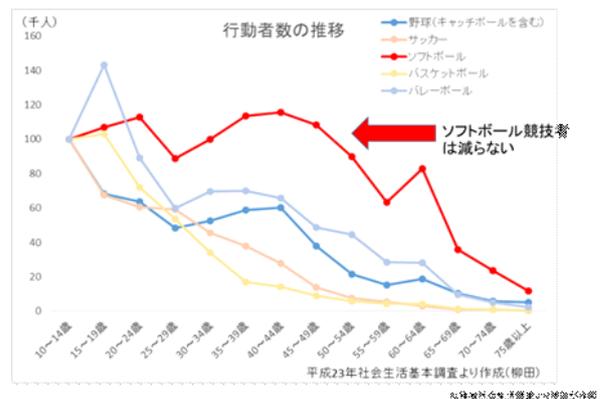
【男子ソフトボールの魅力と現状】

2016年7月、アメリカ合衆国ミシガン州ミッドランドにおいて開催された第11回世界男子ジュニアソフトボール選手権大会において、U-19日本代表が見事世界一を勝ち取りました。実に第1回大会以来、35年ぶり2度目の快挙となり、男子ソフトボール界にとって明るいニュースとなりました。このメンバーの中には、7人の大学生が含まれており、さらには当時高校生であった選手も、多くのメンバーが大学に進学し、全日本大学連盟の一員として活躍をしています。つまり、現在の全日本大学連盟主催の男子の試合は、世界最高峰のレベルで行われていると言っても過言ではありません。

最近の男子ソフトボールは、投手の球速が130kmを超す世界に入っています。よく「野球に換算すると何キロぐらい？」と言われますが、単純に換算することはできない時間と空間の差異があると思われまます。北京オリンピックの際に、上野由紀子投手が、その剛速球で相手打者のバットを折り、大きな話題となりました。しかし、男子ソフトボールではバットが折れることは、大学生においても特段珍しいことではありません。さらに、もちろん投手の球速がもたらす迫力は観衆を驚愕するものですが、その球速かつ変化するボールを容易に捕球している捕手や、それを打ち返す打者のパワーや技術、狭いフィールドの中で目を見張る速度でフィールディングを行う野手の能力は、野球や女子ソフトボール選手を凌駕する男子ソフトボールの魅力ではないでしょうか。これは関係者であれば誰もが理解していることであると思えます。

もう一つ、男子ソフトボールの魅力を考える重要なポイントは、生涯スポーツとしての価値が高いことにあります。日本ソフトボール協会に登録

している選手数は、小学生男子が20,000人を超えているのに対し、女子は5,000人未満です。また、生涯種別（一般～ハイシニア）においても圧倒的に男子の登録者数が多い状況です。男子の生涯種別の登録者数は実に、60,000人を超えるほどです。さらに、野球やサッカーなどの競技は、年齢とともに競技人口が激減していきませんが、ソフトボールは減少しにくいということもわかっています（下図）。生涯スポーツ、いわゆる「する」スポーツとしての、男子ソフトボールは我が国において、確固たる地位を確立していると言えます。



【男子ソフトボールの普及・強化の課題】

今年（2017年）、日本ソフトボール協会男子ソフトボール活性化プロジェクトが発足し、さまざまな角度から男子ソフトボールの普及と強化について議論が重ねられています。筆者もそのメンバーとして会議に参加する中で、2つのことに課題意識を持っています。ひとつは、中学生・高校生カテゴリーの競技者の少なさです。前述したように小学生と生涯種別においては多くの競技者を抱えているものの、中学生、高校生の登録数は女子が上回ります。2つ目の課題は、男子が目標とする大会が少ないことです。オリンピックは当然のことながら、アジア大会、ユニバーシアード等、国際オリンピック委員会がかかわる大会の実現が望

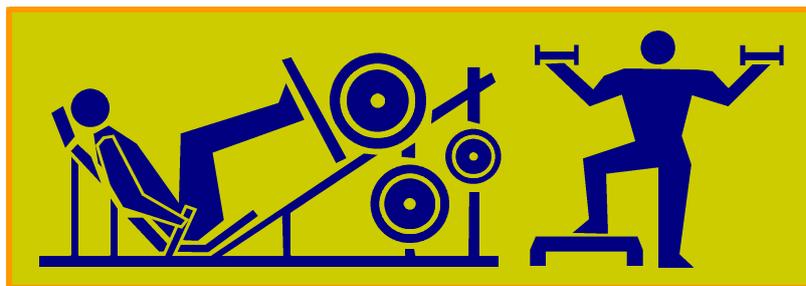
まれます。多くの人の競技スポーツの入り口である“部活”のイメージ、またオリンピックの効果でソフトボールは女子の競技としてイメージが定着していると推測できます。高校と直結し、TOP日本代表選手にも選出される大学カテゴリーの充実や発展はこの課題解決に必須なものです。中学生や高校生との積極的な交流が実現すると良いかもしれません。特に革ボールで試合を行うGEM2 (U-16) やGEM3 (U-19) 日本代表と大学チームの交流試合などは魅力的です。また、GEM4 (U-23) や大学日本代表の常設化に向けて努力することも必要です。

さらに、これからの課題は、「みる」スポーツとして、男子ソフトボールを如何にアピールしていくことができるかにかかっています。冒頭で述べた世界ジュニア選手権の快挙をどれだけの方が認識しているのでしょうか？もしかすると競技者の中でも知らなかった人がいるかもしれません。また、前述したように男子の競技者（成人）が多いにもかかわらず、女子のスポーツという認識が広まっているのはなぜでしょうか？このような問いに答えることで、男子ソフトボールの普及や強化に向けた活性方法が明確になります。この問題解消の近道は、メディアに取り上げられるようになることです。どうすれば、メディアに取り上げて

もらえる存在になるのかを考えることが急務です。そのために、最高学府である大学の役割は大きいものがあります。大学男子ソフトボールに関わったメンバーが、まず男子ソフトボールの魅力を理解し、正しく発信することが第一歩かもしれません。卒業後に社会を牽引するリーダーとなって、男子ソフトボール界を改革する人物を大学連盟から発掘、育成していくことが望まれます。

しかしながら、いきなり大きな改革は困難です。今すぐにできることと、将来的にやりたいことを明確にし、改革に取り組んでいくことが大切であると考えます。例えば、我々の基礎である全日本大学選手権大会の改善は、すぐにできることです。SNSを活用した情報発信の充実や、インターネットを介した動画配信などを通して広報活動を展開し、広告宣伝を得られるような大会として発展させていく活動に即自的な効果が期待されます。積極的に取り組んでいきたいと考えています。

男子ソフトボールを「する」スポーツから「みる」スポーツにも昇華させ、サポーターを増やし、いつの日かオリンピックの舞台で観ることができると願っています。そのために、「みられる」側の教育を忘れずに全日本大学連盟が主導をしていくことが大切ではないでしょうか。



私のソフトボールライフ

環太平洋大学 西村 信紀

はじめに

2007年岡山県岡山市東区瀬戸町に全国22番目の体育大学として環太平洋大学が開学しました。私は体育会事務局に勤務し、男子ソフトボール部監督に就任しました。2017年で創部10年目を迎え大学での公式戦戦績128勝20敗1分、全日本インカレ優勝2回、西日本インカレ優勝5回を数えています。

ソフトボールとの出会い（～学生時代）

小学校5年生の時に転校した高知県吾川郡伊野町にある小学校（枝川小学校）に恩師の川崎慶次郎先生が赴任した時にソフトボール部を創部しクラブ活動で指導を仰いだことがソフトボールとの出会いとなりました。この川崎先生から教えていただいた投げ方が私の基本動作のすべてのルーツとなりました。当時は昼休みと放課後に毎日、延々と投げていた思い出がありますね、最終成績は県大会準優勝が最高成績でした。投げ過ぎが原因で6年生時に野球肘となり中学校の前半（野球時代）は痛みにより送球すらできない状態でした。郡部から再び高知市内に転校（西部中学校）し在学中は大した戦績は残せませんでした。高校（高知商業）に進み当初は野球で上を目指していましたが、1年次に（色々もあり（苦笑））退部し2年次ソフトボール部に入部して競技スポーツとしてのソフトボールがスタートしました。詳しい戦績はあまり覚えてないのですが、3年最後の高校総体県予選で強豪の高知学芸高校に自分の守備失策で敗れて3位となり、四国大会に進んだものの再び高知学芸高校に敗れて優勝経験も全国大会への出場も一度も出来ませんでした。

クラブチームに所属

卒業してすぐ闘犬センターに入社・入部しキャリアスタートとなりますが、当初ボールは速いが

コントロールが悪く順風満帆なスタートとは言えませんでしたね。（苦笑）

当時のチームメイト（先輩方）は日本代表選手がたくさんいたので試合中は厳しく指導され試合中に気を緩めるようなことはなかったですね。クラブチームということもあり、練習は平日ナイター2回と日曜日の午後から1回の合計3回の練習が通常だったのでチームのテーマとしては「いかに練習せずに勝つか？」でした。練習量を補うのは各自の自主練習がメインとなっていたので、職場である高知市の観光地の桂浜で走り込みや坂本龍馬銅像近くでピッチング練習を行いましたね。少ない練習時間・練習量の中でいかに効率良くスキルアップとレベルアップに繋げて行くかということです。1985年に第2回世界ジュニア選手権に主将として参加して最終成績は4位に終わりましたがチームは確実に力を付けていたのであるU-19代表チームでもう少し長く活動したかったですね。チームメイトの中には教員の道に進んだ選手、日本リーグに進み活躍して日本のソフトボール界を牽引して実業団の監督を務めた選手もいました。高校時代に野球を続けていたら小学校でソフトボールに出会っていなかったら違う世界で生きていたのかも知れません。

New Zealandへ武者修行

1988年に私に大きな転機が訪れることになりました。当時の闘犬センター社長・故弘瀬勝氏より「New Zealandへ武者修行に行ってくい」ということでNew Zealandの（故）レスター・ボールドウィン氏に協力を仰ぎホームステイでピッチング練習することになり滞在期間は短期間で2週間程度だったと思います。当時、世界の投手のウイニングショットであるドロップボールの習得を目標としてNew Zealandで三本指に数えられる投手（故）ポール

・マゲーンに弟子入りして、ほぼ毎日ですが高校生の子を相手にピッチング練習を行いました。自分的には体の使い方について（腰が先か腕が先か？など素朴な疑問を持ちながら）黙々と投げ込みました。その練習が実を結び開花したのは帰国してしばらく後のこととなりました。当初は右バッターボックスの足元付近にしか投げられなかったボールがキャッチャーに近づくと連れてボールの切れが増し、スピードはMaxが5^{km/h}以上アップしました。当時の記録ですが、1988年の日本リーグで打者数290、打数277に対して奪三振が140個と数字だけ見ると驚異的な数字ですね。現役通算（1985年～2005年）20年間で奪三振1705個とこの数字には現在の投手がイエローボールで追いつくのは不可能な数字となってしまいました。理由としてはボールの扱いが難しく俗にいうボールの切れが出にくい、また打者のレベルアップとオリンピックを境にメーカーが製造するバットのポテンシャルがアップとなり投手受難の時代だと言えらると思います。現在の投手はイエローボールでのスタートですから違和感は無いです。高校生が使用するゴムボールからのイエローボールへのスイッチも非常に大変であると思います。ただ現在、日本の投手も130^{km/h}をマークする投手が現れてきています。

現役時代（国内・海外）

多くの思い出がありますが、機会があれば披露したいと思います。

●世界選手権で代表チームを指揮

2009年ISF世界ソフトボール連盟の会議で選手部門での殿堂入り（日本人選手としては三宅豊氏に続き二人目）が決定しました。実績と戦績が評価されたもので、数々の戦いを一緒に戦ってくれたチームメイトに感謝しています。勝利数に関しては自分一人でこの記録を達成できるものではありません。この殿堂入りを境に引退して止まっていた時計が一気に進み始めました。公私共に平林金属（株）にお世話になっていたのが2008年に選手登録（復帰）、チームの遠征にアドバイザー的な立場

で帯同しリーグチームとの試合や交流を深めてその経験を大学の部活指導の現場に生かしたいと考えました。また、（公財）日本ソフトボール協会の技術副委員長と男子強化委員を兼務し強化にも携わることになり、男子の代表監督をすることになりました。一時は引退していたため世界の情勢がわからず苦戦の連続でした。選手戦い易い環境をつくりを心掛けてコミュニケーションをスタッフと連携して取り、世界を意識した選手選考とチーム作りを行いました。経験の少ない選手を短い期間で時間と費用にも制限がある中で世界と戦うチーム作りが課題でした。本大会では全体的にベテラン選手がチームを牽引してくれて何とか形になり5位は死守できましたが力の差は歴然であり、ワランク上のチームに勝利することは並大抵のことではありません。最速136^{km/h}のアダムス・フォーカードを筆頭に世界の投手のスピードがケタ違いに上がっていました。全体的に打者は連打が厳しいためフルスイングでの一発で試合が決するゲームが多くなり、日本チームはその世界の流れにあがなえず苦戦が続き現在5位に低迷しています。しかし、この5位という位置も今後は厳しく中米や中南米チームと実力的には僅差であり上を狙う所か喰われてしまう恐れもあり若手の選手の育成とトップリーグのレベルアップが急務となっています。

●全日本大学選手権

2017年の全日本男子大学選手権は日本体育大学と国士舘大学の決勝となり、日本体育大学の8年ぶり29回目の優勝で幕を閉じました。2年連続で決勝に進んだ国士舘大学は2年続けてのタイブレークでの敗戦で非常に残念な結果となりましたが、東京代表のこの2大学は間違いなく大学男子ソフトボール界を牽引しています。多くの選手には次のステップでは是非日本ソフトボール界をリードしてもらいたいですね。そして将来は代表入りして世界を相手に優勝争いできれば良いですね。

2017年度の全日本代表選手は高橋速水投手、森勇紀投手、片岡大洋選手、古敷谷亮選手（日体大

卒) 松田光投手 (京産大卒) 浦本大嗣選手、澤田優生選手 (国士舘大卒) など大学時代にも輝かしい経歴の選手が現在の日本代表を牽引しています。今、大学に在学している選手も学業を通じ人間性を高め、しっかりスキルアップとレベルアップをして経験を積み上げて羽ばたいてもらいたいです。

終わりに

私は高校卒業後にすぐ就職しクラブチームに所属し日本リーグで実績を重ねて日本一を経験し長年にわたり世界にチャレンジすることが出来ました。自分が歩んできたソフトボールライフでは、たくさんの方々との出会いがあり切磋琢磨し時には協力し合って築きあがった人とのつながりが私の大きな財産となりました。ソフトボールを通じ環太平洋大学に就職し51歳となった今も、講習会や大学での日々の練習や平林金属に帯同し日本リーグと携わり大会を通じて現在もたくさんの先輩方や友人と繋がりが広がっています。

ソフトボールに育ててもらった恩を、たくさんの方々にソフトボールを通じて出会いや技術指導が競技力向上に繋がり恩返しできれば幸いです。男子のソフトボール競技は未だにアジア競技やオリンピック種目ではありません。しかし、東京オリンピックが目の前に迫っている女子ソフトボール種目を日本ソフトボール界全体でサポートし盛り上げ応援し成功させたいですね。その後の目標としてハードルはまだまま高いですが未来には男子も種目入りが出来れば良いですね。大学生には教育者として指導者として選手育成にも携わり良い選手を輩出してくれることを期待しています。大学の環境は少子化の問題もあり生徒数の減少は否めず一極集中型、都市圏集中型となっています。大学を選択した学生は少なからず文武両道が理想であり社会が求めている人材への成長が義務付けられ各大学も取り組んでいることと思います。本学を含めて地方の大学は、選手確保と育成を目標にして活性化を図り都市圏に負けず男子ソフトボール界を盛り上げていきたいですね。

プロフィール

- 1966年 10月5日生まれ (高知県高知市)
- 1985年 闘犬センター入部 (高知県)
- 2002年 オール高知 (チーム名改名)
- 2003年 大阪グローバル移籍 (大阪府)
- 2005年 退部 (引退)
- 2007年 環太平洋大学開学 男子ソフトボール部監督就任
- 2008年～ 平林金属ソフトボールクラブ入部 (岡山県) 復帰
- 2009年 ISF世界ソフトボール連盟殿堂入り (選手部門: 日本人として二人目)

戦績 (国際大会)

- 1985～2005年 364戦 260勝45敗1分
- 1988年 第7回世界選手権 (カナダ) 第5位
- 1992年 第8回世界選手権 (フィリピン) 第4位
- 1996年 第9回世界選手権 (アメリカ) 第3位
- 2000年 第10回世界選手権 (南アフリカ) 準優勝
- 2004年 第11回世界選手権 (ニュージーランド) 第5位
- 2013年・2015年世界選手権 日本代表監督就任

戦績 (国内大会)

- 日本男子リーグ
 - 優勝15回 (7連覇を含む) 闘犬センター・オール高知・大阪グローバル
- 日本男子リーグ決勝トーナメント
 - 2005年優勝 (大阪グローバル)
- 日本ソフトボール選手権優勝6回
- 全日本総合選手権 優勝2回
- 全日本クラブ選手権 優勝5回
- 国民体育大会 優勝9回 (4連覇・3連覇含む)
- 完全試合9回達成
- 現在、環太平洋大学監督、(公財)日本ソフトボール協会技術副委員長、中国ソフトボール協会技術委員長、岡山県ソフトボール協会技術副委員長、全日本大学ソフトボール連盟常任理事を兼任。

【卒論要約】 高校卒業後のソフトボール継続に関する意識調査 ～長野県高校女子ソフトボール部員を対象として～

松本大学人間健康学部スポーツ健康学科 北川原 芽生
(指導教員 岩間 英明)

I はじめに (動機・目的)

筆者は大学在学の4年間のすべての年度で、全国大会に出場したが、長野県の高校出身者は非常に少ない印象があった。

例えば平成29年度文部科学大臣杯第52回全日本大学女子ソフトボール選手権大会に出場している大学の選手登録を調べてみても、やはり長野県の高校出身者は9名と47都道府県中28位で、本学を除くと僅かに4名であった。また、過去3年間の同大会の登録選手数をみても、全登録選手1386名のうち、長野県の高校出身者は21名で、全体の1.5%に過ぎず、こうした傾向は今年度だけのことではないことが分かった。こうした事実から、長野県では高校卒業後、大学でソフトボールを継続する人が少ないと言える。

さらに、実業団でも同様の傾向が見られ、日本女子リーグ1部、2部に所属する長野県の高校出身者は1名、長野県出身で長野県外の高校出身の選手も1名しかいない状況である。

その他にも、筆者の所属チームでは、長野県内の小学生、中学生、高校生チームを対象に、大学生がソフトボール指導を行う「金の卵プロジェクト」という活動を8年間にわたり続けてきたが、この活動においても、ここ数年は年を経る毎にチーム数が激減し、ソフトボールを行う子どもの数が少なくなっている状況が著しい。以上、述べてきたような現状から、長野県のソフトボール人口の減少傾向について、その原因を探ってみたいと考えたことが、本研究を始める契機となった。

そこで本研究の目的は、長野県高校女子ソフトボール部員を対象に、高校卒業後のソフトボールに関する意識調査を行い、卒業後のソフトボール継続についての意識及び、その

背景を明らかにし、長野県においてソフトボール人口を増やすための課題を提示することにある。

II 研究方法

1. 調査対象

女子ソフトボール部がある長野県内の高校全22校の1年生から3年生までの部員全312名を対象とし、調査用紙を配布した。その結果134名から回答を得ることができた。回収率は42.9%であった。

2. 研究方法

研究方法は対象者に対して無記名自記式質問紙法(アンケート)による調査とした。回答は選択式を用いた。

III 結果と考察

1. 経験年数

図1はソフトボールの経験年数に関する結果である。

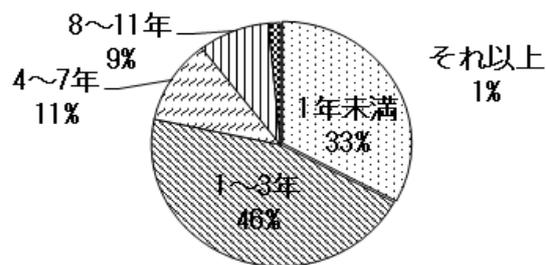


図1 ソフトボール経験年数

1年未満、1~3年と回答した割合は全体の約80%で、高校からソフトボールを始めた部員が圧倒的に多いことがわかる。この結果から考えれば、長野県の小学校ならびに中学校で、ソフトボールを行う「環境」や「場」が少ないのではないかと推測される。実際、日本ソフトボール協会にチーム登録をしている長野県のチーム数をみても、小

学校19チーム、中学校13チーム、高校24チーム)と、中学校のチーム数が小学校に比べて少ない。

これらのことから高校からソフトボールを始める部員が多い理由として、中学校のチーム数が少ないため、ソフトボールに興味を持っていたとしても、中学校ではプレーの機会がなく、高校入学後によりやうくソフトボール部に入部して活動するという図式となっており、結果として経験年数が短いということになっていると考えられる。

先行研究でも、中学校の部活動に取り組むまでに、ソフトボールを実施する機会に恵まれていないためソフトボールに参加する部員が少ない)ことが指摘されてきたが、長野県の場合は中学校の部活動が圧倒的に少ないことが大きな要因となっていると考えられる。そのため、地域スポーツとして外部指導者を活用しチーム数を増やしソフトボール参加を促していく必要があるのではないだろうか。

しかし、高校において4年以上の経験者、すなわち高校入学前からソフトボールに取り組んできた部員はわずか21%・15名しかいないという現実も一方ではある。これは小・中学校ではソフトボールを行っていたが、高校ではソフトボール部には入らないという人の存在も少なくないことを示している。このことと併せ考えると、“小学校や中学校におけるソフトボール環境が無い”ということだけの問題ではないことを示唆している。

2. ソフトボール継続について

図2は高校卒業後のソフトボール継続に関する結果である。高校卒業後はソフトボールを継続しない部員が全体のおよそ90%を占めている。

図3は高校卒業後ソフトボールを継続すると回答した16名の継続先である。最も選択が多かったのは約40%にあたる「大学（体育会、部活動）」であり、高校卒業後も大学で卒業や各種資格取得を目指し、学びながら、ソフトボールをやりたいと考えていると推察

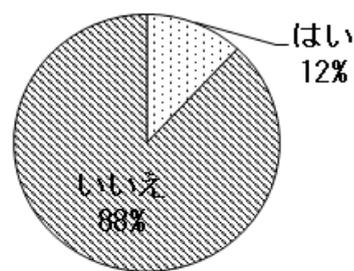


図2 ソフトボール継続に関する意識

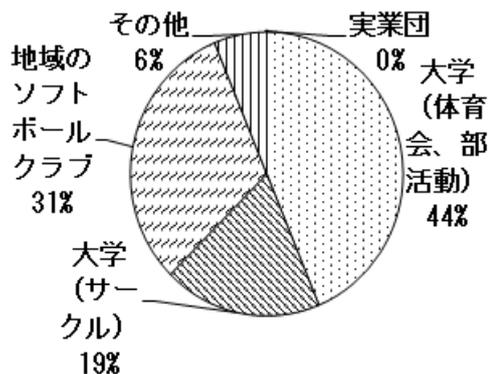


図3 ソフトボール継続先

される。また、「実業団」で続けたいと考えている部員は0名であった。実業団のソフトボールは他に比べレベルが高く、通用する自信がないのではないかと推測される。またそれに加えて、ソフトボールをすることで生活の糧を得ることへの不安や抵抗感があるのではないかと推察される。

2番目に多かった「地域のソフトボールクラブ」では、幅広い年代が集まり交流できる点から、高校とは違ったソフトボールができる。特に、総合型地域ソフトボールクラブでは、身近な地域でスポーツに親しむことができ、多世代で多種目のスポーツを楽しむ人がそれぞれの志向やレベルに合わせて参加できるという特徴がある)。高校で厳しく部活動をしてきたことが逆に地域と交流をしながら多志向の中で、楽しくソフトボールを行いたいと考えている部員が多いと考えられる。

図4はソフトボール継続者16名が継続する理由について、複数回答されたものの割合を示したものである。最も多かった理由は「仲間づくり」であった。「技術力向上」を上回っていることから、まずはソフトボールを通じて仲間を増やしていきたいと考えていること

がわかる。ソフトボールはチームの仲間との信頼関係や団結力がプレーをする上で必要不可欠なものである。練習や試合を通して、仲間のために支援したり貢献したりするプレーが大部分を占める。そのため、ソフトボールは仲間との関係が深く、チームメイトとの絆

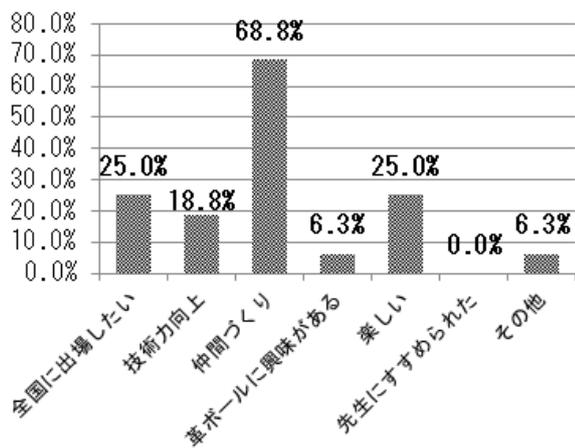


図4 ソフトボール継続の理由

は大変強いスポーツのひとつである。ソフトボール経験者はそれまでの活動を通して、ソフトボールの仲間づくりを体験的に理解し、ソフトボールのプレイ性の魅力とともに、コミュニケーションツールとしての価値を見出しているため、ソフトボールを継続しようと考えているのではないかと推察される。

図5は高校卒業後ソフトボールを継続しないと回答した118名に対して、現時点における卒業後の方向についての質問結果である。大学進学を希望している部員が約半数と最も多く、次いで専門学校進学で、上級学校への進学を希望している部員が多い。

図6は非継続者のソフトボールを継続しない理由について複数回答されたものの割合を示したものである。4分の3以上が大学、専門学校への進学を希望していることから、「学業に専念したい」という回答が最も多かった。進学する部員の多くは、将来の仕事とつなげて考えており、大学や専門学校において将来の仕事に役立つものが得られることを期待しているからだと推測される)。そのため、ソフトボールを継続することで十分な学習時間の確保が難しくなると考え、ソフトボールを

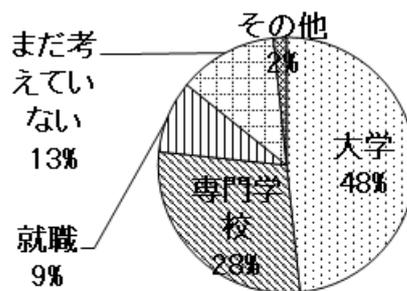


図5 高校卒業後の方向性

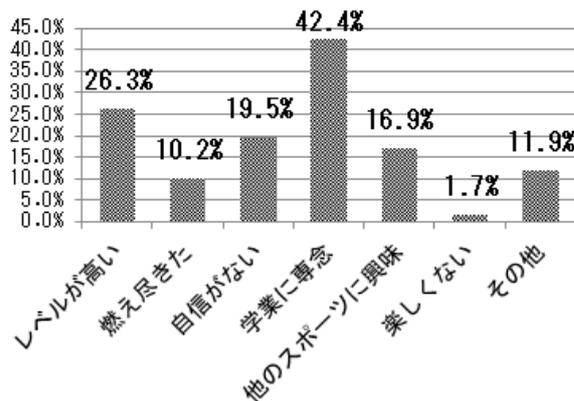


図6 ソフトボールを継続しない理由

継続しないと回答する部員が多くなっていると推察される。

次いで「レベルが高い」、「自信がない」という回答も多かった。ソフトボールを実業団や大学で続けることに対して、自己の競技力では、そのレベルでは通用しないのではないかと不安があるものと考えられる。また、その他の項目の「自分の行きたい大学にソフトボールのチームがない」という回答も注目される。「楽しくない」という理由でソフトボールを継続しないと回答した部員は1.7%と少ないことから、ソフトボール自体には魅力を感じているものの、望んでいる進路にソフトボール環境がないことが理由で継続できないとする部員もいることがわかる。しかし、この点については現実的には多くの難しい問題が存在している。その一つが指導者の問題である。大学も含めた学校の部活動という枠組みの中で、ソフトボールを行うということに関しては、ソフトボール経験を持つ教員の不足があり、結果的にはソフトボール未経験者の教員が指導せざるを得ず、十分

な技術指導ができないというのが現実の姿である)。また、少子化による部活動の縮小、社会的問題となっている教員の多忙化の問題も背景にあり、現在の状況のまま、学校の部活動を増やしていく、あるいは維持していくという方向性を打ち出すことは難しい。

そこには我が国の他のスポーツと同様の問題が存在しており、これまで学校体育(部活動)が牽引してきた状況を改め、地域やソフトボール協会が主体となりソフトボールの普及や強化をしていくことが求められるのではないだろうか。

IV まとめ

本研究では長野県内の高校ソフトボール部員は高校卒業後、ソフトボールを継続する意思は大変薄いことが明らかになった。継続しないとする部員の多くは大学や専門学校への進学を希望しており、ソフトボールよりも学業を優先することを考えていた。また、大学や実業団のレベルが高さを考え、自信がないと感じている部員も同様に多くいた。一方、少数ながら継続を考えている部員は大学へ進学し、体育会や同好会で行おうと考えている部員が多くいたが、その継続理由の主なものとしては「仲間づくり」があげられた。

ソフトボール継続人口の増加に向けての課題としては、まず高校卒業後のソフトボールを継続するという意識の薄さがあげられる。その背景には①学業や他のスポーツなど、ソフトボール以外に目が向いている。②実業団や大学のソフトボールは「レベルが高い」・「自信がない」と感じている。③進路先にソフトボール環境がない。などが挙げられている。これらの課題は直接的、間接的を問わず、いずれも「経験年数」の関係が深いことから、幼少期から継続的にソフトボールに取り組めるような環境づくりが重要であると考えられる。そのためにはソフトボール関係者が軌を一にして普及活動に取り組む必要があると本調査の結果から示唆された。

V 今後の課題

本研究はソフトボール継続についての課題把握を目的としたため、課題の解決方法の検討は不十分である。また、アンケートも「ソフトボール環境」について触れておらず、この設問があれば、また違った結果になっていたかもしれない。

また、アンケートの回収率が42.9%と低かったのは、アンケートの配布が長野県高校新人ソフトボール大会と同時期と遅かったことも一因であろう。しかし、別の見方をすれば、高体連ソフトボール専門部を通しての依頼にもかかわらず、回収率が低かったということは、長野県全体のソフトボールに対する関心の薄さを表しているとも言えなくはない。長野県のソフトボールを盛り上げていく為には、指導者を含め、ソフトボールに携わる全ての人が関心をもち協力的に関わっていくことが必要なのではないかと思われる。

今後、筆者自身も学校の教員として社会に出ることから、積極的に子ども達にソフトボールを経験させると共に、地域やソフトボール協会と連携した働きかけを行うなど、教育現場で本研究の結果を活かしていきたい。

参考・引用文献

- 1) 長野県ソフトボール協会, 「平成29年度加盟登録状況」
- 2) 公益財団法人全国中学校体育連盟, 「加盟校調査集計 学校数・加盟校数(女子)」平成29年度,
- 3) 公益財団法人全国高等学校体育連盟, 「平成29年度加盟登録状況」平成29年度,
- 4) 倉本慎太郎, 「ソフトボールの参加動機に関する研究～中学生女子ソフトボール部に着目して～」,
- 5) 文部科学省, 「総合型地域ソフトボールクラブ育成マニュアル」, 平成13年4月中央教育審議会,
- 6) ベネッセ教育総合研究所, 「平成17年度経済産業省委託調査進路選択に関する振り返り調査 - 大学生を対象として - (2005年)」, 高等教育研究所,
- 7) 文部科学省, 「運動部活動の在り方に関する総合的なガイドラインの作成検討会議(第1回)～教員の業務負担軽減、子供たちの健全な成長促進を目指して適正な運動部活動の在り方を考えます～」, 平成29年5月, http://www.mext.go.jp/b_menu/activity/detail/2017/20170529.htm

【研究ノート】

スポーツビジョンがソフトボールの競技力に及ぼす影響について

松本大学人間健康学部スポーツ健康学科

杉山 恭香 岩間 英明

I はじめに (動機・目的)

筆者が10年間ソフトボールの投手を続けてきた中で、ほぼ同じような球種、コースを投げても、よくレギュラー選手からは「ボールの回転が見える。」「変化球と直球のフォームの違いが分かる。」「目線や腕の振り方でコースが分かる。」といった指摘をされた。しかし、控え選手からそういった指摘をされることはほとんどなかった。レギュラー選手と控え選手とでは、ピッチング動作やボールに対する見え方の違いがあると思われた。レギュラー選手と控え選手のバッティングの差は、こうした点にあるのではないかと考えたのと同時に、そこにはスポーツにおける視力、いわゆるスポーツビジョンにレギュラー選手と控え選手の差が存在しているのではないかと感じられた。

そこで、本研究の目的は、スポーツビジョンがソフトボールの競技力に、どの程度の影響を及ぼしているのかを明らかにすることである。

II 研究方法

1. 対象者

M大学女子ソフトボール部員(32名)を対象とし、試合に出場回数の多い群を上位群(R群)、少ない群を下位群(S群)とし、それぞれ同数となるよう2群に分けた。平均年齢は20.2±1.4歳であった。

2. 方法

本研究では株式会社アファンが開発したビジュアルトレーニングシステムを用い、各項目30秒の練習を行ってから測定を行った。測定項目は、動体視力I・II、周辺視野I・II、視覚認知I・II、空間認知、視覚記憶の

8項目を正解率(正解数/出題数)、平均反応時間(正解の場合のみの反応時間の平均)に分け、さらに周辺視野IIは中心視と周辺視に分けることとし、全20項目に分類した(表1)。それに加えてビジュアルトレーニングシステムで設定されている10段階の総合評価の合計値を求めた。そして、各項目の測定値について、群毎に平均値を算出し比較した。

なお、統計分析はSPSS, Ver20を用いてT検定を行い、有意水準は $P < 0.05$ とした。

表1. 測定項目

	項目	機能
1	動体視力 I	跳躍性眼球運動
2	動体視力 II	追従性眼球運動
3	周辺視野 I	有効視野
4	周辺視野 II	同時並行視
	4-a周辺視野(内)中心視	4-b周辺視野(外)周辺視
5	視覚認知 I	同物探索
6	視覚認知 II	異物探索
7	空間認知	方向感覚
8	視覚記憶	短期記憶

III 測定結果

図1はトレーニングシステムが示した各項目

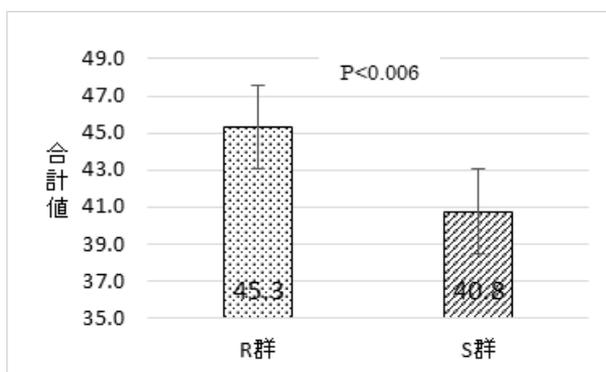


図1. 競技力別の合計得点
目の評価値の合計について比較したものである

る。この評価値は各項目ともレベル1～レベル10の範囲で示されたものであり、ここではそれをそのまま合算し、80点を満点とした合計点として表示した。その結果、R群が45.3±3.3、S群が40.8±5.3であり、有意差が認められた。

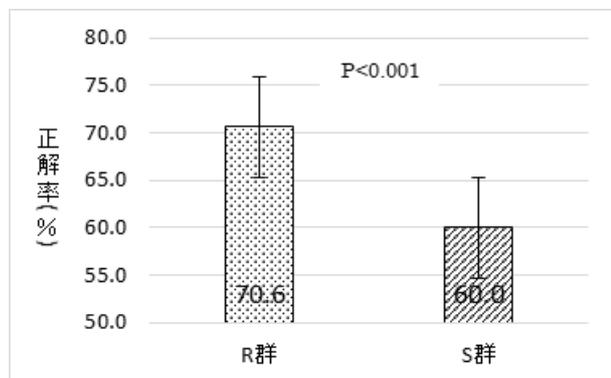


図2. 動体視力Ⅱの正解率

図2は動体視力Ⅱの正解率の結果である。動体視力Ⅱは追従性眼球運動であり、視点を正確に追従させながら見る能力のことであるが、R群が70.6±9.3、S群が60.0±7.3であり、有意差が認められた。

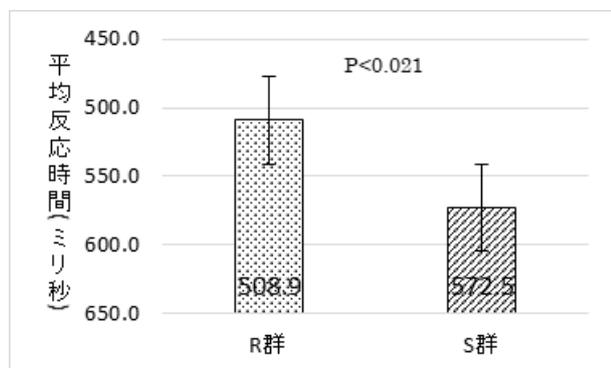


図3. 動体視力Ⅱの平均反応時間

図3は動体視力Ⅱの平均反応時間の結果である。動体視力Ⅱは前述したように、視点を正確に追従させながら見ることであり、この項目ではその反応時間の速さをみており、R群が508.9±62.6、S群が572.5±84.2であり、有意差が認められた。

図4は周辺視野Ⅰの正解率の結果である。周辺視野Ⅰは有効視野のことで周辺状況を広く見わたす能力のことであるが、R群が65.0±3.8、S群が59.4±8.6であり、有意差が認められた。

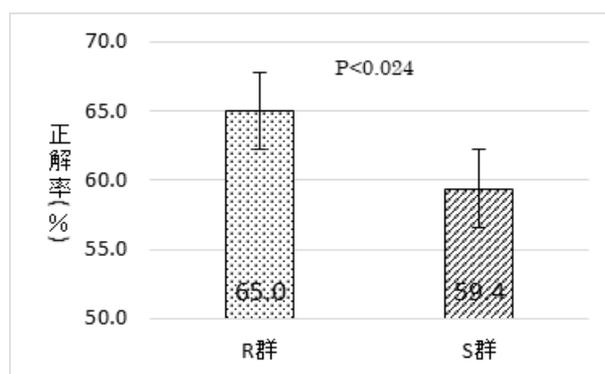


図4. 周辺視野Ⅰの正解率

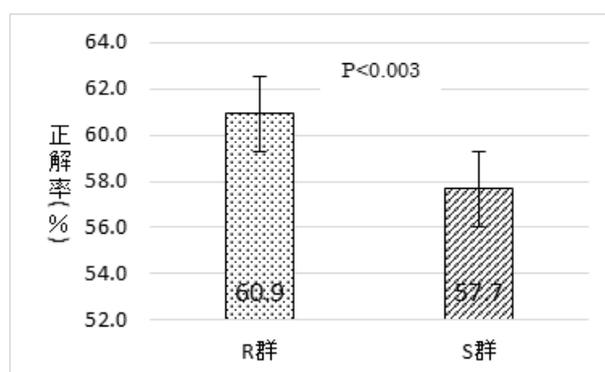


図5. 周辺視野Ⅱ外(周辺視)の正解率

図5は周辺視野Ⅱ(外)の正解率の結果である。周辺視野Ⅱ(外)は周辺視のことで、複雑な周辺状況を見わたす同時並行視のうちの周囲を見る能力のことである。R群が60.9±2.7、S群が57.7±3.1であり、有意差が認められた。

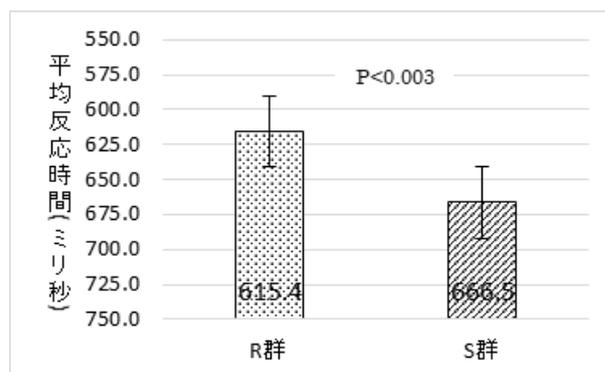


図6. 周辺視野Ⅱ外(周辺視)の平均反応時間

図6は周辺視野Ⅱ(外)の平均反応時間の結果である。周辺視野Ⅱ(外)は、前述したように周辺視の能力であり、この項目はその反応時間の速さをみている。結果はR群が615.4±42.0、S群が666.5±46.2であり、有意差が認められた。

また、位置や方向を視覚イメージで把握する能力のことである空間認知は、方向感覚のことであるが、これもR群が 985.8 ± 218.7 、S群が 1232.6 ± 400.3 であり、有意差が認められた。

IV 考察

以上のように有意差が認められたのは、評価合計値及び測定項目の6項目であった。その6項目のうち、動体視力Ⅱの追従性眼球運動と、周辺視野Ⅱ(外)の周辺視では正解率、平均反応時間ともに有意差が認められている。このことから、追従性眼球運動と周辺視は、速くて正確な対応ができており、ソフトボールにおける競技力の差を生じさせる要素の1つである可能性が考えられる。

また、平均反応時間については、上記の2項目に空間認知を加えた3項目において有意差が認められたが、単純比較でみると、それ以外のすべての項目においても、R群がS群を上回っていた。そのため、R群の選手はS群の選手よりも正確性に加え、スピードをより重視している可能性が考えられる。

さらに、有意差はないものの視覚認知Ⅰ・視覚記憶の正解率(平均値)は、唯一R群がS群を下回ったが、やはり平均反応時間については、R群がS群を上回っている。逆にS群の選手は、正確性を重視している分、認識してから動作までに時間がかかっていると考えられる。以上のことから、R群の選手は反応の速さを重視し、よりスピーディーな動きを意識しているのではないかと推測される。

この点については、実際のプレーにおいても同様のことが言えるのではないだろうか。具体的なソフトボールのプレーで考えてみると、追従性眼球運動については、打者は投手の投げた100km/hを越えるスピードボールや上下、左右に変化するボールを目で追いながら自らがスイングしているバットに当てることを平然とやってのけたり、野手も投球以上の速いスピードで動く打球や送球、60m以上離れたところから飛んでくる高いフライを捕球したりする。こうしたプレーに関係の深い

視覚能力は追従性眼球運動であり、優れた競技力を有する選手はこうしたプレーをいとも簡単に実行する能力を備えている。

また、周辺視野についてはさらに複雑な運動構成となる。まず、野手については投球がリリースされた後、投球されたボールと打者の動きを同時に見ることや、打球を見ながら、走者の動きを把握して、捕球・送球するなどの動きがそれに該当すると考えられる。特に捕手は投球を見ながらも走者の動きを視野のどこかで捉えており、盗塁阻止や離塁に対する送球をしている。投手も捕手のサインを確認し、捕手の構えるミットを目掛けて投球するのと同時に、バッテリーボックスの打者の動きを観察している。

一方、攻撃サイドからみても、打者は送りバントの時など、投手の動きを観察しボールがリリースされた直後は、ボールの軌道を目で追うと同時に、三塁手や一塁手の位置状況を確認したりする。

さらに走者も守備者の位置確認をした後に、投手の動きをみて、投球を追いながら、打者のスイングや野手の動きを同時に視認するなど、ソフトボールのプレーには、いくつかの動きを同時にみなければならない場面が数多くある。そのため、競技力の優れている選手というのは、2つ3つの動きを同時に並行してみる能力に優れているのではないかを考えられる。また、周辺視が優れているだけでなく、それに対する反応時間が速いのも特徴の一つであると推察される。

V まとめ

本研究ではR群とした技術的に優れた上位群の選手と、S群とした下位群の選手に分け、スポーツビジョンの測定を行った。そこで得られた結果に基づき、スポーツビジョンが競技力に及ぼす影響について明らかにしようとした。

その結果、合計値において上位群と下位群で有意差が認められた。具体的な項目を見ると正解率は動体視力Ⅱ、周辺視野Ⅰ、周辺視野Ⅱ(周辺視)の3項目、平均反応時間は、

動体視力Ⅱ、周辺視野Ⅱ(周辺視)、空間認知の3項目で有意差が認められた。このことから、レギュラー選手と控え選手には明らかな差があり、スポーツビジョンが競技力に及ぼす影響はあると言える。また、平均値を単純比較した結果、全20項目のうち18項目で上位群の選手が下位群の選手よりも優れた値を出したことから、スポーツビジョンが競技力に何らかの影響を与えている可能性があるとも言える。

さらに、先行研究でも本研究と同様に、スポーツビジョンと競技力との関係について報告されている。¹⁾その一方で、視機能は競技力を構成する重要な要素ではあるが、視機能だけで競技力を構築あるいは説明することができないといった考え²⁾や、スポーツパフォーマンスにおいて、視覚機能がよいことが必ずしも高いパフォーマンスにはつながらないという考えもある³⁾。

しかし、実際のスポーツ場面では、より複雑な条件による運動実施がされることから、視覚入力情報がより重要な役割を担っていると考えられる。人間が通常、動作を行うには、眼(視覚)から周囲の情報を取り入れ、状況判断や動作決定を思考し、筋肉へ動作の指令を出し、動作につながっている。⁴⁾眼で見た情報によって動作が始まるため、眼が素早く、正確に情報を得ることができれば、その分速く行動することができ、動作に移るまでの時間が速くなる。また、情報の収集が早く正確であるほど、動作に余裕ができプレーの精度も上がってくる。そのため競技力の高い選手は視覚からの情報入力から動作までの流れが速いということは容易に類推できよう。

こうした一連の流れのメカニズムにおいて、視覚が行う情報入力能力、状況判断や動作決定を行う思考能力、動作を行う神経系を含んだ筋力的能力とのずれが優れているのかは本研究では触れることはできなかった。しかし、上位群の選手が下位群の選手よりも優れた結果を出したことは、動きを制御する一連の流れの中のいずれかが優れていることは間違い

ない。

VI 今後の課題

本研究では、試合出場という指導者による判断が影響する基準を用いており、競技力についての分割基準が明確ではなかった。そのため、競技力を判断するより客観的で細かい基準が必要である。また、調査の対象が一大学だけであったため、他大学のソフトボール部員でも調査を行い、調査人数を増やす必要があると言える。

さらに、本研究では測定状況が統一されておらず、朝や夕方、夜など目の疲労度を考慮していない。また、測定時の体調、ストレス状態などによっても変わってくるのではないかと考えられる。そういった対象者の体の状態を含めた比較調査を行う必要がある。他にも本研究は限られた機材で調査を行ったため、簡易な調査方法しか用いることができなかったこともあり、今後は脳科学的な視点からもより詳しく調査をしていきたい。

また、現在スポーツビジョンに関する明確な論理は確立されているとは言えないため、今後も継続した研究が望まれる。スポーツビジョンと競技力には深い関係性があり、競技力の高い選手のスポーツビジョンは優れているという研究が多いが、あくまでも平均値であり絶対的なものではなく個人差も大きい。⁵⁾本研究でも平均値に基づき考察を進めたが、選手個々の測定結果を見ると、ある特定の項目が優れているといった個人差や項目差も見られた。ソフトボールではポジションも違い、それに伴って求められる能力にも違いがあることから、ポジションによっても必要な要素が違ってくるのではないかと考えられるなど、より詳細な測定方法による考察をしていくことが今後の新たな課題である。

参考文献(主要文献のみ)

- 1 石垣尚男、真下一策、遠藤文夫「トップレベルのスポーツ選手の視覚機能と競技力の関係」
- 2 真下一策「スポーツビジョン第2版 スポーツのための視覚学」
- 3 國部雅大「眼球運動と手の協応」体育の科学No. 12. 2015. 12. 1
- 4 真下一策「目力がスポーツを変える! 動体視力トレーニング」
- 5 石垣尚男「スポーツビジョンの紹介」第54回 日本視能矯正学会 シンポジウム1「さあ!ここから始めよう」日本視能訓練士協会誌第43巻(2014) p. 23

文部科学大臣杯第52回全日本大学男子ソフトボール選手権大会

会期：平成29年9月1日(金)～9月4日(月)

会場：岡山県新見市／憩いとふれあいの公園新見ピオーネ球場、他

大会概要

日体大 8年ぶりに大学王座奪還

大会記録長：筒井 照雄

「ソフトボールのまち」として知られ、これまで日本リーグや全日本大会を数多く開催してきた岡山県新見市・新見市憩いとふれあいの公園新見ピオーネ球場を主会場に、「第52回全日本大学ソフトボール選手権大会」が開催された。

大会は、今回従来の出場チーム数「32」に戻して熱戦が繰り広げられ、好天の下、岡山県協会はもちろんのこと、新見市協会の方々の周到な準備によって運営された。

開会式では、新見市の「学び広場にいみ大ホール」において出場32チームの主将が壇上に校旗を掲げ、互いの健闘を誓い合うとともに、去る7月13日に急逝された全日本大学連盟会長・一谷宣宏氏のご冥福を祈り、黙祷が捧げられた。

試合に目を向けると、2回戦で中京学院大（岐阜）の比嘉竜哉投手が東海大（神奈川）を相手にノーヒットノーランを達成するなど、「大学日本一」をめざした好ゲームが数多く繰り広げられ、ベスト4には、2回戦で昨年の覇者・環太平洋大（岡山）に5回コールド勝ち（7-0）を収め、勢いに乗る日本体育大（東京）をはじめ、昨年準優勝の国士舘大（東京）、初の頂点を狙う関西大（大阪）、城西大（埼玉）がそれぞれ進出。最終日、「頂点」をかけた戦いに臨み、日本体育大が2試合を最小得点差で勝ち上がって栄冠に輝いた。

大会講評

中国地区常任理事：西村 信紀

全日本大学選手権大会の岡山県での開催は初となり、各ブロックを勝ち抜いた32チームの精鋭が「ソフトボールのまち新見市」をスローガンに掲げる岡山県新見市でたくさんの観客の方に来場い

ただき開催された。大会期間中は好天に恵まれ絶好のグラウンドコンディションのもと大学日本一を目指し熱い戦いが繰り広げられた。

2回戦では東日本インカレ覇者日本体育大学と西日本インカレ覇者で前年度優勝の環太平洋大学が対戦する好カードにたくさんの方が観覧に詰めかけた。結果は終始日本体育大学が流れを渡さず7-0の5回コールドで勝利した。一方、Bゾーンの前年度準優勝の国士舘大学は持ち前の強力打線が好調で順当にコマを進め迎えた準決勝では、城西大学と対戦し4本のホームランにより7-1で快勝し決勝にコマを進めた。Aゾーンの日本体育大学は2年生酒井、1年生小山、メーンズ・ジェーランの3投手と調捕手を含む世界ジュニア優勝メンバーを中心に全5試合で42得点と打線も好調。迎えた準決勝では地元出身の松田投手を要する関西大学と対戦し緩急を使った投球に苦戦したものの2-1で勝利し決勝にコマを進めた。決勝戦は日本体育大学小山投手、国士舘大学池田投手の先発でスタートし、国士舘大学は2回表にキャプテン後藤選手のタイムリーヒットで先制。3回表にも横山選手の犠牲フライで2点目を奪い有利に試合を運んだ。5回まで無安打に抑えられていた日本体育大学は6回裏に反撃、和田選手のライト前ヒットと竹森選手のタイムリーで同点に追いつき7回では勝敗が付かず、昨年に続き延長タイブレークに突入。8回表に二死から国士舘大学の河村選手のタイムリーヒットで2点を奪ったが、8回裏一死二三塁から再び竹森選手がレフトオーバーのタイムリーツーベースで同点に追い付くと続く小貫選手がサヨナラタイムリーを放ち5-4で日本体育大学が8年ぶり29度目の優勝を果たした。昨年に続き国士舘大学は延長タイブレーカーを戦い抜きあと一步の所まで追い詰めていたが悲願の優勝には届かなかった。

今大会は120*。オーバーの好投手を要する大学が複数あり大変レベルの高い大会となった。投手部門では、中京学院大学比嘉投手が2回戦で無安打無得点試合を達成。打撃部門では、首位打者は0.667で国士舘大学の横山・八角が同率で並び最多本塁打は日本体育大学の和田選手が4本。ベスト8には西日本5大学、東日本3大学が入ったが、決勝戦は東日本の東京ブロック代表同士の戦いと

なり、互いに手の内を知り尽くしたチーム同士のぶつかり合いでハイレベルな戦いとなった。優勝した日本体育大学は東日本大学選手権に続き二冠を達成し、次年度以降の活躍では大会連覇が期待される。大学男子の全国大会は岡山県では初開催となり、各方面から大学男子の元気・スピード・力強さ・統制の取れた機敏さなど大学男子ソフトボールへの改めて高評価の声を多数いただいた。

8年ぶりの王座奪還

日本体育大学男子ソフトボール部主将 和田 彩斗

今回、全日本大学男子ソフトボール選手権大会を8年ぶりに優勝することができました。

昨年の全日本インカレでは、立命館大学に7対2で初戦敗退という悔しい思いをしました。この悔しさを1年間忘れずに来年の全日本インカレ優勝を目標に新チームがスタートしました。

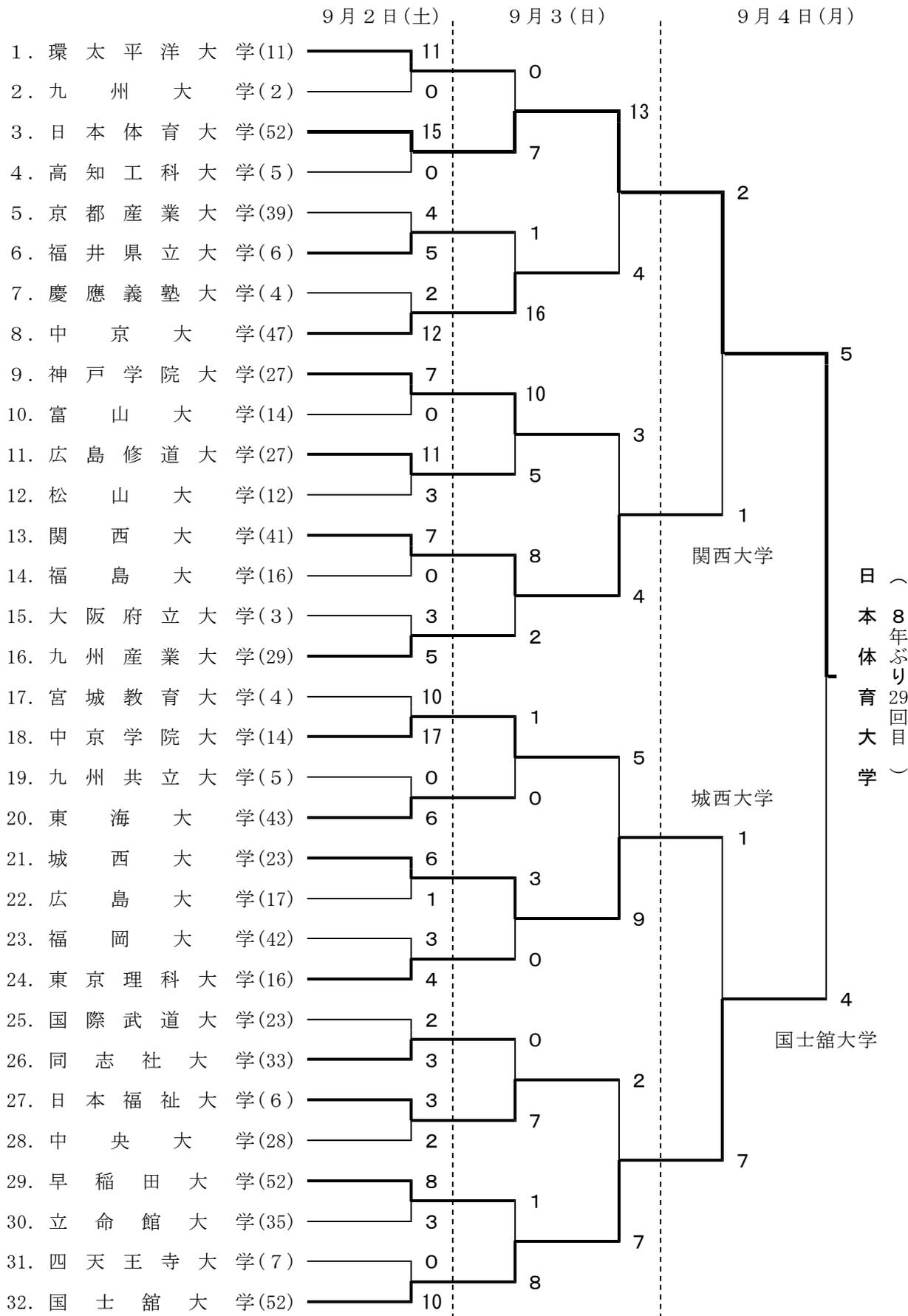
まず、新チームのスローガンとして「結束力」と「王座奪還」この2つのスローガンを掲げ、練習に取り組みました。しかし全日本インカレや秋リーグ、関東インカレの大事な試合で投手陣はホームランを8被弾、野手陣は4得点という散々たる結果に終わり課題が多く残りました。また、試合の中でチーム全体の粘り強さがなくあっさりと負けるケースが多くありました。これらの課題をクリアしていかないとまた同じ結果になると思い、冬の練習では「瞬発力の向上」というテーマに掲げ、例年以上にウエイトトレーニングや打ち込みなどをやりました。3月に入り春の合宿を行い、この合宿は日本リーグのチームと練習試合する機会があり、この冬に取り組んできたことが良い結果として表れたので自信になりました。4月に入り春リーグを迎えたが、順位決定戦で国士舘大学に3対2で敗れ、去年の秋からずっと負けている相手だったので勝たなかったのですが、また課題が見つかったので何度も何度も課題練習を繰り返しました。東京都総合予選の決勝戦で国士舘大学を6対5で勝利し、2点を先制されながらも

終盤に逆転し勝利しました。徐々に粘り強さが身につについてきて手応えを感じました。この後の関東総合予選や東日本インカレのタイトルを獲り、自信を持って全日本インカレに臨みました。

まず、初戦の高知工科大学戦に15対0で勝利し、続く2回戦目は昨年の優勝校の環太平洋大学戦となり初回到相手のエラーをきっかけに3点を先制しそのまま手を緩めることなく7対0で勝利することができました。そのまま準々決勝を迎え、初回到3点を先制され、打撃も2回まで完璧に抑え込まれ嫌な雰囲気は流れますが、3回到1番バッターの同点ホームランをきっかけに終わってみれば13対4で勝利しました。いよいよ全日本インカレ最終日まで来て、ここまできたら絶対に優勝するという気持ちをチーム全体で持ち、準決勝に臨み、苦しい試合でしたが2対1で勝利し、迎えた決勝戦の相手はこれまで幾度となく接戦をしてきた国士舘大学です。5回まで2対0で負けている状況でしたが、誰一人として諦めている選手はいなく、その後逆転に成功し1年間目標にしていた「王座奪還」を達成しました。

今大会では年間取り組んできたものが最高の結果として表れて嬉しいという言葉しかありません。今まで支えてくださった方々に感謝の気持ちでいっぱいです。日体大はこの先勝ち続けなければなりません。2連覇、3連覇と続くように後輩たちの活躍を期待したいと思います。

文部科学大臣杯第52回全日本大学男子ソフトボール選手権大会



※ () 内は出場回数で、校名変更のあった大学は以前の名称での出場も含む。

試合結果

▼第1日(9月2日)1回戦

環太平洋大学10001 : 11
九州大学0000 : 0

[環] ○糸数 昌太郎—山内 貴博・檜田 慶介
(三)宇根 良祐

(二)三谷 将太・岡本 大祐・角木 空

[九] ●大園 大輔—渡辺 直輝

【評】環太平洋大学が、初戦を突破する。

環太平洋大学の先頭打者の宇根がセンター越えの三塁打で出塁して、3番細川のタイムリーで先取する。その後6安打の猛攻で一挙10点をあげて試合の主導権を握る。4回にも、1点を追加する。一方、九州大学は出塁するものの、環太平洋大学の糸数投手に3安打に抑えられて、得点をする事ができなかった。

日本体育大学8403 : 15
高知工科大学0000 : 0

[日] 小山 玲央・メソズ・ジェーラン 秀吉・清川 恵太—調 和政・上田 郁也

(本)和田 彩斗②、池田泰一朗、櫻庭 佑輔、上田 郁也

(三)小貫 満郎

(二)池田泰一朗

[高] ●木下 稜太・大上 涼—山下 武大・長澤 海里

【評】日本体育大学 猛打で快勝

日本体育大学は、1回表にいきなり3番和田、4番池田、1番櫻庭と3本の本塁打など、打者一巡で8点を先取。その後も追加点を重ね快勝した。高知工科大学は、初回の大量失点を追いかける展開になり、全員で食い下がって戦ったが敗退した。

福井県立大学2000300 : 5
京都産業大学0030001 : 4

[福] 水口 諒・○川村 尚之—佐古田 慎

(本)赤井 勇斗、佐古田 慎

(三)望月 秀太

(二)大賀 悠馬

[京] ●北村 優斗・山根 一起—小谷 昂希

【評】福井県立大学 長打でシーソーゲームを制す

福井県立大学は1回表に3番赤井の2点本塁打で先制。3回裏に逆転を許したものの、5回表に4番望月の適時三塁打と5番佐古田の2点本塁打で3点を取って再び逆転。その後は好守で相手チームの攻撃をしのぎ切って勝利に結びつけた。京都産業大学は3回裏に一度は逆転したが、5回に再度逆転された後は、7回裏に1点を返し、なおも2死二塁とくいさがったが、あと一押しが続き惜敗した。

慶應義塾大学0101 : 2
中京大学3162x : 12

[慶] ●笠井 亮之介・石井陽一郎・川崎 惇平—片山 純太

(三)佐藤 慶一② (二)宮内 直輝

[中] ○久本 廉・関口 幸輝—杉村 優太

(本)近藤 大嗣、久本 廉、岸園 優希

(二)近藤 大嗣

【評】猛打打線で毎回得点の中京大学

後攻の中京大学は初回、一死後に2番生田、3番久本の連打で一・二塁とした後、4番近藤の中越本塁打で3点を先取した。続く2回には、7番岸園の四球、8番杉村の犠打、9番森口の投手強襲打の後、1番三島の左翼犠打で追加点を挙げた。3回には5番菊川、6番秋豆の連打をきっかけに犠打、四球、単打、3番久本の左越満塁本塁打も飛び出し、一挙に6点を挙げ、試合を決定づけた。一方、慶應義塾大学は、2回、4回の3本の本塁打を放つものの、好機を生かしきれず、2点止まりとなった。

富山大学00000 : 0
神戸学院大学01105x : 7

[富] ●木崎清士郎—木村 佳純

[神] ○大元 聖人—芝 聖

(本)芦田 翔

(二)長濱 征輝

【評】神戸学院大学 初戦を完封で飾る

神戸学院大は2回、長濱の内野安打を足がかりに先制し、3回にも1点を加点した。迎えた5回、3番芦田の本塁打を含む4安打の集中打によって一気に5点を挙げ試合を決めた。富山大学は、2回の連続安打などで好機を作るも、神戸学院大の大元の好投と堅い守りに阻まれ得点することができなかった。

広島修道大学 8 2 0 0 1 : 11
松山大学 1 1 0 1 0 : 3

[広] ○重富 雄太ー椋田 啓太
(本)高田 祥吾
(三)坂本 翔太、桑田 健聖
(二)城 啓太

[松] ●花岡 渉ー田中 仁
(本)野口 和康
(二)八木 泰樹、高市 凌平、重見 海里、田中 仁

【評】猛打で広島修道大学が快勝

広島修道大学は1回3番高田の本塁打や5番坂本の三塁打など、8連続打で一挙8点を先制し、その後も追加点を重ね快勝した。一方、松山大学は、1番野口の先頭打者本塁打と2回8番高市の二塁打や4回には6番田中の二塁打で加点するが、広島修道大の猛攻の前に涙をのんだ。

福島大学 0 0 0 0 0 : 0
関西大学 2 3 0 2 x : 7

[福] ●水上 武斗ー小原 広夢
[関] ○松田 祐汰・大久保博樹ー黒木 裕介
(三)川添 裕貴

【評】

関西大学 継投で5回コールド完封勝利！！

関西大は、1回無死満塁から4番黒田の適時打などで2点を先制する。2回は、4連続安打などで3点を追加。4回にも3番川添の三塁打などで2点を加えリードを広げた。投げては松田、大久保の継投で相手打線を3安打無得点に抑え、2回戦進出を決めた。一方、福島大は6番武藤が2安打を放つもそれ以外はチャンスを作る攻撃ができ

ず、1回戦敗退となった。

大阪府立大学 1 0 0 0 1 0 1 : 3
九州産業大学 0 1 0 1 3 0 x : 5

[大] ●濱口 巧ー山中 裕貴

(二)北川 純

[九] ○田崎 和弥・金山 佳太・池上 紘生ー鳥山 健

(三)金山 佳太

(二)吉田 龍史、加藤 光喜

【評】九州産業大学 シーズーゲームを制して1回戦突破

後攻めの九州産業大学は、同点で迎えた5回裏、一死二塁から6番加藤、7番吉田の連続長短打などで3点を挙げ逆転。その後の相手の反撃を継投でしのぎ逃げ切った。大阪府立大学は、3点を追う7回、一死満塁と攻め立てるも1得点に終わり初戦突破とはならなかった。

宮城教育大学 0 0 2 8 0 : 10
中京学院大学 2 3 3 8 1 x : 17

[宮] 高橋 達也・●梅津 拓也・高橋 達也ー奈良 和浩

(本)澤田 大貴

(二)奈良 和浩、高山 顕吉

[中] 比嘉 竜哉・馬場 元樹・星出 和哉・谷口 魁・○比嘉 竜哉ー鈴木 啓史

(本)南村 海斗、鈴木 啓史②、

安藤 慎吾、桶師 凌

(二)金城 春紀

【評】中京学院大学 乱打戦を制し2回戦進出！

中京学院大は、3回までに8番鈴木の本塁打で2打席連続本塁打などでリードする。しかし、4回表3、4番手の投手が相手打線につかまり8点を奪われ逆転を許す。2点を追う4回裏、4番金城の適時打で同点とすると、さらに敵失と7番前鼻の適時打、1番桶師の3点ランニング本塁打などで、この回一挙8得点を挙げ再びリードする。そして、続く5回裏、7番前鼻の適時打で7点差とし、コールド勝ちを決めた。宮城教育大は、最大6点差

を逆転する粘りを見せたが、その後の相手の攻撃を抑えることができず、大逆転勝利とはならなかった。

東海大学1005000:6
九州共立大学0000000:0

- [東] ○佐藤 拓矢・高橋 祐輔—吉江 元希
(三)富田 一步
(二)松井 千岳、佐藤 拓矢
[九] ●中野 拓人・新垣 成飛・岩村 篤史—
永江 偉大

【評】東海大学4回に一举5点の猛攻で1回戦突破

東海大学は1回、連続長短打と四球で一死満塁とすると、5番富田の犠飛で1点を先制。4回には一死一・二塁から1番杉本の右前適時打で1点を追加すると、さらに5番富田の三塁打などで4点を加え、この回5得点。投げては先発佐藤、2番手高橋のリレーで3安打に抑え完封。九州共立大学は、中盤以降、何度か好機を作ったが得点を挙げられず、1回戦敗退となった。

広島大学0000010:0
城西大学004110x:6

- [広] ●石丸 瑛・田中 宏城—門田 惇希
(本)赤木 秀至
[城] ○宮原 廉—飯田 敏弘
(本)小林 凌也、篠崎 悠
(二)小林 凌也、渡辺 暢

【評】城西大学 投打に圧倒し初戦を制す

城西大は3回1番からの攻撃で四球を足がかりに5番原の安打、6番小林の本塁打などで4点を先取し、さらに4回は2番渡辺の二塁打、5回には5番篠崎の本塁打で試合を決めた。一方、広島大は城西大先発宮原を攻めあぐねたが、6回に3番赤木の本塁打で完封を免れた。

福岡大学1200000:3
東京理科大学013000x:4

- [福] ●多久島力也—山中 洋介
(二)山中 洋介、小川 大地、松本 浩平

沢村 洋

- [東] ○石崎 一輝—塩谷 陸
(本)児玉 佳輝②

【評】東京理科大学 主砲の活躍で逆転勝利

3点を追う東京理科大学は、2回裏、4番児玉の本塁打で1点を返し、続く3回、4番児玉の2打席連続となる本塁打で逆転した。投げては先発石崎が、3回以降要所を締める投球で、7回のピンチも連続三振で切り抜け、1点差で逃げ切った。一方福岡大学は、序盤にリードし試合を優位に進めたが、相手4番の2本塁打に泣く結果となった。

同志社大学0002001:3
国際武道大学0100010:2

- [同] ○大濱 航—矢島 貴大
(二)福原 崇史
[国] ●柴田 将希—大村 成正
(二)大間 洋平、木下駿太郎、大村 成正

【評】同志社大学、接戦を制す

同志社大学は、1点を追う4回表、5番上杉、6番田中、7番兼古の3連打により2点を取って逆転。6回に同点に追いつかれたものの、7回表に、4番青田の安打で勝ち越し。その裏、7回の相手の攻撃をしのいで勝利した。国際武道大学は、6回に追いつき、更に7回裏、二死二塁まで追い上げたが惜敗した。両チームとも投手の好投が光る、締まった試合となった。

中央大学0000200:2
日本福祉大学2000001x:3

- [中] 宮川晋之輔—●歳川 幹大—芝 多聞
(本)歳川 幹大
(二)石田 直己
[日] ○相島 宏郁—井上 力
(本)里中 嶺王、山口 優弥
(二)井上 力

【評】日本福祉大学が代打山口の本塁打でサヨナラ!

日本福祉大は1回3番井上の二塁打と4番里中の本塁打で2点を先制した。一方、中央大は5回

9番歳川の本塁打と3番玉谷の安打で同点としたが、7回裏日本福祉大は代打山口がサヨナラ本塁打を放ち、接戦を制した。

立命館大学 1001100 : 3
早稲田大学 120500x : 8

[立] ●高森威吹希・橋本 慎一田苗 遼平

(本)岡野 孝祐(

[早] ○豊田 誉彦・杖子 量哉一山本 修平

(本)萩野谷知大、鳥岡 健

(二)川上 卓也

【評】早稲田大学 地元選手の活躍により初戦勝利

両チーム先頭打者本塁打で始まった試合も、2回早稲田大が一死満塁から2番増形の安打で2点追加し1点差となった。4回には3番川上の安打と5番島岡の本塁打で追加点を挙げて試合を決めた。一方、立命館大は5回に1点を挙げたが、その後の後続を断たれ勝利にはいたらなかった。

国士舘大学 4240 : 10
四天王寺大学 0000 : 0

[国] ○池田 空生・中根 孝太一服部 祐介

(本)岡 龍太郎、中島 優人、三崎 圭剛
横山 翔大

(二)横山 翔大

【評】国士舘大学 打線爆発で圧勝 2回戦進出

国士舘大は初回先頭打者横山の内野安打を足がかり2番八角の安打などで満塁とし、6番岡が満塁本塁打を放ち一挙に4点を先制した。2回にも9番中島の本塁打などで2点を追加、3回にも5番三崎の本塁打、9番中島の安打、1番横山の本塁打で3回までに10点を挙げ4回得点差コールドゲームとした。一方、四天王寺大は相手投手に1安打に抑えられ打線が沈黙。7三振を奪われチャンスも与えられず敗退した。

▼第2日(9月3日)2回戦

環太平洋大学 00000 : 0
日本体育大学 31012x : 7

[環] ●先村 翼

児玉 勝利一山内 貴博

[日] ○小山 玲央一調 和政

(本)調 和政

(三)小貫 満郎

(二)櫻庭 佑輔、和田 彩斗、廣寄 龍也

【評】日本体育大学 好機を逃さぬ攻撃で準々決勝進出!

東西両雄の対決で2回戦では最も注目を集めた試合であった。日本体育大学は1回裏、6番小貫の左中間三塁打などで3点を先制。2回と4回にも走者をおいて効果的な長打が出て得点を重ね、5回8番調の2点本塁打で勝利を決めた。力強い早球を軸に相手打線が無得点に封じた小山の投球も光った。一方の環太平洋大学は、中盤以降鋭い当たりも見られたが得点を挙げるには至らず相手打線の勢いに押し切れ2回戦敗退となった。

福井県立大学 100 : 1
中京大学 709x : 10

[福] ●水口 諒・川村 尚之一佐古田 慎

(二)望月 秀太

[中] ○久本 廉・古橋 和也一杉村 優太

(本)久本 廉、近藤 大嗣

(三)三島 拓也

(二)岸園 優希、近藤 大嗣、古橋 和也
杉村 優太、生田 宗範

【評】中京大学 猛打で快勝

中京大学は、1点を追う1回、3番久本の2点本塁打であっさり逆転し、続く4番近藤も本塁打を放った。その後も加点し、この回7点を奪った。さらに、3回9番森口から打者一巡の猛攻で9点を挙げ快勝した。一方、福井県立大は1回に4番望月の二塁打で先制したが、中京大の猛攻にあって涙をのんだ。

広島修道大学 0410000 : 5
神戸学院大学 051400x : 10

[広] ●重富 雄太一椋田 啓太

(本)坂本 翔太

[神] 谷口 輝・○奥田 拓海ー芝 聖

(三)山本 悠貴

(二)山本 悠貴、長濱 征輝

【評】神戸学院大学 つなぐ打線で準決勝へ

神戸学院大学は、2回無死満塁から8番長谷川が四球押し出しにより1点を得点し、続く9番嶋田の二塁手横を抜く安打と1番末武の右中堅手前の安打によりこの回5点を得点した。その後も4回につなぐ打線で4点を追加し、試合を決定づけた。広島修道大学は、2回に相手の失策により4点を先取するものの、その後は打線が続かず2回戦で涙をのんだ。

九州産業大学20000000 : 2

関西大学000305x : 8

[九] ●田崎 和弥ー宮田 大地

(本)木下 孝祐

[関] ○松田 祐汰ー黒木 裕介

(三)松田 祐汰

(二)松田 祐汰、新宮 魁

【評】関西大学 攻守にわたる活躍で勝利準々決勝進出

関西大は、2点を追う4回無死一塁から4番黒田、5番高濱の連続安打と8番松田の二塁打などで3点を取り逆転した。さらに、6回裏7番粟井の安打、8番松田の三塁打、1番新宮の二塁打、3番川添の安打などで5点を奪い試合を決めた。一方、九産大は、初回到4番木下の本塁打で2点を先取するが、その後は相手投手の緩急をつけた投球に打線が沈黙し、追加点を奪えなかった。

東海大学00000000 : 0

中京学院大学001000x : 1

[東] ●佐藤 拓矢ー吉江 元希

[中] ○比嘉 竜哉ー鈴木 啓史

(三)鈴木 啓史

【評】中京学院大学 比嘉投手ノーヒットノーランを達成

両チーム投手の好投で、淡々とした立ち上がり。試合が動いたのは3回。表の東海大学が二死三塁

の得点機を逃した後、中京学院大学は先頭の8番鈴木が三塁打で出塁し、1番桶師のレフト犠牲フライで生還した。その後は、15三振を奪った比嘉投手の好投と堅い守備で、この1点を守り切って勝った。東海大学は、1点を追う後半、6回と7回にも二死二塁と食い下がったが得点に結びつかず、惨敗。

東京理科大学00000000 : 0

城西大学102000x : 3

[東] ●石崎 一輝・大江 雄登ー塩谷 陸

[城] ○宮原 廉ー飯田 敏弘

(本)渡辺 暢

【評】城西大学 前半の優勢を守り切って勝利

城西大学は、1回裏2番渡辺のソロ本塁打で先制、3回裏には四球と安打などで無死満塁とし、4番渡辺の高くバウンドした打球が、一塁手の頭を超える安打で2点を追加した。その後は、相手チームの攻撃を抑えきって勝った。東京理科大学は、随所に好守で追加点を阻み反撃を試みたが、試合の流れを変えるには至らなかった。

同志社大学00000000 : 0

日本福祉大学012004x : 7

[同] ●大濱 航ー矢島 貴大

(三)矢島 貴大

[日] ○相島 宏郁ー井上 力

(本)山口 優弥

(二)井上 力、井上 明

【評】日本福祉大学 好機を生かした打撃で勝利を掴む！！

日本福祉大学は、2回裏一死後5番井上（明）の安打により出塁し、1点を先取する。3回には、安武の四球、井上（力）の左翼前二塁打で得点の好機を掴み、4番寺地、5番井上（明）の適時打により追加点を挙げる。4回、5回は両チームとも堅実な守備で得点はなく、6回裏日本福祉大学9番の代打で出場した山口が左翼手越えの本塁打を放ち一挙に4得点となり勝利を決めた。一方、同志社大学も3回に矢島が中堅手越えの三塁打を

放つが得点につながらず、3回戦出場は果たせなかった。

早稲田大学000010 : 1
国士舘大学230003x : 8

[早] ●吉田 尚央・豊田 誉彦－山本 修平
(本)山本 修平

[国] ○池田 空生－服部 祐介
(本)河村 聡明、八角光太郎

【評】国士舘大学 早稲田大学を2安打に抑え準々決勝進出

国士舘大学は、1回裏二死から3番西田が中前安打で出塁し、4番河村の右中間への本塁打で2点を先取した。2回裏には、相手チームの失策もあり3点を追加し、試合をリードした。6回裏一死打者一二塁で3番八角のライト線を抜く本塁打により3点を追加して試合が決した。早稲田大学は、5回に8番山本が中越え本塁打で1点を返したが、相手チーム投手の好投によりわずか二安打に抑え込まれた。

▼第2日(9月3日)準々決勝戦

日本体育大学0032116 : 13
中京大学3010000 : 4

[日] 酒井 匠・メンス・シエラン 秀吉・
○豊本 翔貴－調 和政・上田 郁也
(本)櫻庭 佑輔②、和田 彩斗②
(三)上原 和馬、廣寄 龍也
(二)櫻庭 佑輔、上原 和馬

[中] ●関口 幸輝・久本 廉－杉村 優太
(本)関口 幸輝、近藤 大嗣
(二)古橋 和也、生田 宗範

【評】日本体育大学 長打攻勢で逆転勝利 準決勝進出

日本体育大学は、3点を追う3回1番櫻庭の3点本塁打で同点とする。再びリードを許したが、4回7番鈴木の本塁打で逆転の後も得点を重ね、7回には5本の長短打を集め6点を挙げ、試合を決めた。一方、中京大学は、1回に2本塁打で3点を先制するも相手打線の勢いを止めることがで

きなかった。

関西大学000100012 : 4
神戸学院大学000100011 : 3

[関] ○松田 祐汰－黒木 裕介

[神] ●奥田 拓海－芝 聖
(本)芦田 翔

【評】投手戦を関西大学が延長戦で制す

神戸学院奥田は、速球を中心の投球。関大の松田は、硬軟織り混ぜた投球で3回まで互いに無安打に抑えた。その後も4回に関大が4番黒田の適時打で先制すると、すかさずその裏に神戸学院3番芦田の本塁打で追いつき譲らぬ攻防を7回まで見せた。延長に入っても8回の表裏に1点ずつを挙げ、9回を迎えた。関大は、4番黒田の三塁強襲安打と6番泉元の中前安打で2点を奪うも、神戸学院は相手投手の暴投間の1点に留まり、4-3で関大が接戦を制した。

城西大学1502100 : 9
中京学院大学0000500 : 5

[城] ○宮原 廉・工藤 駿－飯田 敏弘
(本)保科 太良

(三)齊藤 壮馬、小泉 涉

(二)保科 太良、小林 凌也、高橋良太郎

[中] ●比嘉 竜哉・谷口 魁－鈴木 啓史

【評】城西大学 初の準決勝進出!

先攻の城西大学は、初回二死の後、3番保科の中越え本塁打で1点を先制した。2回には、先頭の8番齋藤が三塁打を放ち、捕手の隙を見て本塁を落とし入れ1点を追加。これを機に、後続も出塁しこの回3本の長打を放つなど、攻撃の手を緩めず、打者一巡の猛攻で5点を入れた。4回、5回にも長短打と好走塁で追加点を挙げ9点とし、試合を決定づけた。それまで完封に抑えられていた中京学院大学は、宮原に代わって出場した工藤の立ち上がりを攻め一挙5点を挙げた。その後も出塁するも、得点に結びつかなかった。

日本福祉大学0100010 : 2
国士舘大学221200x : 7

[日] ●相島 宏郁－井上 力

(本)山口 優弥

[国] ○中根 孝太・中島 悠貴－服部 祐介

(本)八角 光太郎

(二)横山 翔大、河村 聡明、岡 龍太郎

【評】 国士舘大学 快勝でベスト4に駒を進める
後攻めの国士舘大学は、初回無死二塁のチャンスに2番八角の2点本塁打で先制し、その後も4回まで毎回得点し試合を決めた。先攻めの日本福祉大学は、2回に4番山口の2試合連続本塁打と6回に相手の守備の乱れから1点を返したが、及ばなかった。

▼第3日(9月4日)準決勝戦

日本体育大学0000110:2

関西大学0000001:1

[日] ○メンズ・ジェーソン 秀吉・豊本 翔貴・

小山 玲央－調 和政

(三)廣寄 龍也、池田泰一朗

[関] ●松田 祐汰－黒木 裕介

【評】 日本体育大学決勝へ 準決勝にふさわしい好ゲーム

両チーム無得点で迎えた5回表、日本体育大学は一死後、2番廣寄の中翼への三塁打でチャンスメイク。続く3番和田の二遊間を破る適時打で生還し、1点を先制すると、6回表にも7番鈴木のリフト線への安打を足がかりに一死二三塁と攻め立て1番櫻庭の内野ゴロの間に貴重な2点目を追加点。守っては、7回表に1点を返されはしたものの、メンズ、豊本、小山の3人の投手リレーで逃げ切り、2-1で接戦に勝利。8年ぶりに決勝に駒を進めた。

関西大学は、2点を追う最終回、四死球などにより一死満塁とし内野ゴロの間に1点を上げるもあと1本が出ず、惜しくも準決勝敗退となった。

国士舘大学0012202:7

城西大学0001000:1

[国] ○池田 空生・中根 孝太－服部 祐介

(本)河村 聡明、後藤 勇大、八角光太郎②

(二)西田 勘汰

[城] ○池田 空生・中根 孝太－服部 祐介

(本)小泉 渉

【評】 国士舘大学 2年連続決勝進出

先手を取ったのは「地力」で勝る国士舘大。3回表、二死から1番横山が四球で出塁し、すかさず盗塁を成功させると、2番八角の右翼前安打で一気に本塁へ還り、1点を先制。4回表にも4番河村、7番後藤の2本のソロ本塁打、5回表にも1番横山が四球で出塁し、2番八角の中堅越え本塁打、7回表にも2番八角の「2打席連続」となるソロ本塁打等、「一発攻勢」で2点ずつ追加。着々とリードを広げ、投げては先発池田が5回を1点で、2番手中根が6、7回を5三振0点で抑えて2年連続の決勝進出を決めた。

一方、城西大学はエース宮原を軸にチーム一丸となった戦いで初のベスト4進出を果たしたが、この準決勝戦では結果的に完敗。4回裏、二死から4番小泉が意地の本塁打を叩き込んだものの、反撃はこの1点のみに止まり、決勝へ進むことはできなかった。

▼第3日(9月4日)決勝戦

国士舘大学01100002:4

日本体育大学00000203x:5

[国] ●池田 空生－服部 祐介

(二)中島 優人

[日] 小山 玲央・メンズ・ジェーソン 秀吉・

○豊本 翔貴－調 和政・上田 郁也

(二)鈴木 健人、竹森 歩夢

【評】 日本体育大学 延長戦を逆転で制し、8年ぶり29回目の優勝

「東京勢同士の対決」となった決勝は、2回表に国士舘大が7番後藤の中前適時打で1点を先制。3回表にも9番中島の三塁線を破る二塁打を足がかりに2点目を奪い、このまま有利に試合を進めるかと思われた。

しかし、日本体育大学は、6回表、ここまでノーヒットに抑えこまれていた国士舘大池田投手を攻め、3番和田、代打竹森の2本の適時打で同点。

7回は互いに得点を挙げる事ができず、試合は2-2のままで決着がつかず延長タイブレーカーへもつれ込むこととなった。

迎えた8回表、国士舘大は四球、バント安打で無死満塁とし、3番西田はピッチャーゴロに倒れ、ホームゲッツー。二死二三塁となったものの、4番川村が「気持ち」でセンターへはじき返し、2者生還。一気に2点を奪い、勝利をグッと引き寄せたかに見えた。

だが・・・「ドラマ」はこの後待っていた。粘る日体大は、その裏3番和田が四球を選び、出塁。

4番池田のピッチャーゴロで勝者がそれぞれ進塁し、一死二三塁とすると、途中出場の5番竹森が再び「勝負強さ」を見せ、試合を振り出しに戻す左超2点適時二塁打。なお、一死二塁のチャンスが続き、6番小貫もしぶとく食らいついて二遊間を破り、二塁走者が一気に本塁生還。最後は正に「劇的」な幕切れで、日体大が5-4のサヨナラ勝ちを飾り、8年ぶり29回目の優勝を手にした。

国士舘大学は、終始試合をリードするも相手の粘りに涙をのみ、惜しくも2年連続の準優勝となった。

全日本大学(男子)選手権大会入賞校・入賞回数

大学名	優勝	2位	3位	入賞
日本体育大学	29	5	4	1
国士舘大学	4	8	6	
早稲田大学	4	3	7	
中京大学	3	6	7	1
東海大学	2	5	6	
立命館大学	2	2	3	1
沖縄国際大学	2		2	
京都産業大学	1	4	5	
中京学院大学	1	1	1	
環太平洋大学	1	1		
琉球大学	1			
福岡大学		4	7	1
高崎経済大学		3	1	
同志社大学		3	1	
学習院大学		1	2	
神戸学院大学		1	6	

大学名	優勝	2位	3位	入賞
関西大学		1	6	
国際武道大学		1	1	
都留文科大学		1		
広島修道大学			4	
九州東海大学			2	
茨城大学			1	
愛媛大学			1	
愛知大学			1	
大阪体育大学			1	
山梨学院大学			1	
龍谷大学			1	
九州産業大学			1	
熊本学園大学			1	
九州共立大学			1	
高知工科大学			1	
城西大学			1	

※50回連続出場校：日本体育大学・早稲田大学・国士舘大学

男子大会打撃ベスト10（規定打席数12以上）

順位	位置	選手名	大学名	打打安得打犧四死三盗残打出本三二													打撃率	試合数			
				席数	打点	点打	球打	球振	塁	塁	塁	塁	塁	塁	塁	塁					
1	8	横山 翔大	国士館	17	12	8	7	7	1	4	0	2	3	2	0	12	1	0	2	0.667	5
1	6	八角光太郎	国士館	19	18	12	6	10	1	0	0	0	5	6	0	12	4	0	0	0.667	5
3	3	渡辺 暢	城西	13	12	6	4	2	1	0	0	1	0	1	0	6	1	0	1	0.500	4
3	5	櫻庭 佑輔	日本体育	18	16	8	7	10	0	1	1	0	0	3	0	10	3	0	2	0.500	5
3	4	鈴木 健人	日本体育	15	8	4	4	2	1	3	3	1	0	4	0	10	0	0	1	0.500	5
6	2	調 和政	日本体育	12	11	5	2	3	0	0	1	0	0	3	0	6	1	0	0	0.455	5
7	9	小泉 渉	城西	12	9	4	3	4	0	2	1	0	3	3	0	7	1	1	0	0.444	4
8	7	和田 彩斗	日本体育	18	16	7	5	8	0	2	0	2	0	4	0	9	4	0	1	0.438	5
8	DP	小貫 満郎	日本体育	17	16	7	2	3	0	0	1	1	0	3	0	8	0	2	0	0.438	5
10	4	後藤 勇大	国士館	13	12	5	2	2	0	1	0	1	0	4	0	6	1	0	0	0.417	5

男子大会投手成績ベスト10（規定投球イニング数11以上）

順位	選手名	大学名	投球回数	打打被失自被与与奪被暴不													投球数	防御率	勝試合	負試合	試合数
				者数	安打	得点	犠打	四球	死球	三振	本塁打	正投	暴投	不正投							
1	佐藤 拓矢	東海	12	46	42	9	1	1	4	0	0	5	0	1	1	132	0.58	1	1	2	
2	奥田 拓海	神戸学院	14	51	46	7	5	2	3	1	1	17	1	1	0	181	1.00	1	1	2	
3	松田 祐汰	関西	26	101	91	14	7	5	3	3	4	34	2	1	0	345	1.35	3	1	4	
4	小山 玲央	日本体育	13	49	44	9	3	3	1	2	2	14	0	3	0	189	1.62	2	0	4	
5	池田 空生	国士館	21 1/3	84	76	13	7	6	0	6	2	21	2	1	1	316	1.97	3	1	4	
6	宮原 廉	城西	27 1/3	109	102	19	9	8	1	6	0	35	5	1	4	452	2.05	3	1	4	
7	比嘉 竜哉	中京学院	14	58	48	6	7	5	1	7	2	30	2	0	0	265	2.50	2	1	3	
8	石崎 一輝	東京理科	11	51	39	9	6	4	2	5	5	12	1	2	0	206	2.55	1	1	2	
9	相島 宏郁	日本福祉	19	84	78	21	9	7	2	2	2	20	2	0	1	316	2.58	2	1	3	
10	大濱 航	同志社	12 1/3	59	54	19	9	8	0	4	1	13	1	0	1	223	4.54	1	1	2	

中京学院大学比嘉竜哉投手（対東海大学戦）ノーヒットノーランの内容

打者24 与四球2 与死球1 奪三振15 内野ゴロ4 内野フライ1 外野フライ1



文部科学大臣杯第52回全日本大学女子ソフトボール選手権大会

会期：平成29年9月2日(土)～9月4日(月)

会場：広島県東広島市／運動公園・呉市／大船山公園多目的広場

大会概要

I P U ・ 環太平洋大学 悲願の初優勝

大会記録長：佐藤 正典

今大会は、全国でも名高い「酒の都」として知られる東広島市と、瀬戸内海有数の臨海工業都市として、海とともに発展した呉市で開催された。

東広島市は、中国地方随一のビワの産地としても有名。また、良質の酒米と地下水、その水に適した清酒醸造技術と杜氏の技、醸造に最適な自然条件といった「素材・技術・気候」の三拍子揃った西条町では、現在多くの酒が造られている。

呉市は、戦前は「戦艦大和」を建造した「東洋一」の軍港として栄え、現在は世界最大級のタンカーなどを産出している。

大会には、全国各地の厳しい予選を勝ち抜いた精鋭32チームが集結し、大会初日から熱戦を展開。

大会期間中は好天に恵まれ、順調に日程を消化し、予定どおり大会を終えることができた。

ベスト4には、安定した試合運びで「連覇」をめざす園田学園女子大(兵庫)。前日に3時間超を含む2試合連続の延長戦を制し、2度目の栄冠を狙う中京大(愛知)。これまで3試合を無失点で勝ち上がり、「初優勝」をめざすI P U ・ 環太平洋大(岡山)。過去最多18回の優勝を誇り、13年ぶりの「王座奪還」を狙う日本体育大(東京)。以上の4チームが駒を進め、「大学女子日本一」の座をめざして激突した。

結果は、園田女子第(兵庫)と投手戦を制したI P U ・ 環太平洋大(岡山)が、創部11年目にして悲願の「初優勝」に輝いた。

特質すべき記録としては、2回戦の東京富士大(東京)対中京大(愛知)戦で、両チーム合わせて23三振。最多三振試合の記録を更新した。また、この試合では東京富士大・千葉咲実投手が従来の延長試合の記録である13奪三振を上回る15奪三振を

記録し、1試合で2つの新記録が誕生した。

個人記録に目を向けると、投手部門では、5試合・33イニングを投げ、「初優勝」の立役者となったI P U ・ 環太平洋大・吉井朝香投手が失点1、防御率0.21、奪三振23と好投。

打撃部門では、日本文理大(大分)の小坂茜選手が6割3分6厘、I P U ・ 環太平洋大松井陽日選手が6割1分5厘の高打率をマークした。

【編集部註：J S AソフトボールNo.401号から転載】

大会講評

I P U ・ 環太平洋大学が初の頂点へ

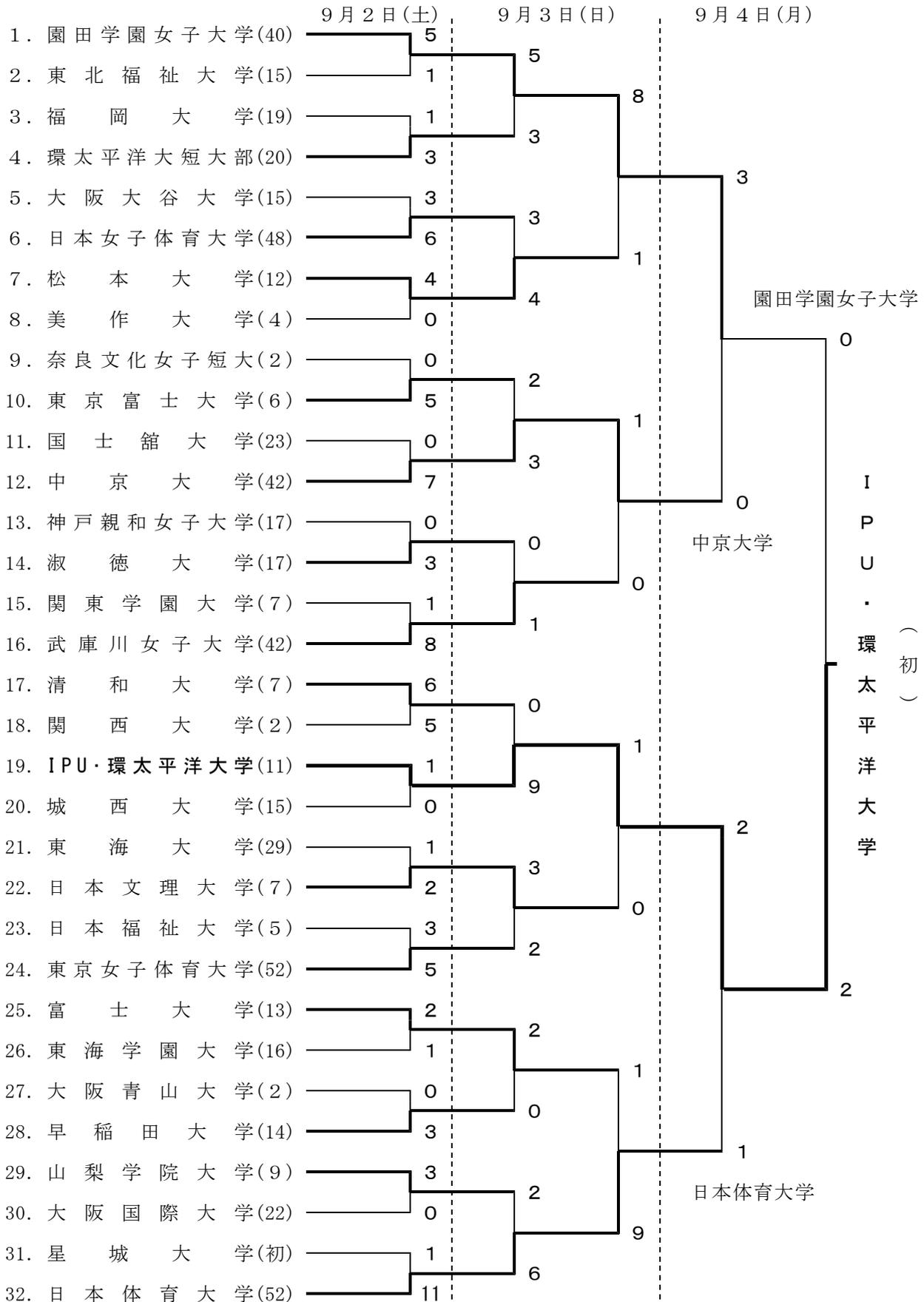
中国地区学連：土谷 文乃

今年は男女別開催となり、女子は東広島市と呉市に全国から32チームが集まりました。何より大会期間中は天候に恵まれ、たくさんの関係者の皆様のご尽力より大会が無事開催できたことに感謝申し上げます。

今大会は、三回戦までが東広島市と呉市に分かれての開催でしたが、両会場とも1回戦から接戦が多く、各チームの熱い戦いが繰り広げられました。大学生らしい粘りのある試合は小・中・高校生に希望を与え、多くの観客は立ち留まり魅了されていたように感じました。特に低スコアでの戦いが多く、中では4試合もタイブレーカーの試合が繰り広げられ、1球にかける思いが伝わる見応えのある試合ばかりでした。創部11年目で初優勝を飾った、地元中国地区代表の環太平洋大学も1回戦から接戦を勝ち進み頂点に輝いたことは印象に残りました。

各チームの1プレイ1プレイは大学生同士だけでなく、大会関係者や会場に来てくださった観客の皆様を一体化させ、ソフトボールを愛する思いが溢れた素晴らしい大会となりました。

文部科学大臣杯第52回全日本大学女子ソフトボール選手権大会



※ () 内は出場回数で、校名変更のあった大学は以前の名称での出場も含む。

試合結果

▼第1日（9月2日）1回戦

東北福祉大学 0001000 : 1
園田学園女子大学 003110x : 5

[東] ●保坂 鼓・永谷 真衣―三浦 愛佳

(二)菊地野乃子

[園] ○原 奈々―服部 洋代

(三)中村 優花

(二)加藤 愛夢、下山 絵理②

【評】園女大、連覇を目指して好スタート！

園田学園女子大学は、3回二死一二塁から4番加藤、5番下山の連続二塁打で一気に3点を制覇した。その後4回と5回にそれぞれ1点ずつ追加し、7奪三振の原投手の踏ん張りを盛り上げた。一方、東北福祉大学は、4回に5番及川、6番菊地の連続安打で1点を取り返したものの後続を絶たれ、その後の得点がないまま涙を飲んだ。

福岡大学 0000100 : 1
環太平洋大学短期大学部 021000x : 3

[福] ●増本 亜美・楠木 麻衣―水永まなみ

[環] ○森 千晴・吉松 玲美―藤原由紀子・吉松 玲奈

(本)藤原由紀子

(二)森 千晴、山崎 千佳

【評】環太平洋大短大学部ピンチを死守し勝利

環太平洋大学短期大学部は、2回裏に5番藤原がセンターを越える本塁打で1点先制し、続く6番吉松の安打で再び好機を作り、7番内山が送った後、8番森のレフト越え二塁打で2点目を挙げた。

3回も、4番山崎の左中間を破る二塁打で1点を追加した。

福岡大学は5回に7番片山の安打で1点を返したものの、あと一押しが見られず涙を飲んだ。

大阪大谷大学 2100000 : 3
日本女子体育大学 140001x : 6

[大] ●吉崎菜々海・大西 優季―殿井 綾

[日] ○山本 優花―久保かえで

(三)吉田 遥香、羽佐田栄美

(二)吉田 遥香

【評】日本女子体育大学、集中打で2回戦へ

日本女子体育大学は、1回表大阪大谷大学に2点の先制を許すものの、2回裏に集中4安打、二死から4番羽佐田が三塁線に三塁打を打ち逆転。山本投手は、3回以降大阪大谷大学を2安打に抑え完投した。一方、大阪大谷大学は、1回表に守備の乱れに乗り2点を先制し、その後、好機もあったが後続が絶たれ1回戦敗退となった。

美作大学 0000000 : 0
松本大学 111010x : 4

[美] ●貴田妃紗菜―稲葉 彩音

[松] 山下ひかり・大西 由美・○杉山 恭香―駒田実優

(三)小磯 利沙

【評】松本大学が美作大学を完封し2回戦に進出

松本大学は、序盤3回までに3点をとり試合を優勢に進めた。さらに5回裏に1点を追加し、試合を決定付けた。先発山下投手は、3回表まで5安打を打たれるが、要所を締め得点を与えなかった。4回以降、大西投手、杉出投手の継投で完封した。美作大学は、5回まで毎回安打を打つものの、打線がつながらず、得点に結すびつかなかった。

東京富士大学 0212000 : 5
奈良文化女子短期大学 0000000 : 0

[東] ○千葉 咲実・黒木 美紀―深沢 未花

(本)深沢 未花 (三)児島 真生

(二)長谷川ゆりか、西 愛美

[奈] ●原 みなも・前川くらら―堀 あかね

【評】東京富士大千葉・黒木両投手の好投で完封

東京富士大学は、3回4番藤澤の本塁打で1点を先取し、次いで4回一死から9番西の左翼手を越える二塁打と二死後、2番児島の三塁打、続く3番長谷川の二塁打で計2点の追加点を挙げ、守っては、千葉・黒木両投手の継投で完封勝ちした。奈良学園奈良文化女子短期大学部は2安打11三振と打線が奮わず、得点に結びつけることができなかった。

国士舘大学00000 : 0
 中京大学00205x : 7

[国] ●樋口 幸希・五十地なつ・菅野 奈々
 樋田 佳澄

[中] ○金丸侑志帆ー小寺 真琴
 (二)今川 瑞希

【評】中京大学、10安打7得点で快勝！

中京大学は、3回8番鬼塚、9番佐藤の連続安打でチャンスを作り、2番舟橋の犠牲フライ、3番今川の二塁打で2点先制した。その後、5回に打者6人の猛攻で一挙5点を追加し、コールドゲームに持ち込んだ。守っては金丸投手が国士舘打線を5回無安打に抑える好投を見せた。国士舘大学は、樋口・五十地・菅野の投手リレーで応戦したが、中京大学の勢いを止めることができなかった。

神戸親和女子大学0000000 : 0
 淑徳大学210000x : 3

[神] ●浜西千那美・高岡 里江ー東田 海愛・
 野村 晴菜
 (二)金城 郁美

[淑] ○朝倉 莉奈ー小澤 陽

【評】淑徳大学が神戸親和女子大学を2安打完封で2回戦に進出

淑徳大学は、1回裏2点を先制し、2回裏にも1点を追加して試合を優位に進めた。左腕朝倉投手は、神戸親和女子大学の攻撃を2安打に抑えるとともに、6奪三振と好投した。神戸親和女子大学は、4番の金城が二塁打を含む2安打と活躍するも後続が続かず、得点につながらなかった。

関東学園大学000100 : 1
 武庫川女子大学300041x : 8

[関] ●井田 千春ー長瀬あかり

[武] ○立目 静奈・上村 麻友ー福元 美紗
 (三)中嶋 楓
 (二)中嶋美夏絵②

【評】武庫川女子大13安打の猛攻で2回戦に進出
 武庫川女子大学が1回裏、2番中嶋（楓）の三塁打、4番中嶋（美）も二塁打を放ち3点を先制

し、5回裏には2アウトから四死球を含め、連続4安打で4点を追加。さらに、6回裏1点を追加しコールドで勝利した。一方、関東学園大学は、4回表に2番落合からの3連続安打で1点を返したが、その後は、武庫川女子大学の救援投手上村に抑えられた。

関西大学0001400 : 5
 清和大学0050001x : 6

[関] 杉本 樹菜・●萩森ちひろー江口 実里
 (本塁打)今橋この実
 (三塁打)杉本 樹菜
 [清] ○古屋 英恵ー荒木かな
 (三塁打)小河原美歩
 (二塁打)杉山 樹里

【評】汗に汗握る接戦は清和大学が制す

先制したのは清和大学。3回打者一巡の猛攻で5点を奪ったが、関西大学も5回九番今橋の2点本塁打を含む6安打で同点に追いついたが最後には力が尽きた。

環太平洋大学0000100 : 1
 城西大学0000000 : 0

[環] ○吉井 朝香ー米倉 綾香
 (二塁打)鎌田 優希
 [城] ●並木あかねー江口 菜摘
 (二塁打)三浦 万季

【評】IPU1点を守り切った！

IPU環太平洋大学は5回表、3番鎌田の適時打により1点を先取した。一方、城西大学は、3回裏無死二塁の走者を還すことなく、その後も投手の好投により惜敗した。

東海大学00001000 : 1
 日本文理大学00100001x : 2

[東] 矢作 実緒・●高橋 千夏ー渡邊 真央
 [日] ○阿南 恵子ー森田 京・乙津向茄秋
 (三塁打)小坂 茜

【評】タイブレーカーを日本文理が制す

日本文理大学が接戦を制した。両チーム1点ずつ取り合って延長タイブレークに突入。先攻の東

海大学は一死で三塁に走者を進めるも後続が倒れ無得点！対して後攻日本文理大学は無死一二塁から犠打悪送球で二塁走者が帰りサヨナラ勝ちした。

東京女子体育大学0000410:5
日本福祉大学2000001:3

[東] 萩原あゆみ・○柳橋 里奈ー比護奈保子
(本塁打)清水 汐里
[日] ●稲垣 葵衣ー大森 早稀・黒田 朋美・
久保 芽衣
(二塁打)大崎 小夏・鈴木 里奈

【評】7番打者清水の本塁打で東女体大学圧勝
日本福祉大学が1回裏に5番打者大崎の二塁打
で2点先行するも、5回表東京女子体育大学が先
頭打者の本塁打をきっかけに打者10人の猛攻で一
挙4点を挙げ試合を決定づけ、5対3で圧勝した。

東海学園大学0001000:1
富士大学101000x:2

[東] 柴田 果歩・●原内 智香・山田 玲菜ー
棚町 佳奈
(本塁打)吉田 彩夏
[富] ○苅込 千波ー相馬 里砂
(本塁打)金田汐央里
(二塁打)門馬沙也加

【評】富士大、昨年ベスト4を1点差で下す
富士大学は1回裏、先頭打者金田が右翼へ本塁
打で先制し、3回裏には柏原が左中間へタイムリ
ーヒットで二塁走者がホームインして試合を優勢
に進めた。東海学園大学は4回表吉田が右翼へ本
塁打するもランナーなく最少得点にとどまった。
その後は苅込投手に抑えられ無念のゲームセット。

大阪青山大学0000000:0
早稲田大学120000x:3

[大] ●中尾 百伽・友藤 紗恵・川添 恵・
沖島 由奈ー長井みなみ
[早] ○伊藤貴世美・廣瀬 夏季・宮川 眞子ー
加藤 千陽

【評】早大、投手陣の好投で勝利！
早稲田大学は初回、失策で出塁した打者を犠打

と二塁打で先制。2回裏には更に2得点と点差を
広げる。一方、大阪青山大学は早稲田大学の繰り
出す3投手にわずか3安打に抑えられ初戦敗退。

山梨学院大学0002010:3
大阪国際大学0000000:0

[山] ○信田 沙南・小林 咲嬉ー渡邊 桜
(二塁打)川田 奈旺
[大] ●石川 千尋ー梶原ゆりな
(三塁打)西村 希梨
(二塁打)佐々木萌香

【評】山梨学院大学完封勝ちで1回戦突破
山梨学院大学、4回6回の二死からの連打で得
点を挙げ勝利!!

日本体育大学1110107:11
星城大学0010000:1

[日] ○山田 蓮・中山日菜子・浅井 茉琳ー
宇野有加里・安川 裕美
(本塁打)吉松 梨乃
(三塁打)宇野有加里
(二塁打)亀田 栞里・本間 睦・上松 優希

[星] ●石川 千尋ー梶原ゆりな

【評】日本体育大学、圧勝で1回戦を突破
日本体育大学毎回安打で11得点挙げ1回戦突破。
一方星城大学は序盤は粘るも日本体育大学の3投
手に1点に抑えられ初出場を勝利で飾れなかった。

▼第2日(9月3日)2回戦

環太平洋大学短期大学部0000102:3
園田学園女子大学000005x:5

[環] ●吉松 玲美・森 千晴ー吉松 玲奈
(本塁打)藤原由紀子
(二塁打)藤原由紀子
[園] 神崎 奈帆・○原 奈々ー椀山 奈々・
服部 洋代
(三塁打)屋瀬 未奈
(二塁打)中村 優花②・白石 望美

【評】園女大、終盤の逆転で3回戦に進出
両チームとも4回まで得点に至らなかったが、
環太平洋大学短期大学部が、5回表に5番藤原の

センターを越える本塁打により先制。園田学園女子大学は、6回裏一死満塁で9番屋瀬がセンターを越える三塁打で3点、さらに2点を追加し逆転しそのまま逃げ切った。環太平洋大学は、7回表に5番藤原が二塁打で2点を取り反撃に出たが、後続が絶たれ惜敗した。

日本女子体育大学 0 2 0 0 0 1 0 : 3
松本大学 0 0 2 0 1 1 x : 4

[日] 鈴木 美帆・●山本 優花ー久保かえで
(二塁打)吉田陽南子
[松] 山下ひかり・○大西 由美・杉山 恭香ー
駒田 実優
(二塁打)水沢 陽香

【評】松本大学が接戦を制す

松本大学は5回一死から1番水沢、2番小磯の連続安打で二三塁とすると、3番幸田の犠打により同点に追いついた。6回に先頭打者の5番酒井が敵失で出塁し、6番小山の犠打でチャンスを作ると、8番濱田の適時打により逆転に成功し勝利した。一方、日本女子体育大学は2回表、5番星が安打で出塁し、7番吉田の二塁打で先制したが、その後、逆転されて6回に8番中村から3連続安打で再び同点とするも、追加点を挙げられず惜敗した。

東京富士大学 0 0 0 1 0 0 0 0 1 0 : 2
中京大学 0 0 0 0 1 0 0 0 1 1 x : 3

[東] ●千葉 咲実ー深沢 未花
(二塁打)南 貴子
[中] ○金丸侑志帆・丹羽 萌・寺澤小百合・
村田 未幸ー小寺 真琴
(三塁打)河野たまな

【評】中京大学が10回サヨナラ勝ちで制す。東京富士の粘り、届かず

東京富士大学は4回のダブルスチールによる1点、中京大学は三塁打を含む2安打による1点を取ったまま、延長戦に突入した。9回に両チーム1点ずつ追加した後の10回、中京大学は、一死三塁で6番代打高山の打席での5球目に、スクイズを試みたが外され、走者知見が三本間に挟まれた。

しかし、野手のタッチをくぐり抜けて本塁に生還し、決勝点を挙げた。東京富士大学は、この試合先制点を取り中京大学に粘り強く食らいついていったが、あと一歩のところまで力及ばず、惜敗した。

武庫川女子大学 0 0 0 0 0 0 0 1 : 1
淑徳大学 0 0 0 0 0 0 0 0 : 0

[武] ○立目 静奈ー福元 美紗
[淑] ●朝倉 莉奈ー小澤 陽

【評】武庫川女子大学が8回延長戦に競り勝ち3回戦に駒を進めた

両チームとも、投手の好投により、無得点のまま7回を終了。武庫川女子大学は、8回表二塁走者を三塁に送り、9番代打谷本が右翼へ犠牲フライを打ち、三塁走者が本塁を踏み、これが決勝点となった。最後まで互角に戦っていた淑徳大学だが、適時打が出なくて得点を挙げられず、あと一歩のところまで惜敗した。

環太平洋大学 0 0 0 0 4 5 : 9
清和大学 0 0 0 0 0 0 : 0

[環] ○吉井 朝香・藤 彩夏ー米倉 綾香・
内田 成香
(二塁打)鎌田 優希、桃原 祐里、
松井 陽日

[清] ●古屋 英恵・森田 結奈・北野澤美歌ー
荒木かんな

【評】IPU環太平洋大学快勝

両チーム投手の好投により4回まで淡々とゲームが進行するも、IPUは5回表、6回表に打者一巡の猛攻で一挙4点と5点を挙げてIPU環太平洋大学の完勝となる。

東京女子体育大学 0 1 1 0 0 0 0 : 2
日本文理大学 0 2 0 0 0 1 x : 3

[東] ●萩原あゆみ・柳橋 里奈ー比護奈保子
[日] ○阿南 恵子ー乙津向茄秋

【評】日本文理大、6回に勝ち越して3回戦進出
2ー2で迎えた6回裏、日本文理大学は二死満塁から5番乙津が中前打、1点をもぎとって古豪東京女子体育大学を撃破。

富士大学0000101 : 2
早稲田大学0000000 : 0

[富] ○苅込 千波ー相馬 里砂

(二塁打)金田汐央里

[早] 伊藤貴世美・●廣瀬 夏季ー加藤 千陽

【評】富士大 早稲田大を1安打に抑え完勝!

富士大学は早稲田大学の左腕伊藤投手に4回まで抑えられていたが、5回表投手交代を機に先頭打者6番松橋が初球を中堅前安打で出塁、犠打と二塁ゴロの間に二死三塁とし9番打者築瀬の中堅前安打で先制した。7回にも5回と同様に先頭打者6番松橋の中堅前安打で出塁、犠打と安打で一死二三塁のチャンスを作り、9番打者の築瀬のスクイズで追加点を挙げた。一方、早稲田大学は相手苅込投手のコーナーを突く投球で安打に抑えられた。

山梨学院大学0002000 : 2
日本体育大学301011x : 6

[山] ●小林 咲嬉, 信田 沙南ー渡邊 桜・菊池 朋美

[日] ○山田 蓮・中山日菜子ー宇野有加里

(本塁打)宇野有加里

(二塁打)上松 優希

【評】日体大、好機を確実に生かした打撃陣

日本体育大学は1回裏一死一二塁と好機を迎え中越え本塁打と3点先制した。3、5、6回に追加点を加え、試合を決める。一方山梨学院大学は、4回表連続内安打で反撃。失策と犠牲フライで2点を挙げるが、勝利に及ばなかった。

▼第2日(9月3日)3回戦

松本大学00100 : 1
園田学園女子大学3104x : 8

[松] ●山下ひかり・大西 由美・杉山 恭香ー駒田 実優

[園] ○原 奈々・根本 七海ー服部 洋代

(本塁打)下山 絵理

(三塁打)中村 優花

(二塁打)加藤 愛夢

【評】園女大、コールドで松本大を圧倒

初回到3点を先取した園田学園女子大学は、その後も攻撃の手を緩めず5回までに大量8点を挙げて松本大学を圧倒した。松本大学は3回に4番駒田の適時打で1点を返すに留まり完封負けを逃れるのが精一杯であった。

中京大学00000001 : 1
武庫川女子大学00000000 : 0

[中] 金丸侑志帆・丹羽 萌・○村田 未幸ー小寺 真琴

(二塁打)小寺 真琴・野原 菜緒

[武] 立目 静奈・上村 麻友・●脇山 朱音ー福元 美紗

【評】中京大がタイブレーカーを制し準決勝へ

両チーム走者は出るものの、あと一本が出ず延長戦に突入した。8回表中京大学は、二塁走者を佐藤と杉本の犠打で待望の得点を挙げた。その裏の攻撃を守り切り接戦を制した。武庫川女子大学は、6回裏一死一三塁と攻めたが、後続が絶たれ得点することができなかった。

日本文理大学0000000 : 0
環太平洋大学000001x : 1

[日] ●阿南 恵子ー乙津向茄秋

(二塁打)阿南 恵子

[環] ○吉井 朝香ー米倉 綾香

【評】環太平洋大、投手戦を制して4強へ

6回の裏、環太平洋大学は0-0の均衡を破る4番松井の適時打で貴重な決勝点をたたき出し、吉井投手の好投で投手戦を制して準決勝進出。日本文理大学は阿南投手の好投とバックの再三の好守で最少失点に抑えながらも安打が続かず惜敗した。

日本体育大学003204 : 9
富士大学100000 : 1

[日] ○山田 蓮・長谷川鈴夏・浅井 茉琳ー宇野有加里

(三塁打)上松 優希

(二塁打)宇野有加里

[富] ●苅込 千波・上野 寛菜ー相馬 里砂

(二塁打)金田汐央里・柏原千風悠

【評】日本体育大学の完勝

日本体育大学は初回到先制されるも3回の3得点を皮切りに、4回2点6回4点を挙げて、富士大学を突き放し6回コールドで完勝し、準決勝進出を収める。

▼第3日(9月4日)準決勝戦

中京大学0000000:0
園田学園女子大学001002x:3

[中] 寺澤小百合・●金丸侑志帆・村田 未幸一
小寺 真琴

[園] ○原 奈々服部 洋代

(本塁打)白石 望美

(二塁打)石川 恭子

【評】園田学園女子大学3安打完封で勝利

園田学園女子大学は、3回裏二死から2番・下村が痛烈に三遊間を破り、出塁。3番・石川の右中間を破る二塁打で一気に本塁を陥れ、1点を先制。さらに、6回裏には、右前安打で出塁した4番・加藤を犠打で手堅く送り、二死ながら走者を三塁に進めると、6番・白石が左越え2点本塁打。貴重な追加点を挙げ、決勝に名乗りを上げた。

敗れた中京大学は、5回まで園田のエース・原の前に1人の走者も出せずでしたが、6回表、先頭打者の6番・山元がチーム初安打となる左前安打。それを口火に内野ゴロ、死球、安打で一死満塁と攻め立てたが、後続が打ち取られ、得点できず、完封負けを喫した。

環太平洋大学1010000:2
日本体育大学0000100:1

[環] ○吉井 朝香一米倉 綾香

(本塁打)有吉 茜

[日] ●山田 蓮・中山日菜子一字野有加里

(二)吉松 梨乃

【評】IPUが接戦を制し、決勝へ進出!

IPU環太平洋大学は、1回表1番・有吉の打球が三塁線を痛烈に破り、有吉は持ち前の俊足を活かしてランニング・ホームランで本塁に生還し、

1点を先制した。3回にもその1番・有吉が四球で出塁。バントで送って迎えた一死二塁の場面で、4番・松井の安打で2点目を追加した。投げては「エース」吉井が今大会26得点の猛威を振るったに日体の強力打線を最少失点に抑え込み、「初優勝」に「王手」を掛けた。

一方、敗れた日本体育大学は、5回二死までパーフェクトに抑えられていたが、6番吉松の二塁打と7番代打木原の安打で1点を返し、最終回には、一死から四球と中前安打で一打同点の好機を作ったが、相手の好守に阻まれ準決勝で姿を消した。

▼第3日(9月4日)決勝戦

環太平洋大学0000020:2
園田学園女子大学0000000:0

[環] ○吉井 朝香一米倉 綾香

[園] ●原 奈々服部 洋代

【評】IPUが接戦を制し、悲願の初優勝!

IPU・吉井、園田・原の両先発投手が互いに力投し、決勝戦にふさわしい好ゲームを展開。両チーム無得点のまま、試合は終盤へ突入した。

IPUは6回表、先頭打者の1番有吉が二遊間を破る安打で出塁。2番・西野の内野ゴロがエラーを誘い、無死一二塁とし、さらに次打者の送りバントで一死二三塁の好機を広げると、4番松井の打球が投手のグラブを弾き、ボールがレフト方向に転々とする間に二者が生還。待望の先取点を挙げ、試合の均衡を破った。

2点のリードをもらった先発・吉井はこの後も気迫のこもった投球で走者を出すものの、要所を抑え強打の園田打線をシャットアウト。被安打5、奪三振7の力投で見事完封勝利を収め、「初の頂点」に登り詰めた。

敗れた園田学園女子大学は、3回裏に一死二三塁、4回裏に二死三塁、6回裏に一死二塁と再三得点機を作ったものの、いずれもモノにすることができず、「連覇」は夢と消えた。試合後、「エース」で「主将」の原が後輩の肩を抱きかかえる姿勢は、多くの重圧を背負いながら1年間を闘い抜いた彼女の「成長」を物語っているように見えた。

「全員」でつかんだ勝利

IPU環太平洋大学女子ソフトボール部主将 鎌田 優希

今年のチームが始動してからこの一年間、日本一になること、そしていろんな人から愛され、応援してもらえるチームになることを目標に日々取り組んできました。そのために、“凡事徹底”「当たり前前の事を当たり前前に徹底して行う」というテーマを掲げ、日常生活の中でも一人一人が何事にも全力で取り組んで一つのことを徹底して行うことが、ソフトボールでのプレイにも最終的には繋がるかと信じてやってきました。

しかし、今までを振り返ると、時には選手同士でぶつかり合うことや、試合で自分たちのプレイを見失い、なかなか結果が出ないことなど沢山ありました。その度に自分たちでチームを良くするにはどうしたらいいのか考え、試行錯誤を繰り返してきました。そうする中で気付いたことは、

「どんな状況であってもチーム全員が全力で目の前の一球、ワンプレイに必死になり、熱くなり、心から楽しむことが出来た時、自分たちには大きな力が生まれる」ということです。それが、どのチームにも負けない自分たちの一番の強みであり、歴代の先輩方から今まで受け継いできた「IPUらしさ」だと思います。その自分たちらしさをどんな試合でも常に出し切れるような準備の仕方を、インカレに向けてチーム全体で徹底してきました。

そしてインカレ初戦、相手は今年の東日本インカレの王者であり、初戦にすべてをかけて全員で挑みました。「IPUらしさ」を前面に出せて、今までにないチームの盛り上がりや集中力を感じ、チームが一つになるのを実感しました。その後も、

決勝まで一試合も楽な試合などありませんでしたが、誰一人として先の試合の事を考えることなく、目の前の一試合、一球に全てを出し切れたことが、優勝という結果に結び付いたのだと思います。

そしてもう一つ、インカレで自分たちのプレイができたことは、ベンチ入りできなかったメンバーの支えなしにはあり得ませんでした。インカレメンバー主体の練習になった時、暑い中ずっとランナーや守備をしてくれたり、率先してチームのために動いてくれたりしました。インカレで多くのピンチを切り抜けられたのも、数少ないチャンスをもものに出来たのも、メンバー外の練習の時から支えがあったからこそ、「大丈夫、いつも通り」と思えたし、出ている選手の背中を強く押ししてくれました。全員で挑めたからこそその優勝です。

また、選手だけでなく、監督、コーチ、保護者、OGの方、沢山の方々の応援が本当に大きな力を与えていただき、IPUの絆の深さを改めて感じる事ができて、感謝しかありません。IPUの最高記録だったベスト4を超えて優勝という新しい歴史を刻めたことと、山本清人監督、加藤愛コーチ、そして前監督の山本孔一先生を胴上げできて恩返しが出来たことがすごく嬉しいです。この舞台でこの仲間と戦えたことは宝物です。

そして、この優勝はゴールではなく、またここからスタートであるので、私自身も、チームも、さらに新しい歴史を刻んでいけたらいいと思います。



全日本大学(女子)選手権大会入賞校・入賞回数

大学名	優勝	2位	3位	入賞	大学名	優勝	2位	3位	入賞
日本体育大学	18	13	7	1	大阪体育大学		1	1	
東京女子体育大学	15	15	8		東海学園大学		1	1	1
園田学園女子大学	6	5	9		東海女子大学		1	1	
東北福祉大学	3		2		鈴鹿国際大学		1	1	
日本女子体育大学	1	5	8		九州女子大学			2	
大阪成蹊女子短大	1	4	5		仙台大学			2	
中京大学	1		12	1	東京富士大学			1	1
淑徳大学	1		2		関西外国語大学			1	
大阪大谷大学	1		2		神戸親和女子大学			1	
中京女子大学	1		1		龍谷大学			1	
早稲田大学	1		1		愛媛女子短期大学			1	
環太平洋大学	1		1		龍谷大学			1	
東京国際大学	1				清和大学			1	
武庫川女子大学		2	6		福岡大学			1	
大阪国際大学		2	2		立命館大学			1	

※旧校名分を含む ※第39回の優勝は2校 ※第50回は入賞4校 ※50回連続出場校：日本体育大学・東京女子体育大学

女子大会打撃ベスト10 (規定打席数12以上)

順位	位置	選手名	大学名	打席数	打点	安打	得点	犠打	四球	死球	三振	盗塁	残塁	打出	本塁打	三塁打	二塁打	打撃率	試合		
1	7	小坂 茜	日本文理	12	11	7	1	1	0	0	1	0	1	7	0	8	0	1	0	0.636	3
2	3	松井 陽日	環太平洋	16	13	8	0	9	0	2	1	0	0	7	0	11	0	0	1	0.615	5
3	9	米本 実姫	園田学園	13	11	6	1	2	1	1	0	1	1	5	0	7	0	0	0	0.545	5
4	2	宇野有加里	日本体育	13	10	5	2	8	2	1	0	0	1	1	0	6	1	1	1	0.500	4
5	7	加福 直子	日本体育	16	15	7	4	3	1	0	0	0	1	3	0	7	0	0	0	0.467	4
6	9	上松 優希	日本体育	13	11	5	3	4	0	2	0	2	0	3	0	7	0	1	2	0.455	4
7	8	中村 優花	園田学園	16	14	6	3	3	0	2	0	1	0	2	0	8	0	2	2	0.429	5
8	5	下山 絵理	園田学園	14	12	5	2	4	1	1	0	4	0	1	0	6	1	0	2	0.417	5
9	3	白石 望美	園田学園	14	10	4	2	2	3	1	0	3	0	0	5	1	0	1	0	0.400	5
9	6	鎌田 優希	環太平洋	17	15	6	2	3	2	0	0	1	0	5	0	6	0	0	2	0.400	5
9	8	有吉 茜	環太平洋	18	15	6	7	1	0	3	0	1	1	2	0	9	1	0	0	0.400	5

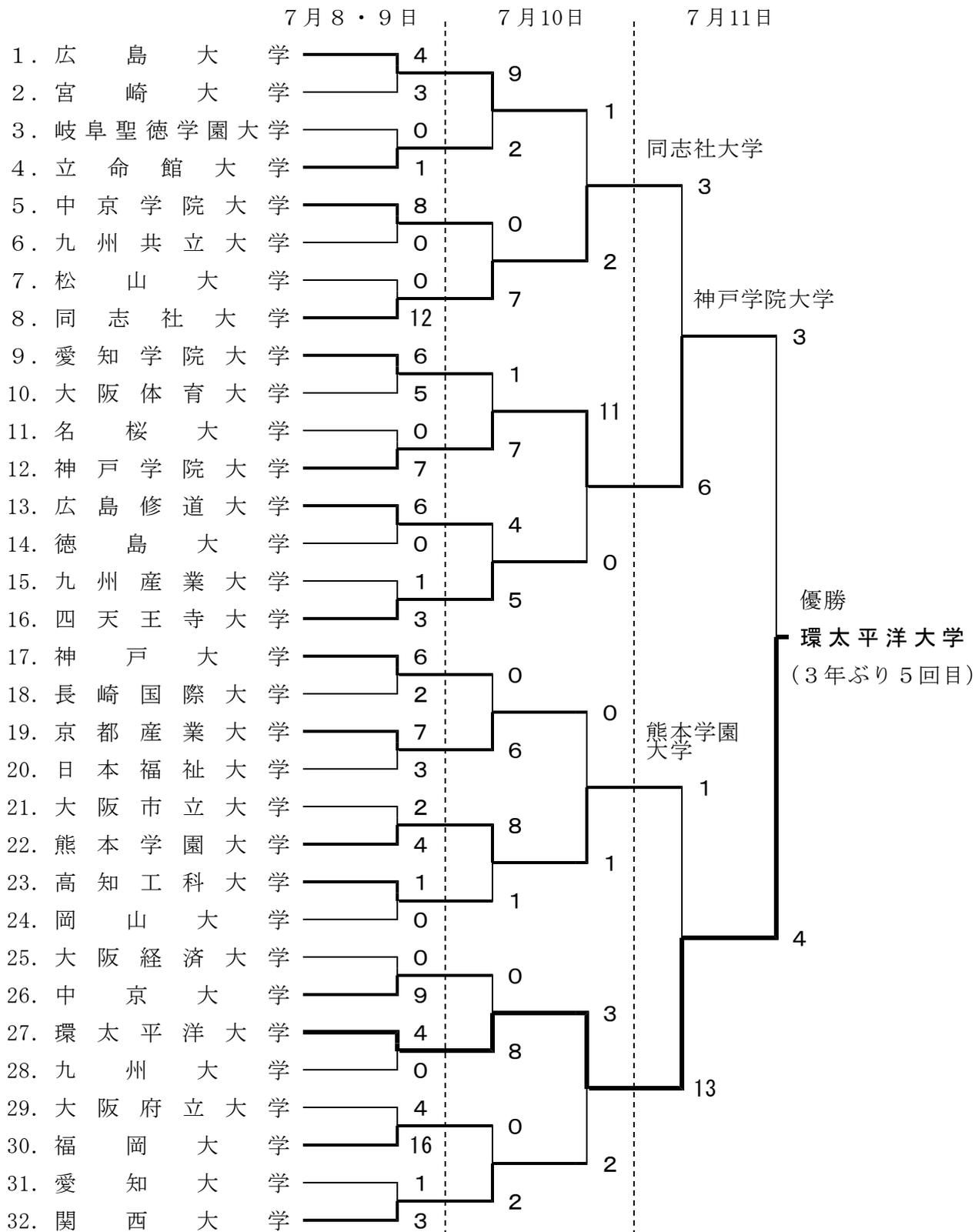
女子大会投手成績ベスト10 (規定投球イニング数11以上)

順位	選手名	大学名	投球回	打者数	打点	被安打	失点	自責点	被犠打	与四球	与死球	奪三振	被暴投	不正投	投球数	防御率	勝試合	負試合	試合数
1	吉井 朝香	環太平洋	33	122	113	22	1	1	2	5	2	23	0	0	95	0.00	2	0	2
2	朝倉 莉奈	淑徳	15	52	44	5	1	1	4	3	1	11	0	0	175	0.00	2	0	2
3	立目 静奈	武庫川	14.1/3	53	51	16	1	1	2	0	0	3	0	0	89	0.00	0	1	1
4	阿南 恵子	日本文理	21	82	70	16	4	2	8	3	1	11	0	0	174	0.00	1	0	3
5	千葉 咲実	東京富士	13.2/3	51	47	6	3	2	0	1	3	23	0	0	293	0.40	2	0	3
6	金丸侑志帆	中京	18	70	62	15	3	3	4	3	1	13	1	0	178	0.60	1	0	3
7	原 奈々	園田学園	27	103	96	17	6	6	4	1	2	25	0	1	159	0.70	1	1	3
8	荻込 千波	富士	18	71	56	6	6	5	4	8	3	9	1	0	194	1.62	1	1	2
9	山田 蓮	日本体育	13.1/3	58	45	13	6	4	7	6	0	8	1	0	112	1.68	1	0	3
10	古屋 英恵	清和	13.1/3	58	49	16	11	11	3	4	2	11	1	0	248	2.33	2	1	3

第49回西日本大学(男子)ソフトボール選手権大会

会期：平成29年7月7日(金)～11日(火)

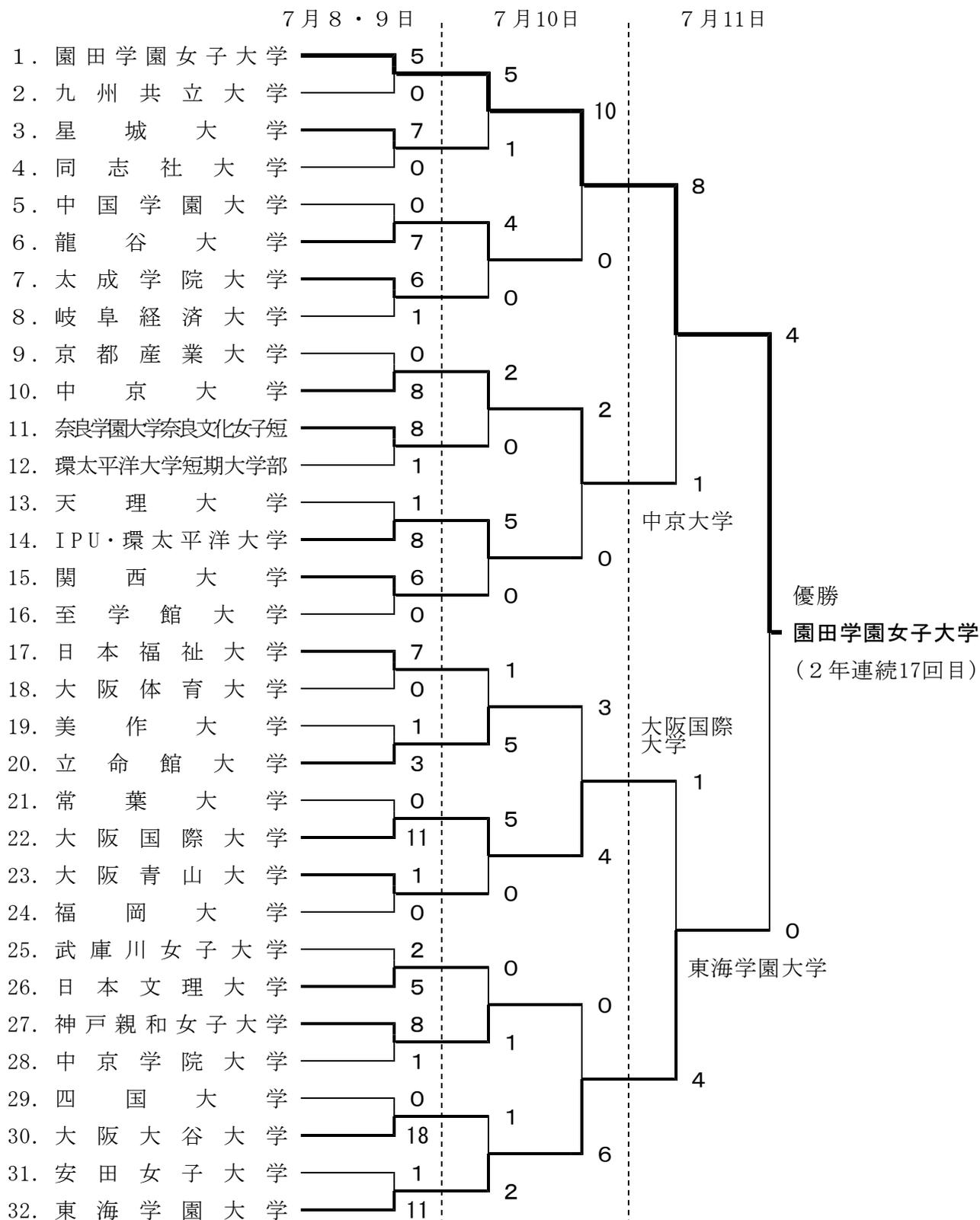
会場：宮崎県宮崎市／KIRISIMAヤマザクラ県総合運動公園 他



第49回西日本大学(女子)ソフトボール選手権大会

会期：平成29年7月7日(金)～10日(月)

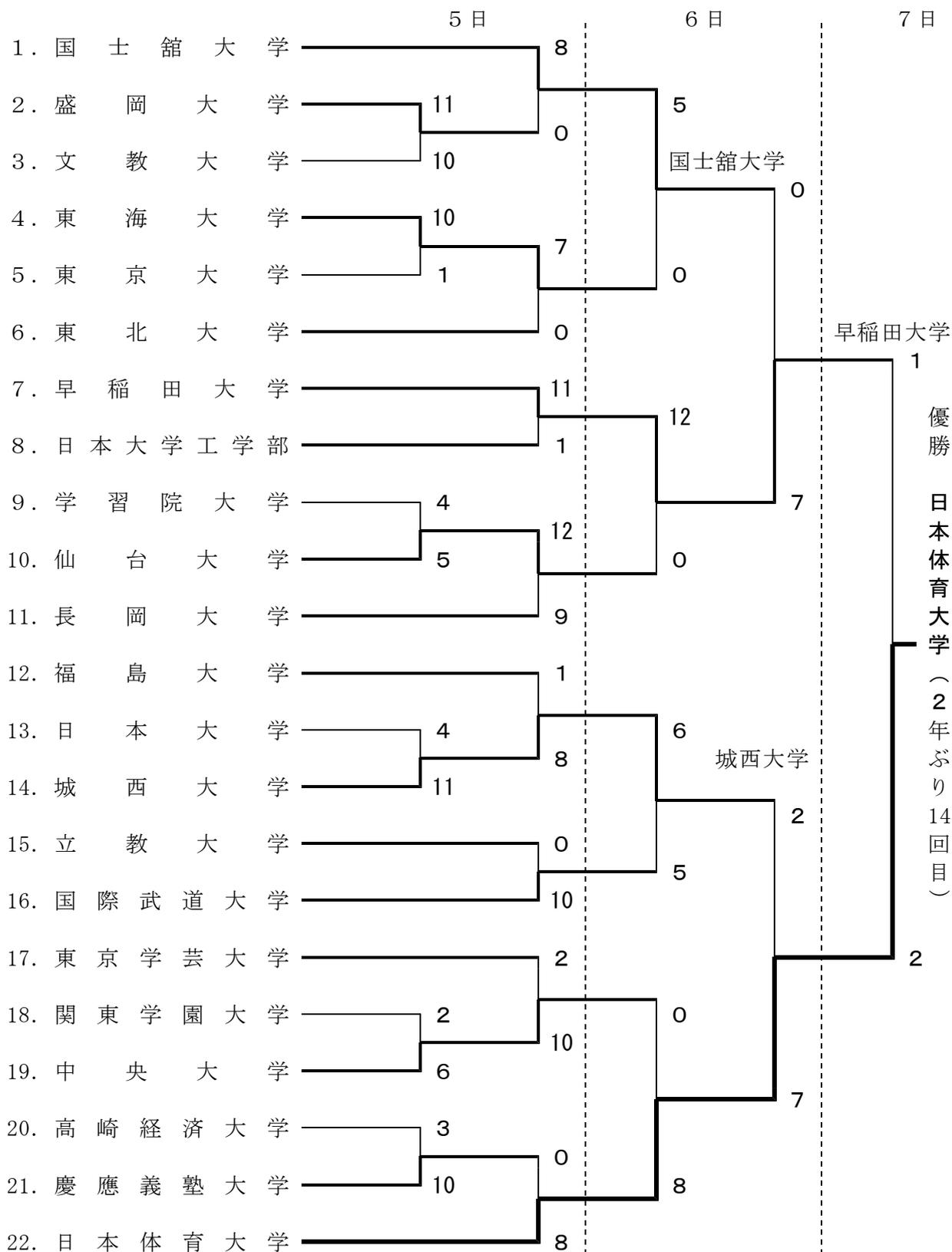
会場：宮崎県宮崎市／清武町総合運動公園SOKKENスタジアム 他



第32回東日本大学(男子)ソフトボール選手権大会

会期：平成29年8月4日(金)～8月7(月)

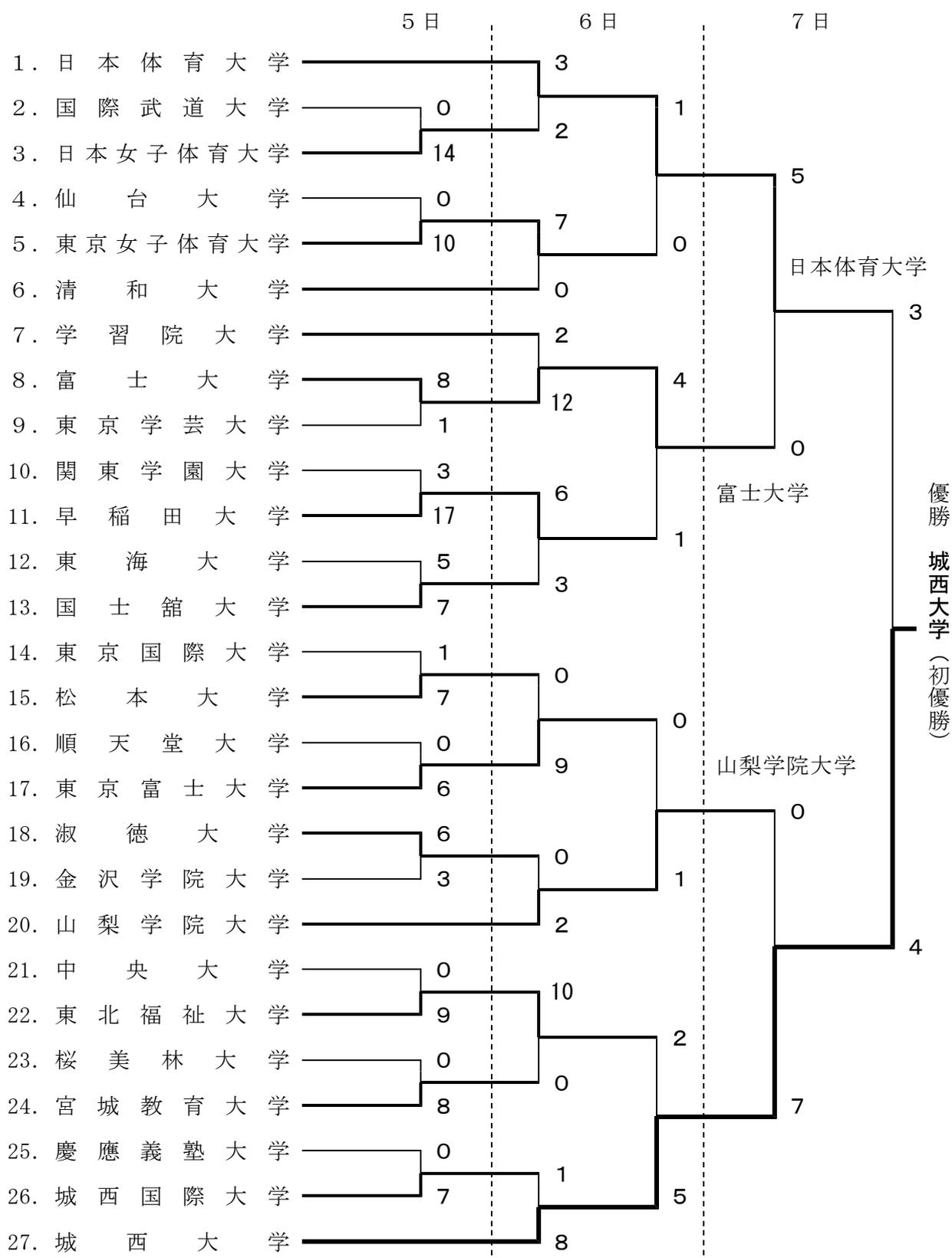
会場：福島県郡山市／ふるさとの森スポーツパーク



第32回東日本大学(女子)ソフトボール選手権大会

会期：平成29年8月4日(金)～7日(月)

会場：岩手県花巻市／石鳥谷ふれあい運動公園



第16回大学ソフトボール東海オープン

会期：3月22日(水)・23日(木)

会場：愛知県豊田市／豊田市運動公園ソフトボール場

予選リーグ戦(第1日)

Aグループ	愛知	高経	中院	勝	敗	順
愛知	-	○ 11-1	● 5-7	1	1	2
高崎経済	● 1-11	-	● 2-9	0	2	3
中京学院	○ 7-5	○ 9-2	-	2	2	1

Cグループ	中京	東海	中部	勝	敗	順
中京	-	● 4-5	○ 13-0	1	1	2
東海	○ 5-4	-	○ 9-8	2	0	1
中部	● 0-13	● 8-9	-	0	2	3

Bグループ	関学	関西	南山	勝	敗	順
関東学園	-	● 2-6	○ 15-1	1	1	2
関西	○ 6-2	-	○ 5-0	2	2	1
南山	● 1-15	● 0-5	-	0	2	3

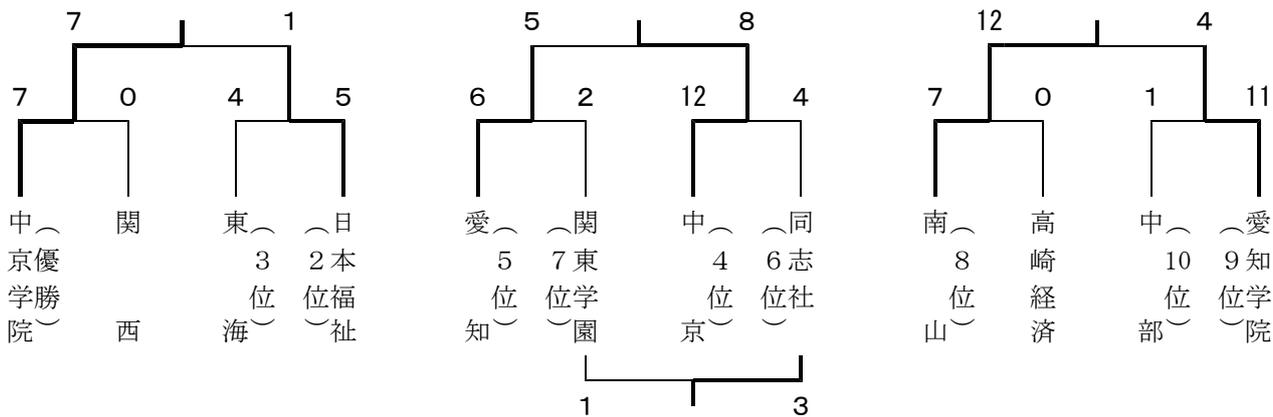
Dグループ	同志社	日福	愛院	勝	敗	順
同志社	-	● 1-6	○ 10-3	1	1	2
日本福祉	○ 6-1	-	○ 5-1	2	0	1
愛知学院	● 3-10	● 1-5	-	0	2	3

順位決定戦(第2日)

1～3位決定戦

4～7位決定戦

8～10位決定戦



第8回 城西大学学長杯大学女子ソフトボール大会

会期：平成29年3月19～20日

会場：埼玉県坂戸市毛呂山町

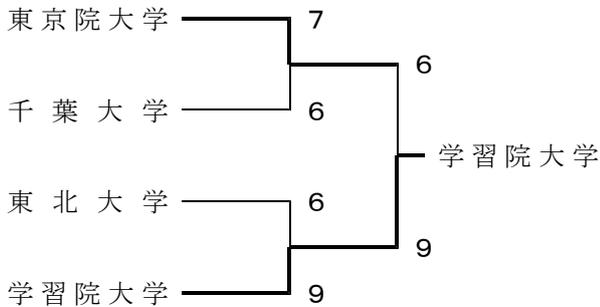
チーム	花王	山梨学院	城西	松本	日本体育	東京女体	勝	分	敗	順位
花王	-	○5-4	●0-7	○5-0	●0-3	●0-3	2	0	3	-
山梨学院	●4-5	-	●7-8	○11-10	●1-4	●5-6	1	0	4	-
城西	○7-0	○8-7	-	○8-3	○4-3	●0-3	4	0	1	2位
松本	●0-5	●10-11	●3-8	-	●2-7	●7-9	0	0	5	-
日本体育	○3-0	○4-1	●3-4	○7-2	-	●6-7	3	0	2	3位
東京女体	○3-0	○6-5	○3-0	○9-7	○7-6	-	5	0	0	優勝

第19回 千葉オープン・チャレンジカップ・ソフトボールフェスティバル

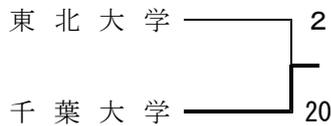
会期：3月22日(水)・23日(木)

会場：千葉県野田市／東京理科大学ソフトボール場

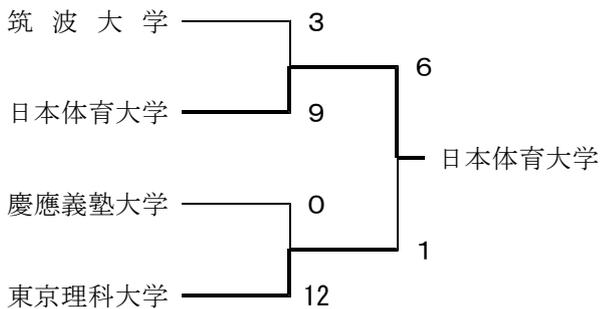
【予選Aブロック】



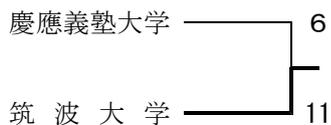
3位決定戦



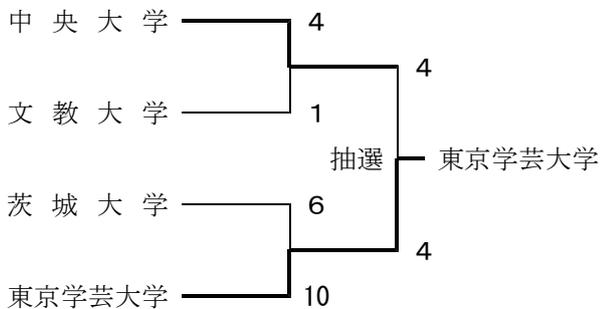
【予選Bブロック】



3位決定戦



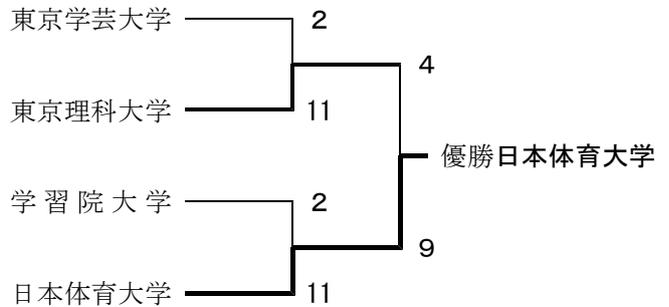
【予選Cブロック】



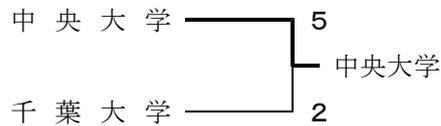
3位決定戦



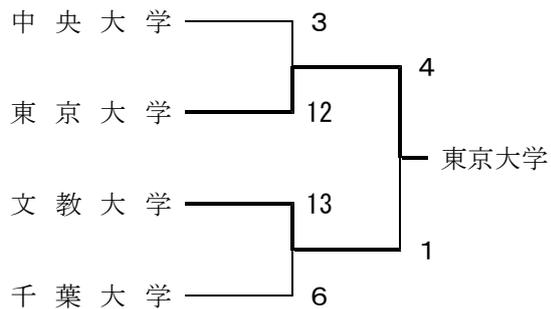
【I部決勝】



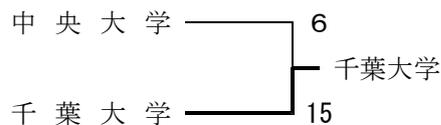
3位決定戦



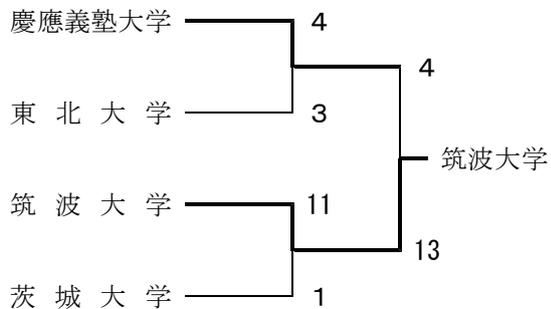
【II部決勝】



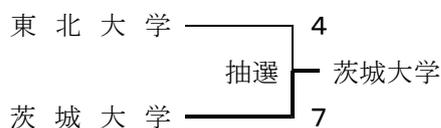
3位決定戦



【III部決勝】



3位決定戦



第18回 「峠のまち」 Matsuida Cup 男・女大学ソフトボール強化大会

会期：4月15日(土)～16日(日)

会場：群馬県安中市／五料運動場・坂本スポーツ広場・久芳スポーツ広場

【男子】

横川LEAG	東 国	信 州	城 西	関 学	順
東京国際	○	●	●	○	3
信 州	○	○	●	●	1
城 西	○	○	○	●	2
関東学園	●	○	○	○	1

※1～2位、3～4位は大会規定による。

順位決定戦

◇1～2位：関東学園大学6－3都留文科大学

◆5～6位：信州大学6－9高崎経済大学

碓氷LEAG	東 海	千 葉	高 経	都留文	順
東 海	○	○	●	●	4
千 葉	●	○	△	○	3
高崎経済	○	△	○	●	3
都留文科	○	●	○	○	1

3～4位は大会規定による。

◇3～4位：城西大学12－0千葉大学

◆7～8位：東京国際大学6－5東海大学

【女子】

BLEAG	富 士	東 福	新 島	松 本	順
富 士	○	●	○	●	3
東北福祉	○	○	○	●	2
新島短大	●	●	○	●	4
松 本	○	○	○	○	1

順位決定戦

◇1～2位：松本大学6－5東海大学

◆5～6位：富士大学9－1関東学園大学

DLEAG	東 海	関 学	文 教	城 西	順
東 海	○	○	○	○	1
関東学園	●	○	○	●	3
文 教	●	●	○	●	4
城 西	●	○	○	○	2

◇3～4位：東北福祉大学3－2城西大学

◆7～8位：新島短期大学10－8文教大学

【最終結果】（男子／女子）

優勝：関東学園大学／松本大学

準優勝：都留文科大学／東海大学

第3位：城西大学／東北福祉大学

第4位：千葉大学／城西大学

第5位：高崎経済大学／富士大学

第6位：信州大学／関東学園大学

第7位：東海大学／新島短期大学

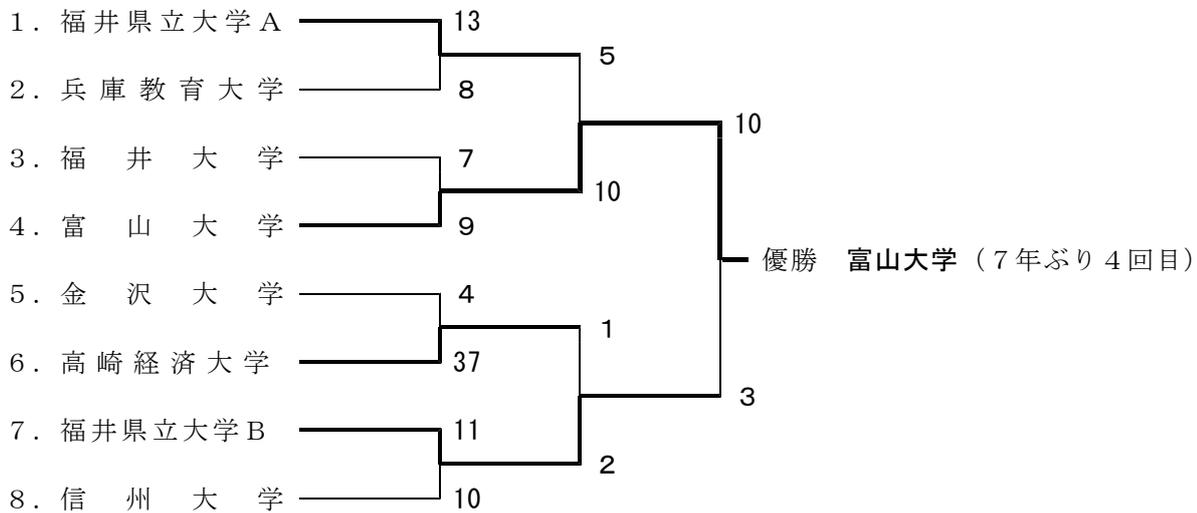
第8位：東京国際大学／文教大学

第15回 北信越大学オープンソフトボール大会

会期：7月8日(土)・9日(日)

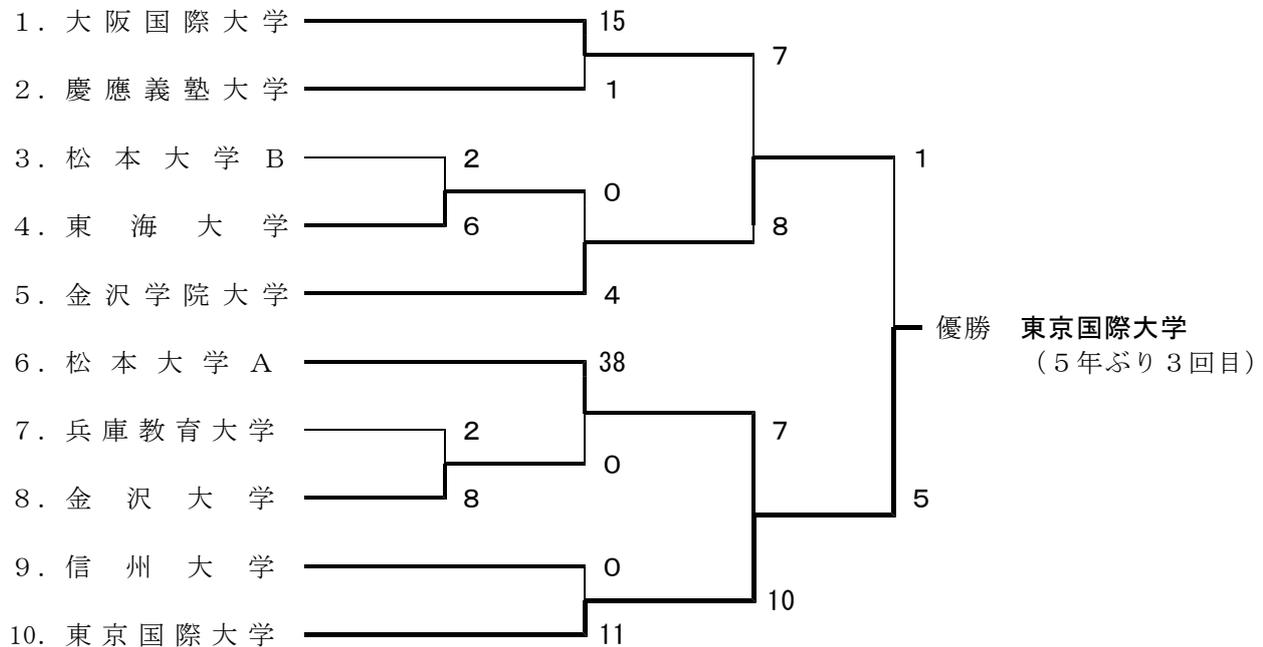
会場：石川県金沢／市営専光寺ソフトボール場

【男子】



3位決定戦 福井県立大学 A 10-3 高崎経済大学

【女子】



3位決定戦 大阪国際大学 1-8 松本大学 A

第 9 回 HAKUBA CUP 大学女子ソフトボール大会

会期：8 月 22 日 (火)～24 日 (木)

会場：長野県白馬村／村営北部 G、切久保第二 G、野平パノラマコート

大田市／総合運動公園多目的広場、平運動場、平野球場、やしろ公園運動場、常磐上一 G

予選リーグ戦

岩岳リーグ	大阪国際	美 作	淑徳 B	東 海	日本福祉	仙 台	勝	分	敗	勝点	順位
大阪国際		△4-4	△4-4	○8-3	○1-0		2	2	0	12	1
美 作	△4-4		●3-4	○6-4		○9-0	2	1	1	10	4
淑徳 B	△4-4	○4-3			●6-8	○2-0	2	1	1	10	3
東 海	●3-8	●4-6			●4-6	○13-0	1	0	4	4	5
日本福祉	●0-1		○8-6	○6-4		○19-0	3	0	1	12	2
仙 台		●0-9	●0-2	●0-13	●0-19		0	0	4	0	6

八方リーグ	武庫川	新島学園	星 城	金沢学院	淑徳 A	大阪体育	勝	分	敗	勝点	順位
武庫川女子		○7-0	●0-2	●2-6	●0-3		1	0	3	4	5
新島学園	●0-7		●0-7	●1-8		●1-6	0	0	3	0	6
星 城	○2-0	○7-0			●1-8	○4-2	3	0	1	12	3
金沢学院	○6-2	○8-1			○6-0	○5-4	4	0	0	16	1
淑徳 A	○3-0		○8-1	●0-6		○4-0	3	0	1	12	2
大阪体育		○6-1	●2-4	●4-5	●0-4		1	0	3	5	4

五竜リーグ	奈良文短	慶應義塾	松 本	東京国際	大阪青山	岐阜経済	勝	分	敗	勝点	順位
奈良文短		○8-1	△2-2	○6-2	○5-2		3	1	0	14	1
慶應義塾	●1-8		●0-7	●0-11		●2-9	0	0	4	0	6
松 本	△2-2	○7-0			○2-1	●0-1	2	1	1	11	2
東京国際	●2-6	○11-0			●1-2	○7-2	2	0	2	8	4
大阪青山	●2-5		●1-2	○2-1		○7-3	2	0	2	8	3
岐阜経済		○9-2	○1-0	●2-7	●3-7		2	0	2	8	5

※勝ち点が同一の場合の順位は、当該チーム間の対戦結果による。

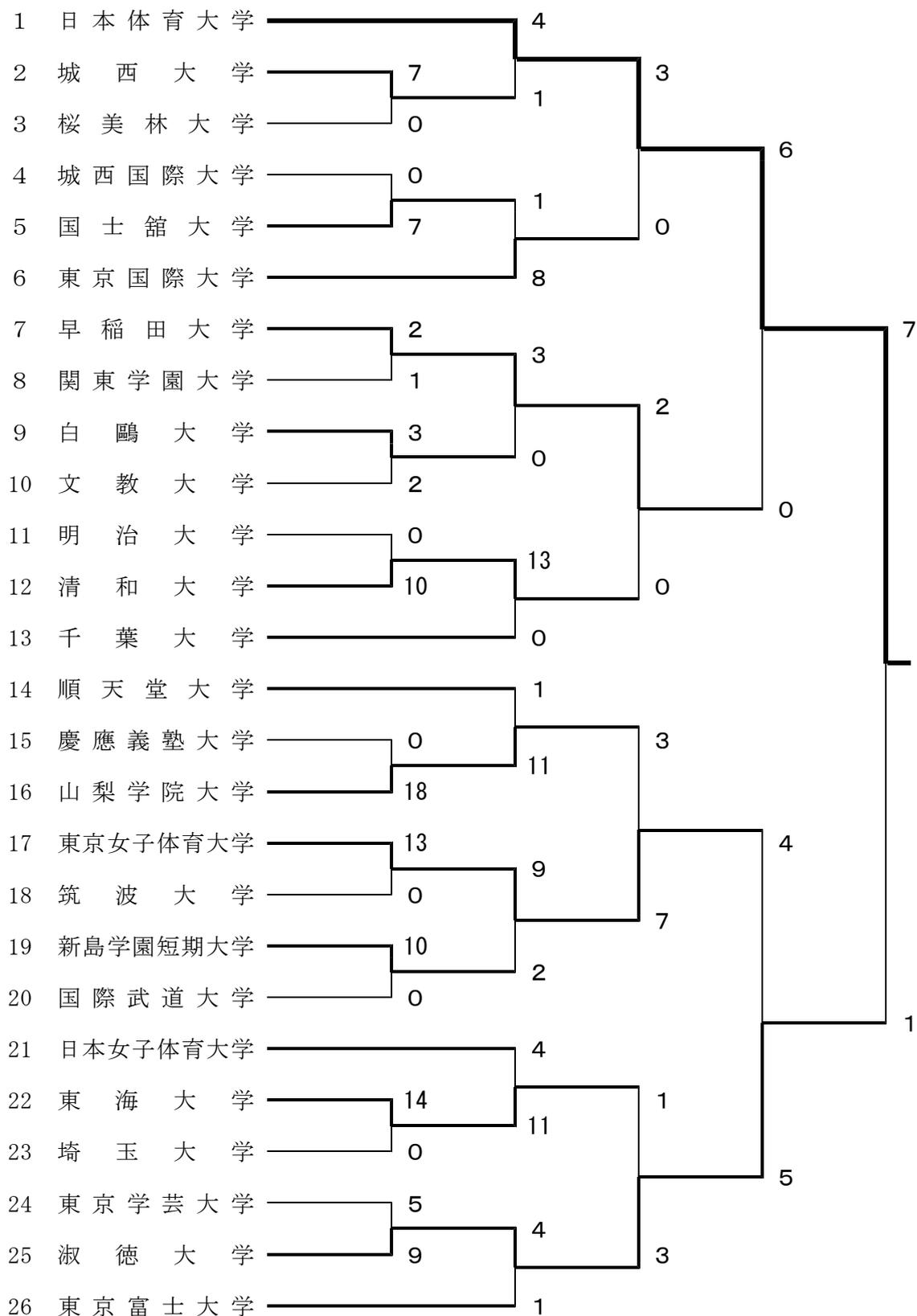
※3 日間にわたる荒天により順位決定リーグ戦は実施できなかったため、各予選リーグの 1 位チームを 3 校入賞とした。入賞校：大阪国際大学、金沢学院大学、奈良学園大学奈良文化女子短期大学部

第48回 関東大学男女ソフトボール選手権大会

会期：10月28日(土)～31日(火)

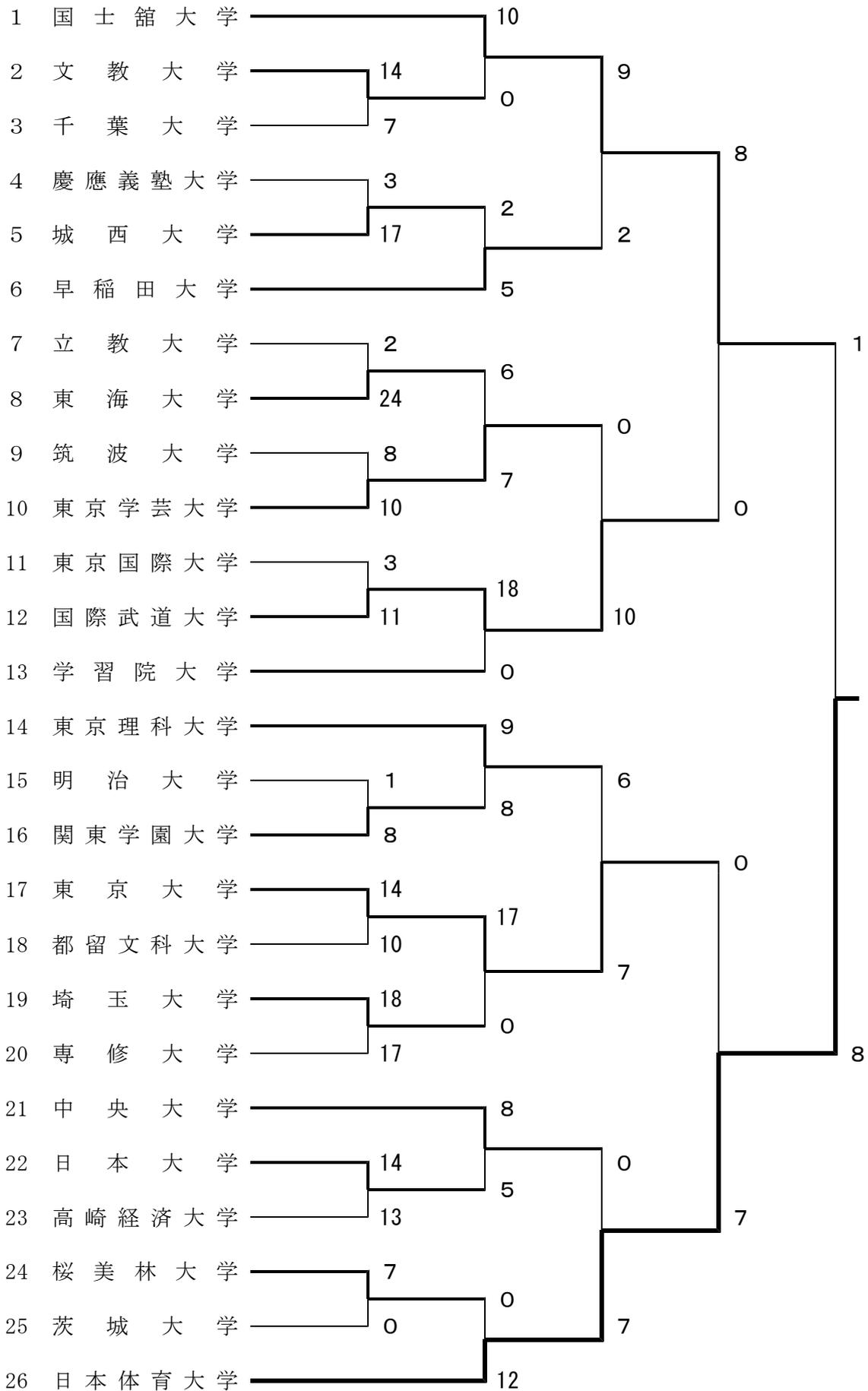
会場：東京都武蔵村山市／総合運動場他

【女子】



(2年連続18回目)
日本体育大学
優勝

【男子】



(3年ぶり27回目)
日本体育大学
優勝

第9回藤原初男杯 全国大学・実業団対抗選抜女子ソフトボール大会

会期：11月25日(土)・26日(日)

会場：愛知県豊田市／運動公園ソフトボール場

Aグループ	トヨタ	富士	大谷	中京	Dream	東福	I P U	東学	勝	分	敗	順
トヨタ	○	○				○	○		4	0	0	優勝
富士	●			●	○			●	1	0	3	-
大阪大谷	●			●	●			○	1	0	3	-
中京	○	○				○	○		4	0	0	2位
ドリーム シトリン	●	○				○	●		2	0	2	-
東北福祉	●			●	●			●	0	0	4	-
環太平洋	●			●	○			●	1	0	3	-
東海学園	○	●				○	○		3	0	1	-

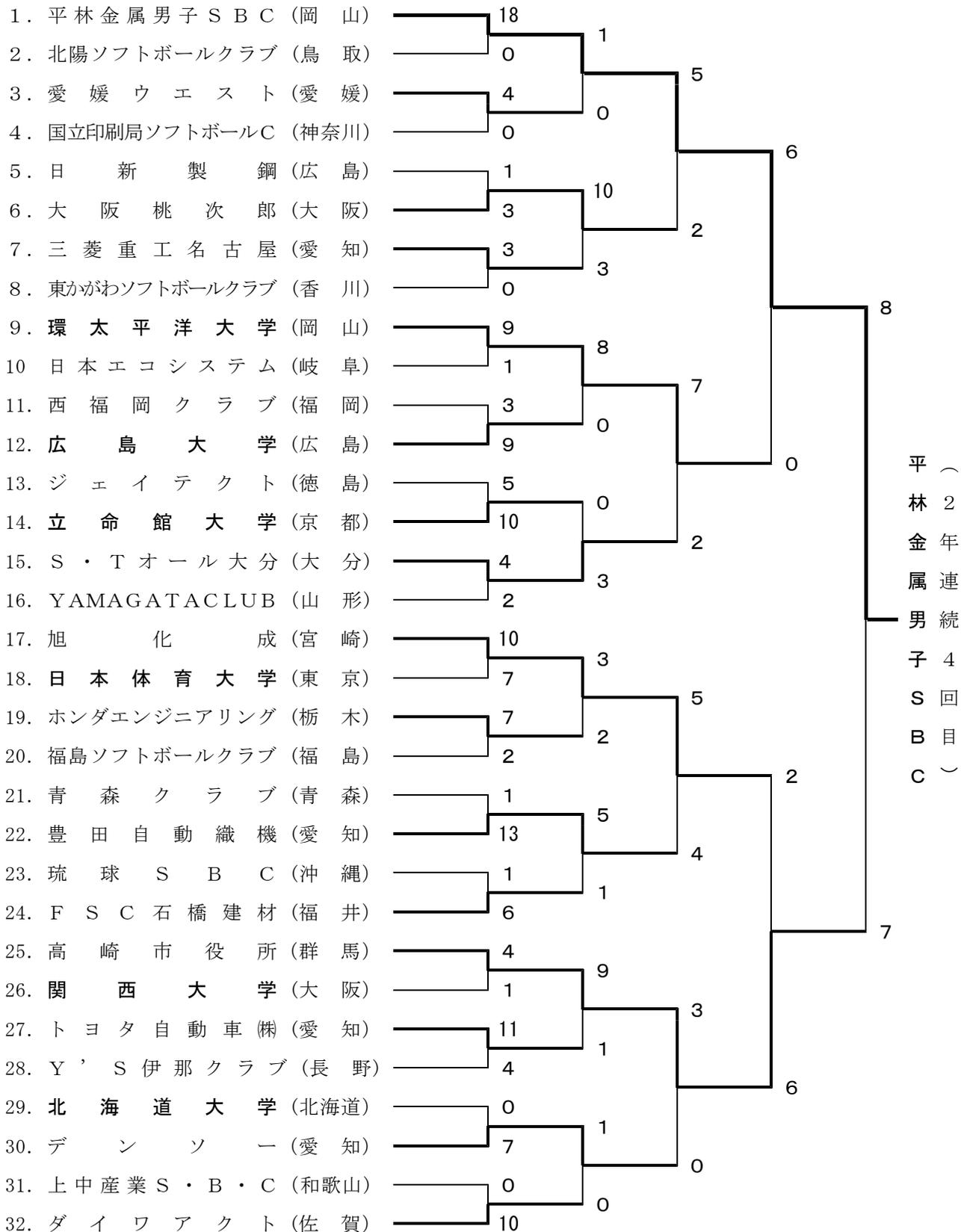
Bグループ	理化	松本	国際	星城	DENSO	城西	園田	日福	勝	分	敗	順
東海理化	●	△				○	●		1	1	2	-
松本	○			●	●			●	1	0	3	-
大阪国際	△			●	●			●	0	1	3	-
星城	○	○				○	●		3	0	1	-
デンソー	○	○				○	○		4	0	0	-
城西	●			●	●			○	1	0	3	-
園田学園	○			○	●			○	3	0	1	-
日本福祉	○	○				●	●		2	0	2	-

※優勝～2位は失点率による。

第63回全日本総合男子選手権大会

会期：平成29年9月16日～18日※降雨により1日順延

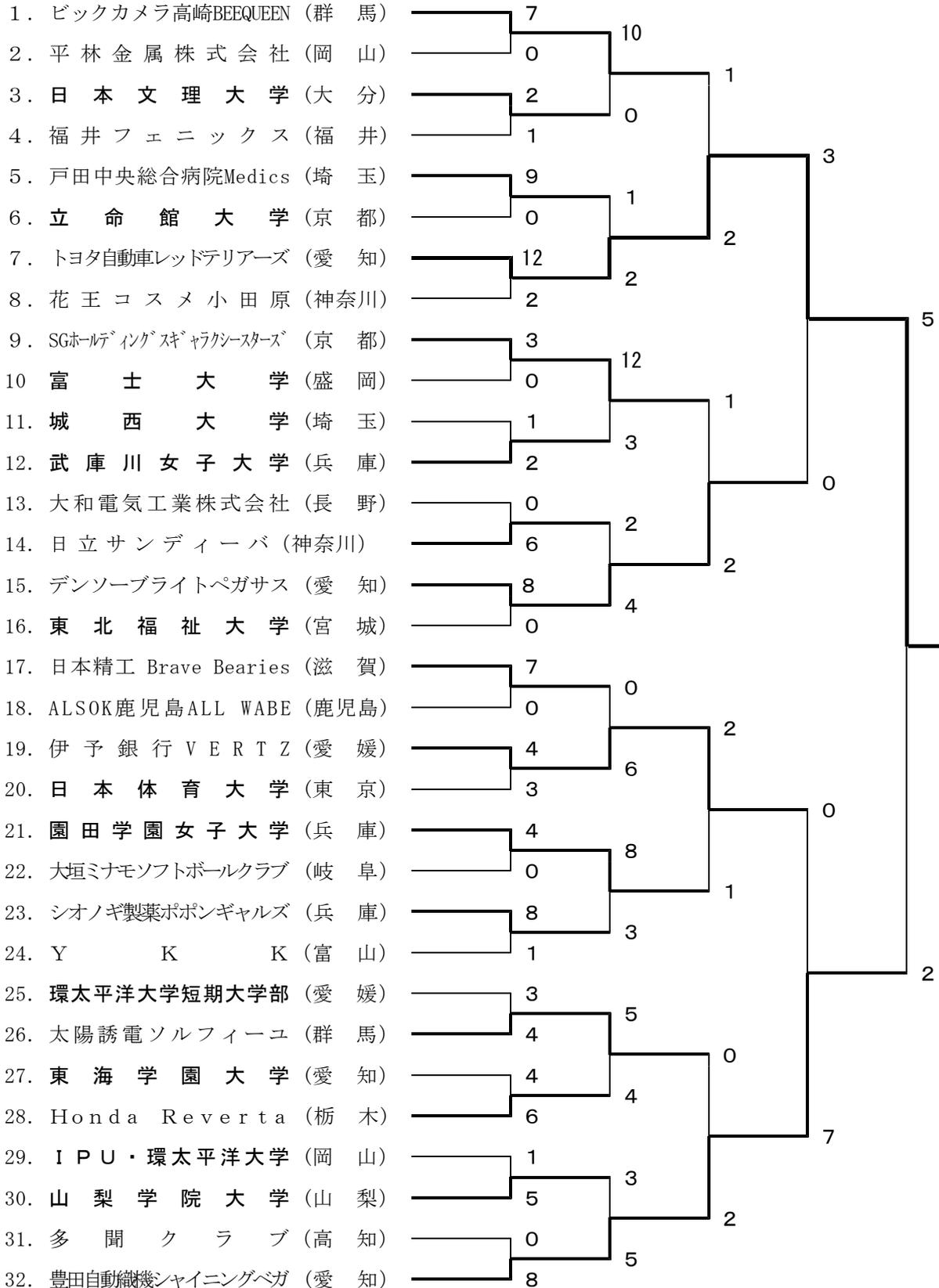
会場：青森県八戸市



第69回全日本総合女子選手権大会

会期：平成29年9月16日（土）～19日（火）※降雨により1日順延

会場：福井県／敦賀市・越前市・福井市・永平寺町



トヨタ自動車レッドテアーズ
(3年ぶり5回目)

【北海道東北地区】

平成29年度北海道・東北地区大学ソフトボール春季大会（男子）

会期：4月22日・23日、29日・30日

会場：宮城県柴田町／阿武隈川運動場、岩手県一関市／一関総合運動公園

チーム	北海道	弘前	八戸工	盛岡	東北	宮教	仙台	福島	日大工	勝	負	順
北海道	○	○	○	○	○	○	○	○	○	4	0	4
弘前	●	○	○	○	○	○	○	○	○	0	5	8
八戸工業	*	*	○	○	○	○	○	○	○	0	3	9
盛岡	*	○	○	○	○	○	○	○	○	2	3	6
東北	*	○	*	○	○	○	○	○	○	4	2	2
宮城教育	●	○	*	*	●	○	*	○	○	3	1	5
仙台	●	*	*	○	●	*	○	○	○	1	4	7
福島	*	*	○	○	○	●	○	○	*	4	1	3
日大工学	●	○	○	*	○	●	○	*	○	4	2	1

※北海道大学と八戸工業大学は岩手シリーズのみの参加。順位は勝ち数の多い順とし、同数の場合は試合の多い方が上位、試合数が同じ場合は総得点の多い方が上位、それでも決まらない場合は失点の少ない方とした。

平成29年度北海道・東北地区大学ソフトボール春季大会（女子）

会期：4月29・30日

会場：宮城県蔵王町／蔵王町総合運動公園多目的グラウンド

予選Aグループ 東北福祉大学 5-6 富士大学

予選Bグループ 弘前大学 5-12 宮城教育大学 仙台大学 15-5 宮城教育大学
 仙台大学 12-2 弘前大学

上位順位決定戦 東北福祉大学 10-0 仙台大学 富士大学 7-2 東北福祉大学

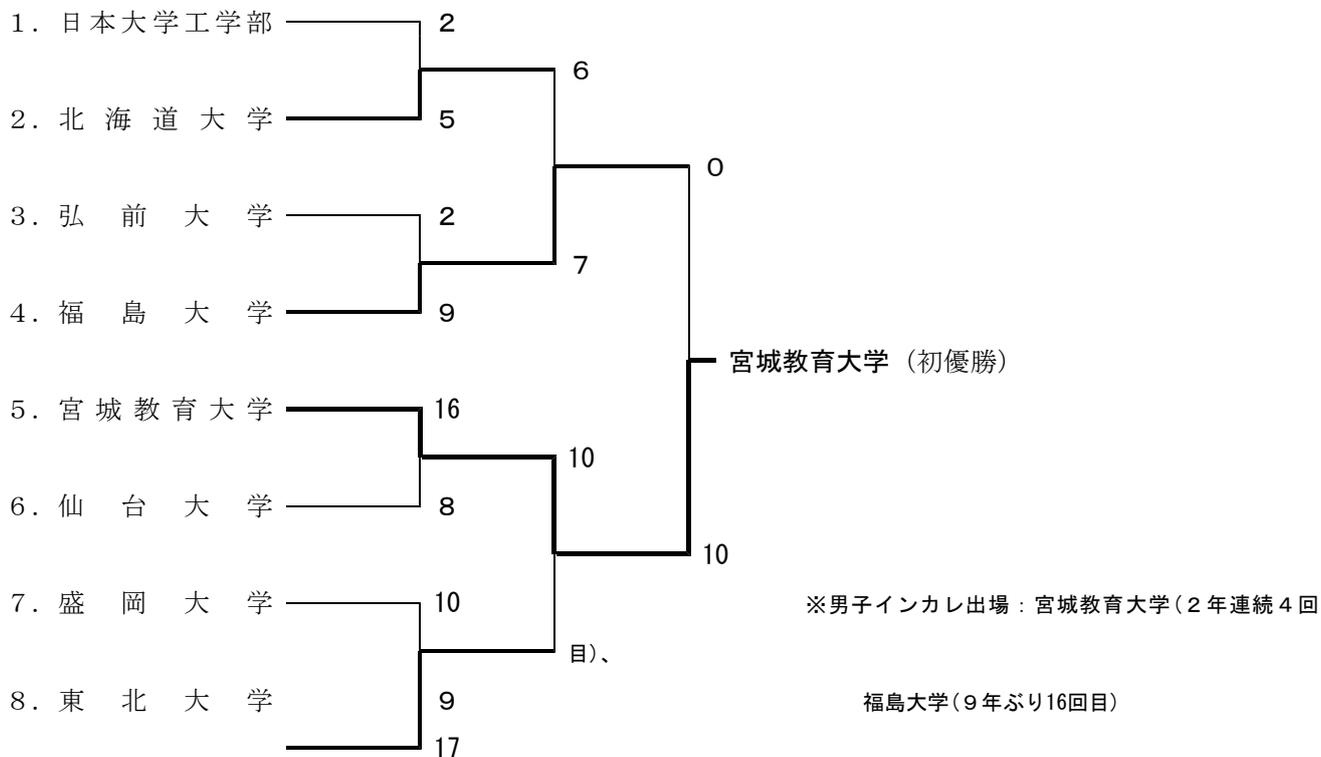
下位順位決定戦 宮城教育大学 9-0 弘前大学

第38回 北海道・東北地区大学ソフトボール選手権大会
兼、第52回全日本大学ソフトボール選手権大会北海道・東北地区予選会

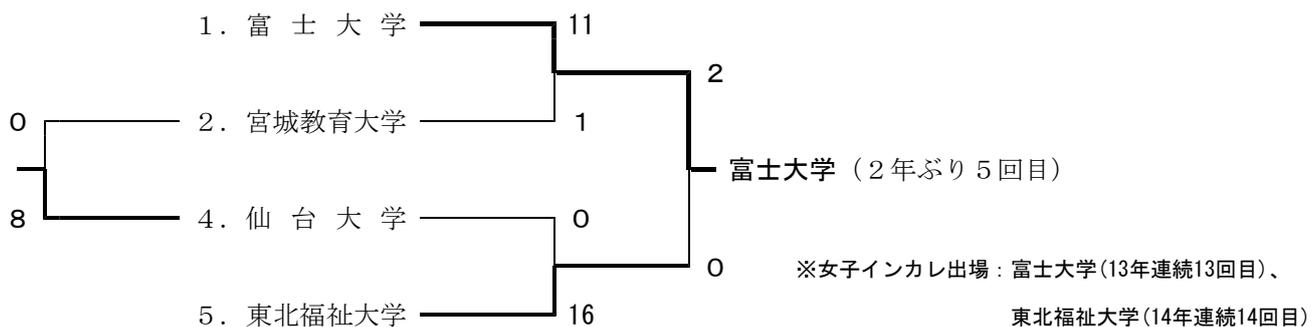
会期：5月13日(土)・14日(日)

会場：秋田県由利本荘市/矢島ソフトボール場・矢島多目的運動広場

【男子】



【女子】



平成29年度北海道・東北地区大学ソフトボール秋季大会（男子）

会期：平成29年10月14日（土）・15日（日）

会場：岩手県八幡平市松尾総合運動公園多目的広場

☆予選リーグ戦

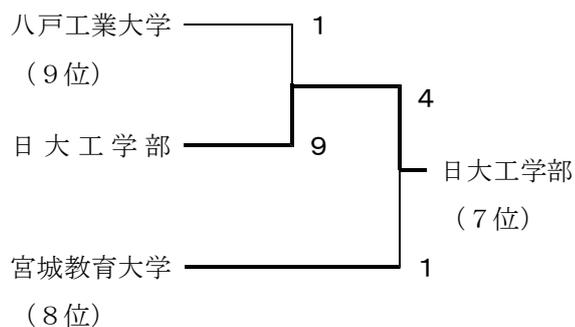
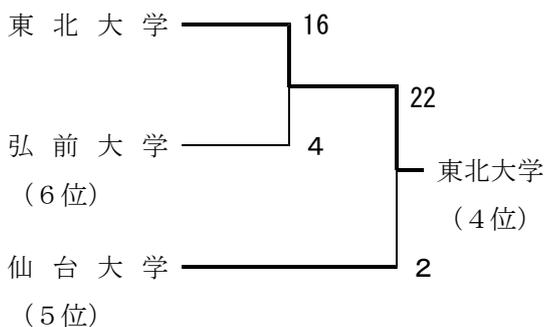
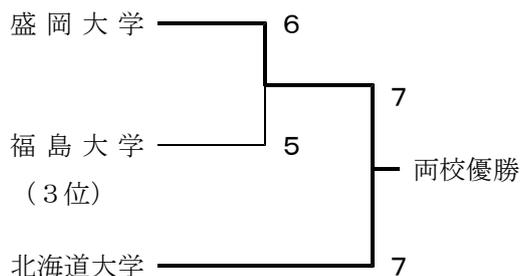
A	宮教	北海道	仙台	順位
宮城教育		● 7-11	○ 12-9	3
北海道	○ 11-7		● 1-4	1
仙台	● 9-12	○ 4-1		2

B	福島	日大工	弘前	順位
福島		○ 3-0	○ 11-1	1
日大工学	● 0-3		● 3-8	3
弘前	● 1-11	○ 8-3		2

※順位：勝率が同率の場合は、得失点差による。

C	東北	八戸工	盛岡	順位
東北		○ 25-0	● 5-8	2
八戸工業	● 0-25		● 2-21	3
盛岡	○ 8-5	○ 21-2		1

☆順位決定戦



※女子の秋季大会は、10月21日（土）・22日（日）に宮城県蔵王町総合運動公園において開催される予定でしたが、両日も雨天のため中止となりました。

【関東地区】 第12回 関東学生男子ソフトボール春季リーグ戦

会期：5月3日(水)・4日(木)・5日(金)

会場：埼玉県坂戸市／坂戸市民総合運動公園軟式野球場 他

I 部リーグ

チーム	東京理科	城西	関東学園	東海	国際武道	高崎経済	勝	分	敗	順位
東京理科	-	○5-3	○11-2	○5-4	●1-2	●1-2	3	0	2	3位
城西	●3-5	-	○7-0	○9-0	○7-0	○7-0	4	0	1	優勝
関東学園	●2-11	●0-7	-	●2-8	○3-1	○7-4	2	0	3	5位
東海	●4-5	●0-9	○8-2	-	●2-9	○10-0	2	0	3	4位
国際武道	○2-1	●0-7	●1-3	○9-2	-	○8-4	3	0	2	2位
高崎経済	○2-1	●0-7	●4-7	●0-10	●4-8	-	1	0	4	6位

※勝ち点同数の2位と3位、4位と5位の順位は大会規定により決定

II 部リーグ

チーム	千葉	東京国際	文京	筑波	茨城	都留文科	勝	分	敗	順位
千葉	-	○3-2	○9-1	○9-8	○21-0	●4-6	4	0	1	2位
東京国際	●2-3	-	○14-1	●1-2	○13-6	●2-3	2	0	3	4位
文京	●1-9	●1-14	-	●4-5	●8-9	●0-7	0	0	5	6位
筑波	●8-9	○2-1	○5-4	-	○3-2	○10-5	4	0	1	1位
茨城	●0-21	●6-13	○9-8	●2-3	-	●10-17	1	0	4	5位
都留文科	○6-4	○3-2	○7-0	●5-10	○17-10	-	4	0	1	3位

※勝ち点同数の1位からと3位の順位は大会規定により決定

III 部リーグ

チーム	埼玉	日大生資	日大生工	中央学院	山梨学院	芝浦工業	勝	分	敗	順位
埼玉	-	○17-2	○4-1	○17-13	○8-0	○30-0	5	0	0	1位
日大生資	●2-17	-	●2-7	●8-12	○13-9	○19-11	2	0	3	3位
日大生工	●1-4	○7-2	-	○11-9	○12-11	○15-2	4	0	1	2位
中央学院	●13-17	○12-8	●9-11	-	●12-18	●6-21	1	0	4	6位
山梨学院	●0-8	●9-13	●11-12	○18-12	-	●10-17	1	0	4	5位
芝浦工業	●0-30	●11-19	●2-15	○21-6	○17-10	-	2	0	3	4位

※勝ち点同数の3位と4位、5位と6位の順位は大会規定により決定

I 部 II 部入替戦 高崎経済大学(I部6位) 7-0 筑波大学(II部1位) ※高崎経済大学はI部残留

II 部 III 部入替戦 文教大学(II部6位) 2-11 埼玉大学(III部1位) ※埼玉大学はII部昇格

第11回 関東学生女子ソフトボール春季リーグ戦

会期：5月3日(水)・4日(木)・5日(金)

会場：埼玉県毛呂山町／大類ソフトボールパーク、鶴ヶ島市／運動公園 他

I部リーグ

チーム	山梨学院	東京国際	城西	淑徳	東海	新島学園	勝	分	敗	順位
山梨学院	○2-1	●2-10	○5-0	○7-0	○16-0	4	0	1	2位	
東京国際	●1-2	●0-7	○6-3	○8-6	○9-0	3	0	2	3位	
城西	○10-2	○7-0	○8-2	○3-1	○11-0	5	0	0	1位	
淑徳	●0-5	●3-6	●2-8	●2-10	○10-0	1	0	4	5位	
東海	●0-7	●6-8	●1-3	○10-2	○16-0	2	0	3	4位	
新島学園	●0-16	●0-9	●0-11	●0-10	●0-16	0	0	5	6位	

II部リーグ

チーム	関東学園	城西国際	清和	順天堂	文教	国際武道	勝	分	敗	順位
関東学園	○7-6	●3-8	●4-5	○6-4	○17-1	3	0	2	3位	
城西国際	●6-7	●0-5	●0-8	○10-4	○8-4	2	0	3	4位	
清和	○8-3	○5-0	○8-1	○16-4	○22-0	5	0	0	1位	
順天堂	○5-4	○8-0	●1-8	○7-1	○17-4	4	0	1	2位	
文教	●4-6	●4-10	●4-16	●1-7	○8-3	1	0	4	5位	
国際武道	●1-17	●4-8	●0-22	●4-17	●3-8	0	0	5	6位	

III部リーグ

チーム	千葉	白鷗	筑波	埼玉	茨城	日大生資	勝	分	敗	順位
千葉	●0-9	●3-14	●0-6	●7-17	○10-3	1	0	4	5位	
白鷗	○9-0	●0-5	○19-0	○11-0	○19-0	4	1	0	2位	
筑波	○14-3	○5-0	○9-4	○9-2	○10-0	5	0	0	1位	
埼玉	○6-0	●0-19	●4-9	●1-6	○15-7	2	0	3	4位	
茨城	○17-7	●0-11	●2-9	○6-1	●8-13	2	0	3	3位	
日大生資	●3-10	●0-19	●0-10	●7-15	○13-8	1	0	4	5位	

I部II部入替戦 新島学園短大(I部6位) 0-7 清和大学(II部1位) ※清和大学はI部昇格

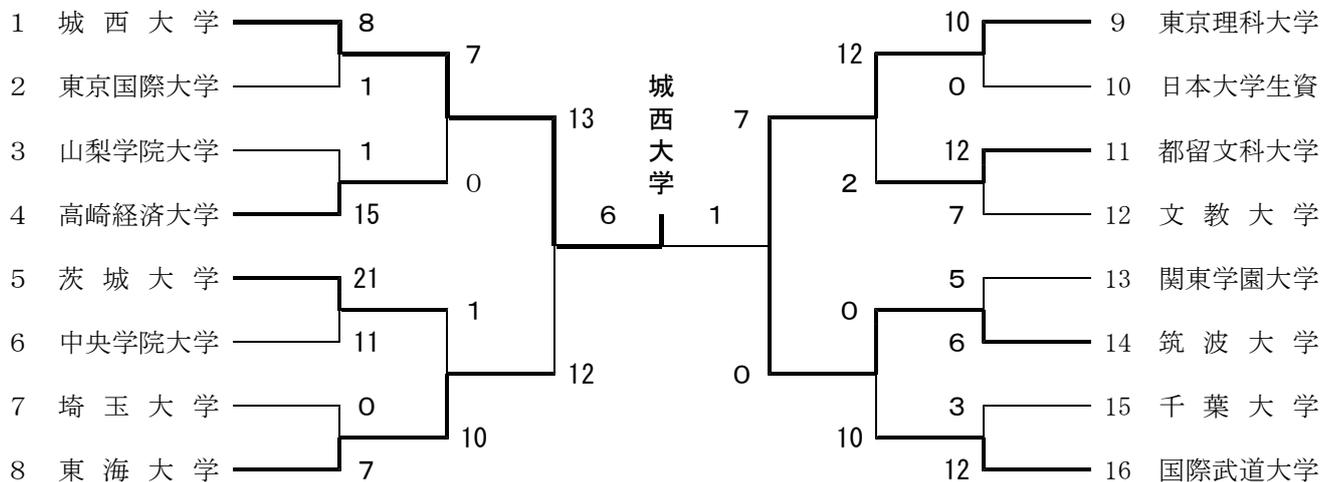
II部III部入替戦 国際武道大学(II部6位) 0-9 筑波大学(III部1位) ※筑波大学はII部昇格

第25回 関東学生ソフトボール選手権大会 兼 第52回全日本大学ソフトボール選手権大会関東地区予選会

会期：5月20日(土)・21日(日)

会場：山梨県笛吹市／花鳥の里スポーツ広場 他

●男子の部

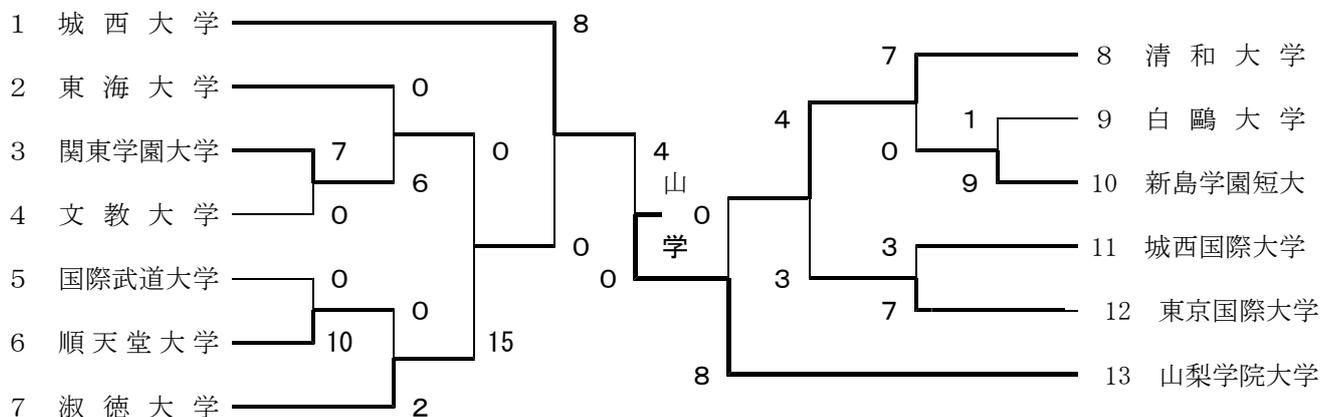


3位決定戦 東海大学 2-6 国際武道大学

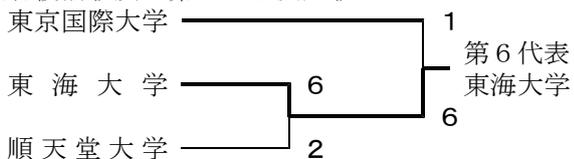
インカレ出場権獲得校

城西大学（3年連続6回目の優勝、5年連続23回目）、国際武道大学（2年ぶり23回目）、東京理科大学（2年連続16回目）、東海大学（6年連続43回目）

●女子の部



敗者復活戦及び第5・6決定戦



3位決定戦 淑徳大学 1-2 清和大学

第7代表決定戦

インカレ出場権獲得校

山梨学院大学（3年連続6回目の優勝、9年連続9回目）、城西大学（15年連続15回目）、清和大学（2年連続7回目）、淑徳大学（2年ぶり23回目）、関東学園大学（6年連続7回目）、東海大学（2年ぶり29回目）

第17回 関東学生男子ソフトボール秋季リーグ戦

会期：10月7日(土)・8日(日)・9日(月)

会場：群馬県藤岡市／烏川緑地スポーツ広場

I部リーグ

チーム	城西	国際武道	東京理科	東海	関東学園	高崎経済	勝	分	敗	順位
城西	-	○10-9	●4-8	○8-0	●2-5	○12-5	3	0	2	3位
国際武道	●9-10	-	○13-0	●2-4	○4-0	○6-5	3	0	2	2位
東京理科	○8-4	●0-13	-	○7-0	○9-2	○5-4	4	0	1	1位
東海	●0-8	○4-2	●0-7	-	●7-9	●6-7	1	0	4	6位
関東学園	○5-2	●0-4	●2-9	○9-7	-	○10-4	3	0	2	4位
高崎経済	●5-12	●5-6	●4-5	○7-6	●4-10	-	1	0	4	5位

※2～4位、5～6位は当該チームの対戦の得失点差による。

II部リーグ

チーム	筑波	千葉	都留文科	東京国際	茨城	埼玉	勝	分	敗	順位
筑波	-	○11-7	●2-3	●1-8	●7-14	●0-7	1	0	4	6位
千葉	●7-11	-	○11-3	●5-6	○23-5	●15-16	2	0	3	4位
都留文科	○3-2	●3-11	-	○9-1	○15-3	○12-4	4	0	1	1位
東京国際	○8-1	○6-5	●1-9	-	△6-6	●2-9	2	1	2	3位
茨城	○14-7	●5-23	●3-15	△6-6	-	●0-13	1	1	2	5位
埼玉	○7-0	○16-15	●4-12	○9-2	○13-0	-	4	0	1	2位

※1～2位は当該チームの直接対戦の結果による。

III部リーグ

チーム	文教	日大生工	日大生資	山梨学院	日大生産	中央学院	勝	分	敗	順位
文教	-	●8-11	●6-8	○18-1	○10-7	○20-0	3	0	2	3位
日大生工	○11-8	-	△7-7	○17-6	●2-12	○6-5	3	1	1	2位
日大生資	○8-6	△7-7	-	○11-4	○15-12	○9-5	4	1	0	1位
芝浦工業	●1-18	●6-17	●4-11	-	●5-16	●5-13	0	0	5	6位
山梨学院	●7-10	○12-2	●12-15	○13-5	-	○11-4	3	0	2	4位
中央学院	●0-20	●5-6	●5-9	○13-5	●4-11	-	1	0	4	5位

入替戦

I部～II部 東海大学(I部6位) 6-7 都留文科大学(II部1位) ※都留文科大学はI部昇格
 II部～III部 筑波大学(II部6位) 12-2 日大生物資源(III部1位) ※筑波大学はII部残留

第17回 関東学生女子ソフトボール秋季リーグ戦

会期：10月7日(土)・8日(日)・9日(月)

会場：埼玉県毛呂山町／大類ソフトボールパーク・東松山市／駒形公園ソフトボール場 他

I 部リーグ

チーム	城西	山梨学院	東京国際	東海	淑徳	清和	勝	分	敗	順位
山梨学院	○1-0	○4-0	△2-2	●0-2	○5-4	3	1	1	2位	
山梨学院	●0-1	○7-0	○1-0	○3-2	○1-0	4	0	1	1位	
東京国際	●0-4	●0-7	○8-1	●0-3	○3-1	2	0	3	4位	
東海	△2-2	●0-1	●1-8	●0-2	○2-1	1	1	3	5位	
淑徳	○2-0	●2-3	○3-0	○2-0	●2-3	3	0	2	3位	
清和	●4-5	●0-1	●1-3	●1-2	○3-2	1	0	4	6位	

II 部リーグ

チーム	新島学園	順天堂	関東学園	城西国際	文教	筑波	勝	分	敗	順位
新島学園	△0-0	○7-4	●6-7	●3-10	●2-3	1	1	3	6位	
順天堂	△0-0	○7-0	○4-1	●2-3	○6-5	3	1	1	1位	
関東学園	●4-7	●0-7	○8-1	○3-1	○12-1	3	0	2	2位	
城西国際	○7-6	●1-4	●1-8	●3-6	○7-1	2	0	3	4位	
文教	○10-3	○3-2	●1-3	○6-3	●9-11	3	0	2	3位	
筑波	○3-2	●5-6	●1-12	●1-7	○11-9	2	0	3	5位	

※2～3位、4～5位の順位決定は大会規定による。

III 部リーグ

チーム	国際武道	白鷗	茨城	埼玉	千葉	日大生資	勝	分	敗	順位
国際武道	●1-7	△2-2	●1-8	○15-14	○8-0	2	1	2	4位	
白鷗	○7-1	○8-1	○8-0	○13-0	○17-2	5	0	0	1位	
茨城	△2-2	●1-8	○19-11	○9-2	○14-7	3	1	1	2位	
埼玉	○8-1	●0-8	●11-19	○8-4	○9-2	3	0	2	3位	
千葉	●14-15	●0-13	●2-9	●4-8	●5-6	0	0	5	6位	
日大生資	●0-8	●2-17	●7-14	●2-9	○6-5	1	0	4	5位	

I 部 II 部入替戦 清和大学(I部6位) 5-0 順天堂大学(II部1位) ※清和大学はI部残留

II 部 III 部入替戦 新島学園短期大学(II部6位) 4-1 白鷗大学(III部1位) ※新島学園短大はII部残留
最優秀選手賞

I 部：朝倉 梨奈(投手、淑徳大) II 部：荒巻 佑香(投手、順天堂大) III 部：関根友里恵(投手、白鷗大)

【北信越地区】

第24回 北信越地区大学男子・女子ソフトボール選手権大会
(兼、文部科学大臣杯第52回全日本大学ソフトボール選手権大会予選会)

会 期：5月27日(土)・28日(日)

会 場：富山県富山市／岩瀬スポーツ公園ソフトボール広場

男子	福井県立	長 岡	金 沢	富 山	福 井	勝	分	敗	勝点	順 位
福井県立	○	○20-5	○13-3	○13-3	○14-2	4	0	0	8	優勝
長 岡	●5-20	○	●13-14	●1-18	●4-17	0	0	4	0	5位
金 沢	●3-13	○14-13	○	●2-12	○4-2	2	0	2	4	3位
富 山	●3-13	○18-1	○12-2	○	○9-2	3	0	1	6	2位
福 井	●2-14	○17-4	●2-4	●2-9	○	1	0	3	2	4位

※インカレ出場校：福井県立大学（2年連続6回目）、富山大学（6年ぶり14回目）

女子	松 本	金 沢	富 山	金沢学院	勝	分	敗	勝点	順 位
松 本	○	○46-0	○31-0	○9-0	3	0	0	6	優勝
金 沢	●0-46	○	●0-15	●0-31	0	0	3	0	4位
富 山	●0-31	○15-0	○	●0-31	1	0	2	2	3位
金沢学院	●0-9	○15-0	○31-0	○	2	0	1	4	2位

※インカレ出場権獲得校：松本大学（12年連続12回目）

第24回 北信越大学男女新人ソフトボール選手権大会

会期：10月28日(土)・29日(日)

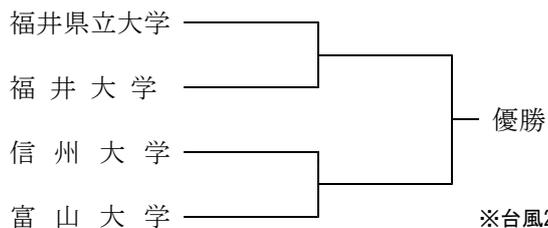
会場：新潟県燕市／スポーツランド燕 他

【男子】

予選A	福 県	富 山	金 沢	勝	敗	順
福井県立	○	○	○	2	0	1
		10-7	12-0			
富 山	●	○	○	1	1	2
	7-10		15-3			
金 沢	●	●	○	0	2	3
	0-12	3-15				

予選B	信 州	福 井	長 岡	勝	敗	順
信 州	○	○	○	2	0	1
		9-5	18-14			
福 井	●	○	○	1	1	2
	5-9		5-4			
長 岡	●	●	○	0	2	3
	14-18	4-5				

決勝トーナメント



※台風22号の影響で雨天のため決勝トーナメント中止。順位決定なし。

【女子】

チーム	松 本	金 沢	信 州	富 山	金沢学院	勝	分	敗	順位
松 本	-	○24-0	○22-0	○10-0	雨天中止	3			-
金 沢	●0-24	-	雨天中止	●9-14	●0-24			3	-
信 州	●0-22	雨天中止	-	雨天中止	●0-10			2	-
富 山	●0-10	○14-9	雨天中止	-	雨天中止	1		1	-
金沢学院	雨天中止	○20-0	○10-0	雨天中止	-	2			-

※台風22号の影響で雨天のため、2日目の試合は全て中止。順位決定なし。



【東京地区】 平成29年度第49回 東京都大学ソフトボール春季リーグ戦

会期：平成29年4月7日～5月6日

会場：早稲田大学・大類ソフトパーク・東京富士大学 他

男子1部予選リーグ

チーム	国士館	日本体育	早稲田	東京学芸	中央	日本	勝	分	敗	順位
国士館	-	●1-9	●2-4	○9-2	○13-3	○7-0	3	0	2	3位
日本体育	○9-1	-	○8-4	○10-3	○8-4	○11-0	5	0	0	1位
早稲田	○4-2	●4-8	-	○15-2	○19-8	○7-2	4	0	1	2位
東京学芸	●2-9	●3-10	●2-15	-	●2-12	●4-6	0	0	5	6位
中央	●3-13	●4-8	●8-19	○12-2	-	○12-5	2	0	3	4位
日本	●0-7	●0-11	●2-7	○6-4	●5-12	-	1	0	4	5位

MVP:中根孝太(国士館)、首位打者:西田勘汰(国士館)、最優秀防御率:小山玲央(日体大)

男子2部

チーム	慶應義塾	明治	専修	東京	立教	東洋	勝	分	敗	順位
慶應義塾	-	●12-18	○6-4	●6-7	△6-6	○30-3	2	1	2	4位
明治	○18-12	-	○12-3	●2-16	○9-4	●10-14	3	0	2	3位
専修	●4-6	●3-12	-	●0-12	●0-7	●8-9	0	0	5	6位
東京	○7-6	○16-2	○12-0	-	○15-2	○9-1	5	0	0	1位
立教	△6-6	●4-9	○7-0	●2-15	-	●5-13	1	1	3	5位
東洋	●3-30	○14-10	○9-8	●1-9	○13-5	-	3	0	2	2位

MVP:森岡純平(東京大)、首位打者:朝見一輝(東洋大)、最優秀防御率:森岡純平(東京大)

男子3部 Aセクション

チーム	学習院	東京農業	明星	帝京	勝	分	敗	順位
学習院	-	○16-0	○10-0	○15-3	3	0	0	1位
東京農業	●0-16	-	●3-5	●3-19	0	0	3	4位
明星	●0-10	○5-3	-	●6-12	1	0	2	3位
帝京	●3-15	○19-3	○12-6	-	2	0	1	2位

男子3部 Bセクション

チーム	桜美林	成蹊	文教湘南	大東文化	勝	分	敗	順位
桜美林	-	○10-0	○7-6	○6-4	3	0	0	1位
成蹊	●0-10	-	○8-6	○10-5	2	0	1	2位
文教湘南	●6-7	●6-8	-	●9-11	0	0	3	4位
大東文化	●4-6	●5-10	○11-9	-	1	0	2	3位

MVP:五十嵐圭佑(学習院)、首位打者:吉田雅依(桜美林)、最優秀防御率:五十嵐圭佑(学習院)

男子3部優勝決定戦 学習院大学 8-1 桜美林大学 (3部優勝 学習院大学)

女子1部

チーム	日本体育	東京富士	早稲田	東女体	国士舘	日女体	勝	分	敗	順位
日本体育		●6-7	○6-0	●4-5	○9-8	○9-0	3	0	2	3位
東京富士	○7-6		○4-2	○10-3	○5-2	○10-0	5	0	0	1位
早稲田	●0-6	●2-4		●3-5	●1-3	○6-5	1	0	4	6位
東女体	○5-4	●3-10	○5-3		○5-3	○7-0	4	0	1	2位
国士舘	●8-9	●2-5	○3-1	●3-5		●3-4	1	0	4	4位
日女体	●0-9	●0-10	●5-6	●0-7	○4-3		1	0	4	5位

MVP:山口唯(日体大)、首位打者:古谷裕花(東女大)、最優秀防御率:山田連(日体大)

女子2部

チーム	中央	東京学芸	学習院	慶應義塾	桜美林	日本	勝	分	敗	順位
中央		●0-6	●0-7	○7-6	●5-7	○16-1	2	0	3	3位
東京学芸	○6-0		○4-0	○4-2	○14-0	○8-0	5	0	0	1位
学習院	○7-0	●0-4		○11-2	○9-0	○15-0	4	0	1	2位
慶應義塾	●6-7	●2-4	●2-11		○7-3	○13-11	2	0	3	4位
桜美林	○7-6	●0-14	●0-9	●3-7		△5-5	1	1	3	5位
日本	●1-16	●0-8	●0-15	●11-13	△5-5		0	1	4	6位

MVP:岩瀬仁美(学芸大)、首位打者:三浦瑞貴(学芸大)、最優秀防御率:岩瀬仁美(学芸大)

女子3部

チーム	明治	東洋	専修	成蹊	実践女子	文教湘南	勝	分	敗	順位
明治		○14-0	○13-3	○7-3		○8-7	4	0	0	1位
東洋	●0-14		○9-2	○9-1		○10-3	3	0	1	2位
専修	●3-13	●2-9		●6-8		○12-9	1	0	3	4位
成蹊	●3-7	●1-9	○8-6			○16-4	2	0	2	3位
実践女子										
文教湘南	●7-8	●3-10	●9-12	●4-16			0	0	4	5位

MVP:山澤有純(明治大)、首位打者:武井紀恵(成蹊大)、最優秀防御率:武井紀恵(成蹊大)

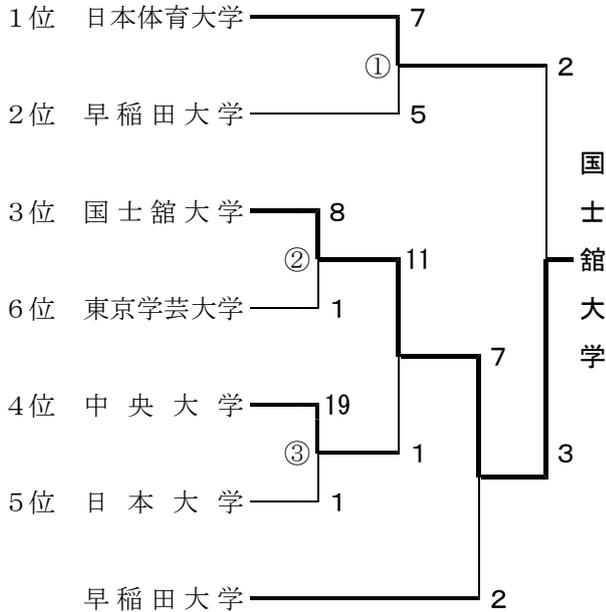
※勝敗が同じ場合の順位決定は、各リーグ戦とも失点率による。

第52回全日本大学選手権大会出場枠決定特別ページシステム

男子1部

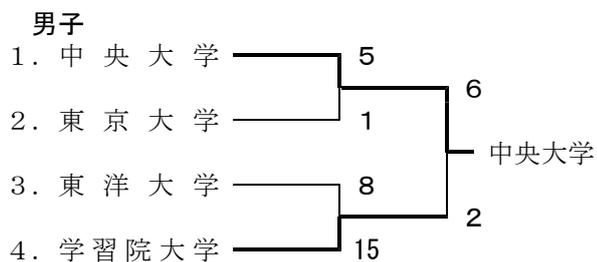
会場：早稲田大学

会期：4月29日(土)・30日(日)

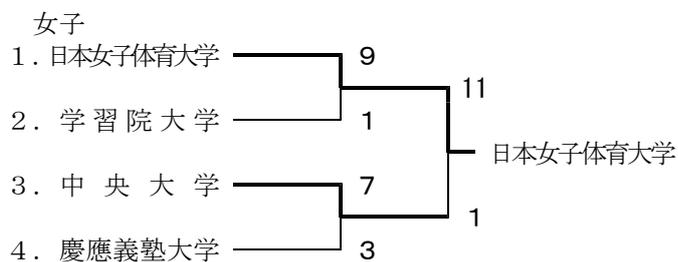


文部科学大臣杯第52回全日本大学ソフトボール選手権大会東京都2次予選

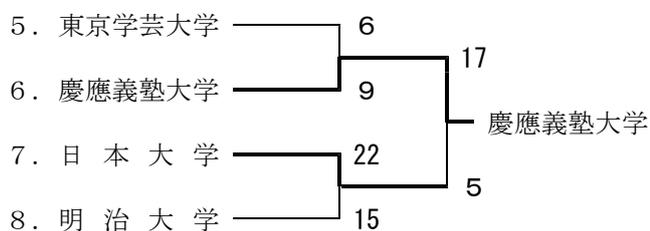
会場：シクラメンスポーツ公園
会期：5月6日(土)



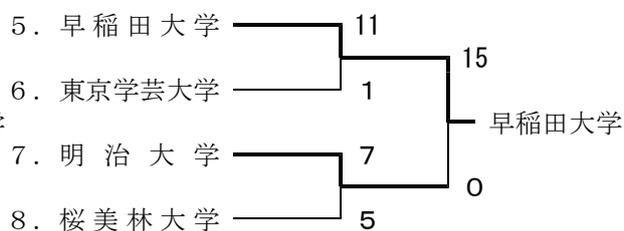
会場：大類ソフトボールパークA
会期：5月6日(土)



会場：あきる野市民野球場
会期：5月6日(土)



会場：大類ソフトボールパーク B
会期：5月6日(土)



第52回全日本大学選手権大会の東京地区代表校

- 男子：国士舘大学(52年連続52回目)
日本体育大学(52年連続52回目)
早稲田大学(52年連続52目)
中央大学(6年連続28回目)
慶應義塾大学(6年ぶり4回目)

- 女子：日本体育大学(52年連続52回目)
東京女子体育大学(52年連続52回目)
東京富士大学(6年連続6回目)
国士舘大学(7年連続23回目)
日本女子体育大学(5年連続48回目)
早稲田大学(13年連続14回目)

平成29年度第49回 東京都大学ソフトボール秋季リーグ戦

会期：9月9日～11月5日

会場：早稲田大学・シクラメンスポーツ公園 他

男子1部

チーム	国 士 館	日本体育	早 稲 田	中 央	東京学芸	東 京	勝	分	敗	順 位
国 士 館	-	○5-4	○15-14	○9-0	○6-3	○0-10	5	0	0	1位
日本体育	●4-5	-	●0-7	○9-1	○15-0	○14-2	3	0	2	3位
早 稲 田	●14-15	○7-0	-	○9-4	○8-0	○13-2	4	0	1	2位
中 央	●0-9	●1-9	●4-9	-	○14-3	○13-0	2	0	3	4位
東京学芸	●3-6	●0-15	●0-8	●3-14	-	○13-5	1	0	4	5位
東 京	●0-10	●2-14	●2-13	●5-13	●5-13	-	0	0	5	6位

MVP:八角光太郎(国士館)、首位打者:川上卓也(早稲田)、最優秀防御率:酒井匠(日体大)

男子2部

チーム	日本大	東洋大	明治大	慶応大	立教大	学習院	勝	分	敗	順 位
日本大	-	○15-0	●7-8	●5-9	○15-3	●3-6	2	0	3	4位
東洋大	●0-15	-	●4-5	●1-12	●3-4	○12-8	1	0	4	6位
明治大	○8-7	○5-4	-	●6-8	○17-5	○5-4	4	0	1	2位
慶応大	○9-5	○12-1	○8-6	-	○9-7	○6-5	5	0	0	1位
立教大	●3-15	○4-3	●5-17	●7-9	-	●10-11	1	0	4	5位
学習院	○6-3	●8-12	●4-5	●5-6	○11-10	-	2	0	3	3位

MVP:佐藤慶一(慶應大)、首位打者:中島翔太(学習院)、最優秀防御率:飛田龍二(日本大)

男子3部

チーム	専修大	東京農	明星大	提供大	桜美林	成蹊大	文教湘	勝	分	敗	順位
専修大	-	○10-8	○11-9	●6-7	○16-11	○11-2	●8-12	4	0	2	3位
東京農	●8-10	-	●7-10	●12-14	●0-7	●4-6	●3-15	0	0	6	7位
明星大	●9-11	○10-7	-	●8-9	○10-3	○9-5	△3-3	3	1	2	4位
帝京大	○7-6	○14-12	○9-8	-	○8-6	●8-9	●0-7	4	0	2	2位
桜美林	●11-16	○7-0	●3-10	●6-8	-	●4-5	○9-5	2	0	4	6位
成蹊大	●2-11	○6-4	●5-9	○9-8	○5-4	-	●2-5	3	0	3	5位
文教湘	○12-8	○15-3	△3-3	○7-0	●5-9	○5-2	-	4	1	1	1位

MVP:畦地大輔(文教大)、首位打者:宮崎駿(専修大)、最優秀防御率:畦地大輔(文教大)

男子入れ替え戦

1部-2部 東京大学(6位) 15-11 慶應義塾大学(1位) 東京大学は1部残留

2部-3部 東洋大学(6位) 7-1 文教大学湘南(1位) 東洋大学は2部残留

女子1部

チーム	日本体育	東女体	東京富士	国士館	日女体	早稲田	勝	分	敗	順位
日本体育		○1-0	○10-3	○5-1	○7-1	●5-6	4	0	1	1位
東女体	●0-1		○4-2	○6-2	○6-0	○4-2	4	0	1	2位
東京富士	●3-10	●2-4		○3-0	○4-1	○2-0	3	0	2	3位
国士館	●1-5	●2-6	●0-3		○7-0	●0-4	1	0	4	5位
日女体	●1-7	●0-6	●1-4	●0-7		●2-5	0	0	5	6位
早稲田	○6-5	●2-4	●0-2	○4-0	○5-2		3	0	2	4位

MVP:柳橋里奈(東女大)、首位打者:本間睦(日体大)、最優秀防御率:今西美穂(東女大)

女子2部

チーム	中央	東京学芸	学習院	慶應義塾	桜美林	明治	勝	分	敗	順位
中央		●1-9	●1-11	○9-7	●12-17	○8-4	2	0	3	4位
東京学芸	○9-1		○9-0	○9-1	○13-1	○7-0	5	0	0	1位
学習院	○11-1	●0-9		○6-3	○7-3	○10-0	4	0	1	2位
慶應義塾	●7-9	●1-9	●3-6		○8-1	●2-10	1	0	4	6位
桜美林	○17-12	●1-13	●3-7	●1-8		○10-7	2	0	3	3位
明治	●4-8	●0-7	●0-10	○10-2	●7-10		1	0	4	5位

MVP:岩瀬仁美(学芸大)、首位打者:河口美裕(学習院)、最優秀防御率:岩瀬仁美(学芸大)

女子3部

チーム	日本	東洋	専修	成蹊	実践女子	文教教湘	勝	分	敗	順位
日本		●1-10	○8-5	○11-10	○10-7		3	1	0	3位
東洋	○10-1		○8-1	○11-0	●5-6		4	0	1	1位
専修	●5-8	●1-8		●6-11	●0-15		0	0	4	5位
成蹊	●10-11	●0-11	○11-6		●2-12		1	0	3	4位
実践女子	●7-10	○6-5	○15-0	○12-2			3	0	1	2位
文教湘南										

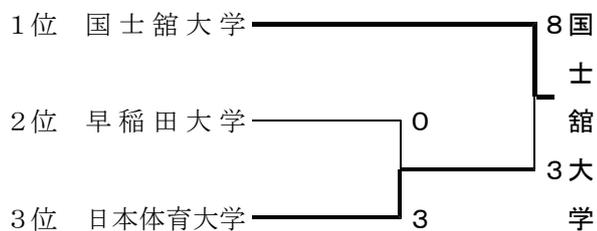
MVP:門口侑里香(東洋大)、首位打者:鈴佐藤美都(成蹊大)、最優秀防御率:川村真鈴(東洋大)

※勝敗が同じ場合の順位決定は、各リーグ戦とも失点率による。

第49回秋季リーグ戦 特別ページシステム順位決定戦

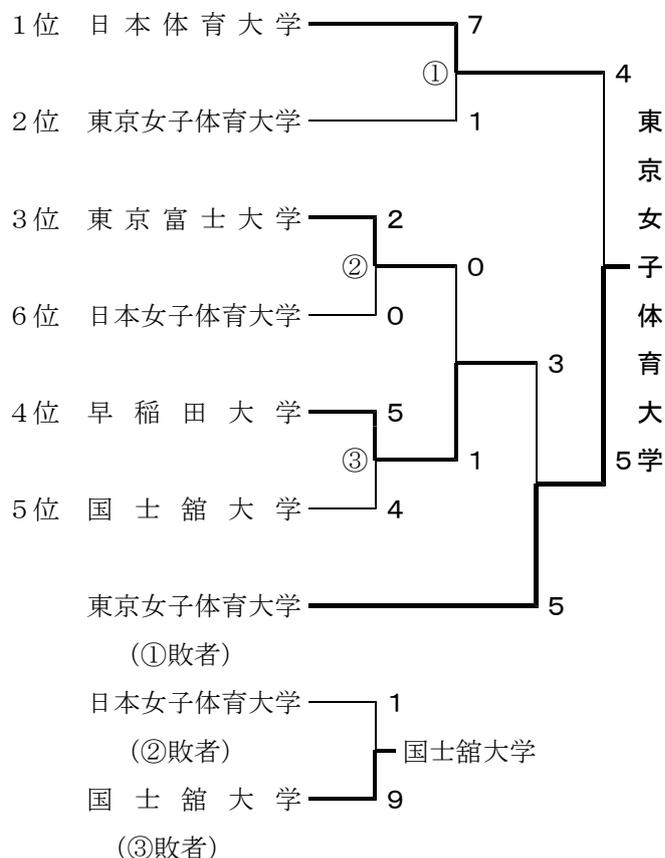
男子1部

会場：早稲田大学
会期：11月5日(土)



女子1部

会場：早稲田大学
会期：10月8日(日)・14日(土)



【男子1部最終順位】

優勝：国士舘大学
準優勝：日本体育大学
3位：早稲田大学
4位：中央大学
5位：東京学芸大学
6位：東京大学

【女子1部最終順位】

優勝：東京女子体育大学
準優勝：日本体育大学
3位：早稲田大学
4位：東京富士大学
5位：国士舘大学
6位：日本女子体育大学

男子入れ替え戦

1部－2部 東京大学(1部6位) 15－11 慶應義塾大学(2部1位) 東京大学は1部残留
2部－3部 東洋大学(2部6位) 7－1 文教大学湘南(3部1位) 東洋大学は2部残留

女子入れ替え戦

1部－2部 日本女子体育大学(1部6位) 8－0 東京学芸大学(2部1位) 日本女子体育大学は1部残留
2部－3部 慶應義塾大学(2部6位) 10－2 東洋大学(3部1位) 慶應義塾大学は2部残留

【東海地区】

中京テレビ杯

平成29年度春季第80回 東海地区大学(男子)ソフトボールリーグ戦

—兼、第52回全日本大学ソフトボール選手権大会一次予選—

—兼、第49回西日本大学ソフトボール選手権大会予選—

会期：平成29年4月22日、5月3・4・5日

会場：愛知県刈谷市／亀城公園運動場

I部リーグ戦

チーム	中 京	愛 知	日本福祉	常 葉	愛 知	中京学院	勝	分	敗	順位
中 京	-	○12-2	●1-2	○13-6	○19-3	○6-1	4	0	1	2位
愛 知	●2-12	-	●1-7	●1-8	○4-1	○6-1	2	0	3	3位
日本福祉	○2-1	○7-1	-	○11-8	○9-0	○3-2	5	0	0	優勝
常 葉	●6-13	○8-1	●8-11	-	●5-14	●4-9	1	0	4	6位
愛知学院	●3-19	●1-4	●0-9	○14-5	-	●0-5	1	0	4	5位
中京学院	●1-6	●1-6	●2-3	○9-4	○5-0	-	2	0	3	4位

※3～4位、5～6位は当該チーム間の失点率による。

II部リーグ戦

予選A g	南 山	愛知教育	静 岡	名古屋商	東海学園	勝	分	敗	順位
南 山	-	○6-5	○15-0	○13-6	○8-1	4	0	0	1位
愛知教育	●5-6	-	○10-0	○16-6	○23-5				2位
静 岡	●0-15	●0-10	-	○6-5	○11-4	2	0	2	3位
名古屋商	●6-13	●6-16	●5-6	-	○15-4	1	0	3	4位
東海学園	●1-8	●5-23	●4-11	●4-15	-	0	0	4	5位

予選B g	岐阜聖徳	名 城	中 部	名古屋	勝	分	敗	順位
岐阜聖徳	-	○2-1	○5-2	○11-1	3	0	0	1位
名 城	●1-2	-	○12-4	●1-4	1	0	2	3位
中 部	●2-5	●4-12	-	○5-5	1	0	2	4位
名古屋	●1-11	○4-1	●4-5	-	1	0	2	2位

※2～4位は当該チーム間の失点率による。

順位決定予備戦

愛知教育大学(予選A 2位) 7-3 名古屋大学(予選B 2位)

静岡大学(予選A 3位) 6-5 名城大学(予選B 3位)

中 部 大 学(予選B 4位) 9-7 名古屋商科大学(予選A 4位)

順位決定戦

- 1 位 決 定 戦 : 岐阜聖徳学園大学(予選B 1位) 13-3 南 山 大 学(予選A 1位)
2・3 位 決 定 戦 : 愛知教育大学(予備戦勝者) 14-11 南 山 大 学(1位決定戦敗者)
4・5 位 決 定 戦 : 静 岡 大 学(予備戦勝者) 17-7 名 古 屋 大 学(予備戦敗者)
6・7 位 決 定 戦 : 名 城 大 学(予備戦敗者) 4-3 中 部 大 学(予備戦勝者)
8・9 位 決 定 戦 : 名古屋商科大学(予備戦敗者) 16-14 東 海 学 園 大 学(予選A 5位)

I部×II部入れ替え戦

愛知学院大学(5位) 8-5 愛知教育大学(1位)
常葉大学(6位) 3-13 岐阜聖徳学園大学(2位)

※愛知学院大学 I 部残留、岐阜聖徳学園大学 I 部昇格

代表

第14回東海地域大学ソフトボール選手権大会(第52回インカレ最終予選) :

日本福祉大学・中京大学・愛知大学・
中京学院大学・愛知学院大学・岐阜聖徳学園大
学・常葉大学・愛知教育大学

第49回西日本大学ソフトボール選手権大会 :

日本福祉大学・中京大学・愛知大学・
中京学院大学・愛知学院大学・岐阜聖徳学園大
学

個人表彰選手

● I 部リーグ

最 優 秀 選 手 賞 : 相島 宏郁(日本福祉大学)

首 位 打 者 賞 : 山口 洋平(愛知大学)

記録 5 割 7 分 1 厘

打 点 賞 : 三島 拓也(中京大学)

記録 8

本 塁 打 賞 : 該当者なし

盗 塁 賞 : 青野慎一郎(中京大学)

記録 6

最 優 秀 防 御 率 賞 : 比嘉 竜哉(中京学院大学)

記録 1.00

ベ ス ト テ ン :

投 手 関口 幸輝(中京大学)

捕 手 井上 力(日本福祉大学)

一 塁 手 : 寺地 宏平(日本福祉大学)

二 塁 手 : 松山 和貴(日本福祉大学)

三 塁 手 : 井上 泰成(愛知大学)

遊 撃 手 : 森口 拓哉(中京大学)

外 野 手 : 生田 宗範(中京大学)

外 野 手 : 南村 海斗(中京学院大学)

外 野 手 : 遠藤 裕大(常葉大学)

DP・FP : 戸梶 椋太(日本福祉大学)

● II 部リーグ

優 秀 選 手 賞 : 小松 明弘(岐阜k聖徳学園大学)

ベ ス ト プ レ イ ヤ ー 賞

愛 知 教 育 大 学 : 板倉 央宜

中 部 大 学 : 佐々木 優

岐 阜 聖 徳 学 園 大 学 : 林 竜佑

名 古 屋 大 学 : 西村健太郎

南 山 大 学 : 齋藤 圭汰

名 城 大 学 : 山田 健人

静 岡 大 学 : 佐野 光

名 古 屋 商 科 大 学 : 河口 和司

● I 部・II 部共通

ベ ス ト マ ネ ジ メ ン ト 賞 : 鴛海ほのか(愛知大学)

ベ ス ト マ ー ケ テ ィ ン グ 賞 : 井口 智晶(東海学園大学)

ベ ス ト ス コ ア ラ ー 賞 : 新川 智子(中京大学)

講評

I 部は常勝中京大が日本福祉大に敗れ、日本福祉大は23季ぶりの優勝を手にした。また、下位4チームは全敗がなく失点率で順位が決定するという混戦であったが、中でも昨年インカレ3位の常葉大がII部降格という波乱であった。

II部も上位チームは混戦となったが、岐阜聖徳学園大が全勝で勝ち上がり、I部昇格も果たした。二桁得点の試合が多く、投手力の強化が喫緊の課題である。(東海学連事務局長:水谷 博)

中京テレビ杯 平成29年度春季第69回 東海地区大学(女子)ソフトボールリーグ戦
 ー兼、第52回全日本大学ソフトボール選手権大会一次予選ー
 ー兼、第49回西日本大学ソフトボール選手権大会予選ー

会期：平成28年4月15・16・29日、5月3・4・5・6日

会場：愛知県東海市／新宝緑地運動公園、豊田市／運動公園ソフトボール場

I 部リーグ戦結果

チーム	中 京	東海学園	日本福祉	岐阜経済	中京学院	星 城	勝	分	敗	率	順
中 京	○ 2-1 ● 0-1	△ 3-3 ○ 5-2	○ 9-0 ○ 7-0	○ 15-0 ○ 11-1	○ 10-0 ○ 3-2	8	1	1	2位		
東海学園	● 1-2 ○ 1-0	○ 4-0 ○ 4-0	○ 3-2 ○ 4-0	○ 7-0 ○ 7-0	○ 9-1 ○ 7-0	9	0	1	優勝		
日本福祉	△ 3-3 ● 2-5	● 0-4 ● 0-4	○ 4-3 ○ 3-1	○ 7-1 ○ 8-1	○ 7-1 ○ 5-0	6	1	3	3位		
岐阜経済	● 0-9 ● 0-7	● 2-3 ● 0-4	● 3-4 ● 1-3	○ 7-0 ● 3-7	○ 3-0 ● 3-6	2	0	8	5位		
中京学院	● 0-15 ● 1-11	● 0-7 ● 0-7	● 1-7 ● 1-8	● 0-7 ○ 7-3	● 1-3 ● 0-2	1	0	9	6位		
星 城	● 0-10 ● 2-3	● 1-9 ● 0-7	● 1-7 ● 0-5	● 0-3 ○ 6-3	○ 3-1 ○ 2-0	3	0	7	4位		

II 部リーグ戦結果

A	至学館	岐阜聖徳	静 岡	中部学院	勝	分	敗	失点率	順位
至学館	○ 5-2	○ 11-0	○ 29-0	3	0	0	-	1位	
岐阜聖徳	● 2-5	○ 15-0	○ 9-0	2	0	1	-	2位	
静 岡	● 0-11	● 0-15	○ 32-3	1	0	2	-	3位	
中部学院	● 0-29	● 0-9	● 3-32	0	0	3	-	4位	

B	常 葉	愛知教育	名 古 屋	勝	分	敗	失点率	順位
常 葉	○ 7-4	○ 8-0	2	0	0	-	1位	
愛知教育	● 4-7	○ 7-0	1	1	0	-	2位	
名 古 屋	● 0-8	● 0-7	0	0	2	-	3位	

II部順位決定予備戦 岐阜聖徳学園大学3-6 愛知教育大学 静岡大学10-8 名古屋大学

II部順位決定戦 1位決定戦 至学館大学2-0 常葉大学

2~3位決定戦 常葉大学7-2 愛知教育大学

4~5位決定戦 岐阜聖徳学園大学10-3 静岡大学

6~7位決定戦 中部学院大学22-12 名古屋大学

I部×II部入れ替え戦

岐阜経済大学(5位)3-2常葉大学(2位)

※岐阜経済大学I部残留

中京学院大学(6位)4-3至学館大学(1位)

※中京学院大学I部残留

代表

第14回東海地域大学選手権大会(第52回インカレ最終予選)・第49回西日本大学選手権大会:

東海学園大学・中京大学・日本福祉大学・
星城大学・岐阜経済大学・中京学院大学・
至学館大学・常葉大学(以上8校)

個人表彰選手

●I部リーグ

最優秀選手賞:竹田 早希(東海学園大学)

首位打者賞:古谷 知里(東海学園大学)

記録4割7分6厘

打点賞:小寺 真琴(中京大学)

記録11

本塁打点賞:該当者なし

盗塁賞:昆野 藍加(東海学園大学)

記録5

最優秀防御率賞:竹田 早希(東海学園大学)

記録0.29

ベストテン:

投手:村田 未幸(中京大学)

捕手:棚町 佳奈(東海学園大学)

一塁手:大崎 小夏(日本福祉大学)

二塁手:上山 珠里(日本福祉大学)

三塁手:今川 瑞希(中京大学)

遊撃手:昆野 藍加(東海学園大学)

外野手:古谷 知里(東海学園大学)

外野手:吉田 彩夏(東海学園大学)

外野手:佐藤 友香(中京大学)

DPPF:小寺 真琴(中京大学)

●II部リーグ

優秀選手賞:藤井 杏奈(至学館大学)

ベストプレイヤー賞:

至学館大学:萩野 真琴

常葉大学:落合 彩希

愛知教育大学:加藤 祐子

岐阜聖徳学園大学:牛田 早紀

静岡大学:石綿 真依

中部学院大学:後藤 優佳

名古屋大学:小野 詩織

●I部・II部共通

MIP賞:稲垣 葵衣(日本福祉大学)

ベストマネジメント賞:石川 瑞貴(日本福祉大学)

ベストマーケティング賞:原内 智香(東海学園大学)

ベストスコアラー賞:小野 桃華(星城大学)

講評 計7日間を、愛知県東海市協会及び豊田市協会の皆様のご尽力により、滞りなく全日程が終了したことに感謝申し上げます。今回も最終日には、中京テレビ様のご尽力により、女子I部の2試合をインターネット中継していただきました。毎回の多大なるご尽力に感謝申し上げます。

今回のリーグ戦は、2強(中京大・東海学園大)は継続された中で、中京大が一步リードしているとの展望で幕を開けた。1次リーグでは、その中京大が早くも日本福祉大戦を引き分けてしまったが、2強対決を2-1で制し、負けなしで折り返した。お互いその他に取りこぼさないまま迎えた最終日の決戦、勝てば優勝の試合で東海学園大の竹田早希(18)が中京大打線を0点に抑え、1-0の完封勝利。見事、戦前の展望を覆し2季ぶり13回目の優勝を果たした。中京テレビ最優秀選手賞は、その竹田投手が獲得した。3位には2強に土をつけることができなかった日本福祉大。そして創部2年目の星城大学が4位に食い込む健闘をみせ、岐阜経済大、中京学院大と続いた。

II部では、至学館大が全4試合を2失点で守りきり全勝優勝。2位には常葉大が入った。その2校が入れ替え戦へとコマを進めたが、ここの一番での決定力に勝るI部校の壁は厚く、I部昇格はならず、2季連続して涙を飲むことになった。

最後に、第49回西日本大学選手権大会、第52回全日本大学選手権大会での東海地区大学各校の躍進を期待する。(理事長 二瓶雄樹)

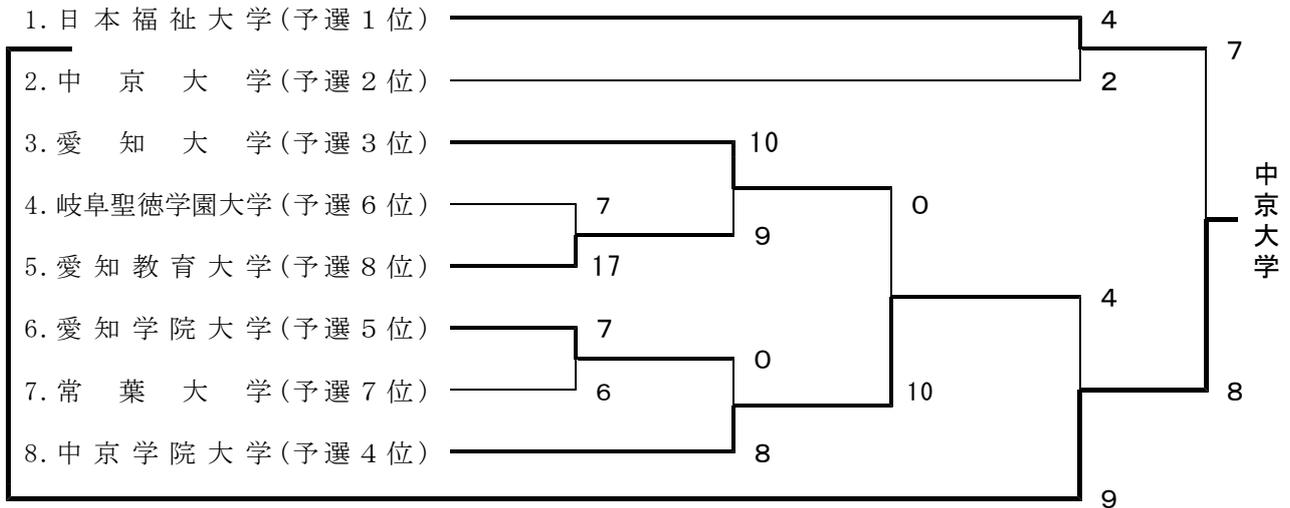
第14回東海地域大学男女ソフトボール選手権大会

一兼、第52回全日本大学(男・女)ソフトボール選手権大会東海地区最終予選会一

期日：5月20日(土)、21日(日)

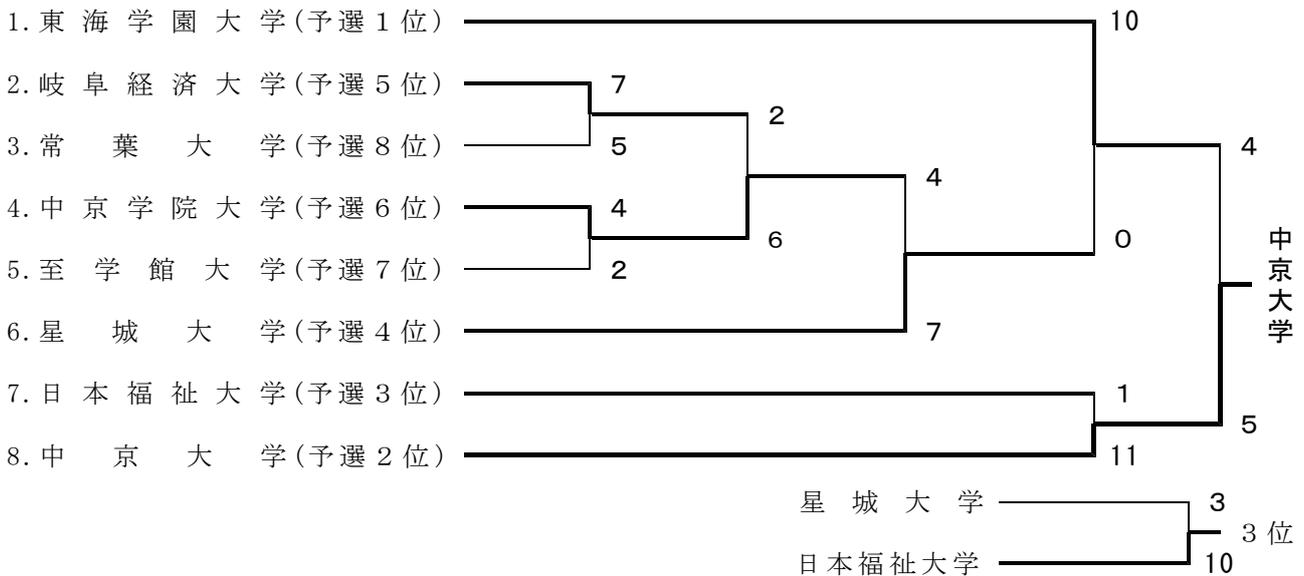
会場：静岡県浜松市浜北区／天竜川運動公園ソフトボール場

【男子】



※男子インカレ出場権獲得校：日本福祉大学（3年連続6回目）・中京大学（10年連続47回目）・中京学院大学（13年連続14回目）

【女子】



※女子インカレ出場権獲得校：東海学園大学（10年連続16回目）・中京大学（33年連続42回目）・日本福祉大学（3年連続5回目）・星城大学（初出場）

中京テレビ杯

平成29年度秋季第81回 東海地区大学(男子)ソフトボールリーグ戦

会期：平成29年10月8・9・14日、11月23日

会場：岐阜県郡上市／合併記念公園総合運動広場・各務原市／総合運動公園ソフトボール場

I 部リーグ戦

チーム	日本福祉	中 京	愛 知	中京学院	愛知学院	岐阜聖徳	勝	分	敗	順 位
日本福祉	—	● 6 - 7	○ 5 - 4	● 3 - 10	○ 12 - 6	● 3 - 4	2	0	3	3位
中 京	○ 7 - 6	—	○ 10 - 1	○ 9 - 0	○ 7 - 2	○ 10 - 2	5	0	0	優勝
愛 知	● 4 - 5	● 1 - 10	—	○ 9 - 6	● 2 - 6	○ 4 - 3	2	0	3	5位
中京学院	○ 10 - 3	● 0 - 9	● 6 - 9	—	○ 8 - 6	○ 9 - 5	3	0	2	2位
愛知学院	● 6 - 12	● 2 - 7	○ 6 - 2	● 6 - 8	—	○ 14 - 5	2	0	3	4位
岐阜聖徳	○ 4 - 3	● 2 - 10	● 3 - 4	● 5 - 9	● 5 - 14	—	1	0	4	6位

※3～5位は直接対戦の結果による。

II 部リーグ戦

予選A g	常 葉	静 岡	名 古 屋	名 商	東海学園	勝	分	敗	順位
常 葉	—	○ 5 - 4	○ 13 - 3	○ 10 - 0	○ 16 - 0	4	0	0	1位
静 岡	● 4 - 5	—	● 2 - 8	○ 17 - 10	○ 8 - 5	2	0	2	3位
名 古 屋	● 3 - 13	○ 8 - 2	—	○ 14 - 4	○ 13 - 3	3	0	1	2位
名古屋商	● 0 - 10	● 10 - 17	● 4 - 14	—	● 5 - 19	0	0	4	5位
東海学園	● 0 - 16	● 5 - 8	● 3 - 13	○ 19 - 5	—	1	0	3	4位

予選B g	愛知教育	南 山	名 城	中 部	勝	分	敗	失点率	順位
愛知教育	—	● 0 - 18	○ 11 - 1	○ 14 - 12	2	0	1	13.76	3位
南 山	○ 18 - 0	—	● 5 - 6	○ 13 - 12	2	0	1	3.00	1位
名 城	● 1 - 11	○ 6 - 5	—	○ 10 - 3	2	0	1	9.60	2位
中 部	● 12 - 14	● 13 - 14	● 3 - 10	—	0	0	3	-	4位

※1～3位は失点率による。

順位決定予備戦

名 城 大 学(予選B 2位) 3 - 1 名 古 屋 大 学(予選A 2位)
 愛 知 教 育 大 学(予選B 3位) 11 - 2 静 岡 大 学(予選A 3位)
 中 部 大 学(予選B 4位) 25 - 16 東 海 学 園 大 学(予選A 4位)

順位決定戦

- 1 位 決 定 戦：常 葉 大 学(予選A 1 位) 14-4 南 山 大 学(予選B 1 位)
 2・3 位決定戦：南 山 大 学(1 位決定戦敗者) 3-10 名 城 大 学(予備戦勝者)
 4・5 位決定戦：愛知教育大学(予備戦勝者) 14-1 名 古 屋 大 学(予備戦敗者)
 6・7 位決定戦：中 部 大 学(予備戦勝者) 11-9 静 岡 大 学(予備戦敗者)
 8・9 位決定戦：東海学園大学(予備戦敗者) 13-3 名古屋商科大学(予選A 5 位)

I・II 部入れ替え戦

愛知大学(I 部 5 位) 13-2 名城大学(II 部 2 位) ※両大とも原部に残留
 岐阜聖徳学園大学(I 部 6 位) 6-5 常葉大学(II 部 1 位) ※両大とも原部に残留

個人表彰選手

- 最 優 秀 選 手 賞：近藤 大嗣 (中京大)
 首 位 打 者 賞：杉村 優太 (中京大)
 記録：7 割 0 分 0 厘
 打 点 賞：井上 明 (日本福祉大学)
 記録：7
 打 点 賞：菊川 智己 (中京大)
 記録：10
 本 塁 打 賞：三好 優都 (愛知学院大)
 記録：3
 盗 塁 賞：杉村 優太 (中京大)
 記録：4
 最 優 秀 防 御 率 賞：杉村 優太 (中京大)
 記録：1.47
 優 秀 選 手 賞：外山 大友 (常葉大)
 ベストマネジメント賞：北澤紗南・中田愛菜(名城大)
 ベストマーケティング賞：木田 裕輔 (名古屋大)
 ベストスコアラー賞：鴛海ほのか (愛知大)

I 部 ベ ス ト テ ン

- 投 手：関口 幸輝 (中京大)
 捕 手：三好 優都 (愛知学院大)
 一 塁 手：岸園 優希 (中京大)
 二 塁 手：太田 翔也 (中京大)
 三 塁 手：井上 弥 (日本福祉大)
 遊 撃 手：杉田 拓 (日本福祉大)
 外 野 手：菊川 智己 (中京大)
 外 野 手：南村 海斗 (中京学院大)
 外 野 手：杉本 光 (愛知大)
 D P F P：長谷川大輔 (愛知学院大)

II 部 ベ ス ト プ レ イ ヤ ー 賞

- 常 葉 大 学：村上 太基
 名 城 大 学：栖田 修成
 南 山 大 学：森下 兼斗
 愛 知 教 育 大 学：岩崎 和司
 名 古 屋 大 学：村上 太基
 中 部 大 学：徳久 大地
 静 岡 大 学：森 貴裕
 東 海 学 園 大 学：水谷 春希
 名 古 屋 商 科 大 学：土屋 諒太

講評

昨年同様雨に悩まされたリーグ戦となった。日程2日と急遽設定していただいた予備日も流されたにもかかわらず、白鳥・各務原両協会と岐阜県協会の献身的なご尽力によって、すばらしい球場と見事な運営で無事終了できたことに対し、まずもって感謝と御礼を申し上げます。

I 部リーグ戦は、春季優勝の日福大が昇格したばかりの聖徳大に1点差で敗れるとう波乱の開幕となった。その後も独走する中京大以外は混戦が続き、3～5位は2勝3敗で対戦成績での順位決定となった。2位には中院大がはいったものの最終戦は入れ替え戦に回った愛知大に敗れるという結果であった。投手力の強化が急務であろう。

II 部は相変わらず10点ゲームの試合が多く、選手は楽しめたかも知れないが、ソフトボール競技としては「もう一つの厳しさ」が求められた。これが入替戦で春に続いて昇格できなかったことに示されていると思われる。(事務局長 水谷 博)

中京テレビ杯

平成29年度秋季第70回東海地区大学(女子)ソフトボールリーグ戦

会期：平成29年9月23・24・30日、10月1日

会場：愛知県高浜市／碧海グラウンド・流作グラウンド

I 部リーグ戦

チーム	東海学園	中 京	日本福祉	星 城	岐阜経済	中京学院	勝	分	敗	順 位
東海学園	-	○7-0	○12-1	○4-2	○8-0	○5-0	5	0	0	優勝
中 京	●0-7	-	○8-1	○3-0	○6-1	○3-0	4	0	1	2位
日本福祉	●1-12	●1-8	-	●3-5	●8-9	○6-1	1	0	4	5位
星 城	●2-4	●0-3	○5-3	-	●1-2	○2-0	2	0	3	4位
岐阜経済	●0-8	●1-6	○9-8	○2-1	-	●0-3	2	0	3	3位
中京学院	●0-5	●0-3	●1-6	●0-2	○3-0	-	1	0	4	6位

※3～4位、5～6位は直接対戦の結果による。

II 部リーグ戦

チーム	至学館	常 葉	愛知教育	岐阜聖徳	静 岡	名古屋	勝	分	敗	順 位
至学館	-	●3-5	○11-0	○4-1	○13-0	○16-0	4	0	1	2位
常 葉	○5-3	-	○8-2	○11-0	○4-0	○6-3	5	0	0	優勝
愛知教育	●0-11	●2-8	-	●3-5	●1-7	○9-2	1	0	4	5位
岐阜聖徳	●1-4	●0-11	○5-3	-	●1-2	○9-2	2	0	3	4位
静 岡	●0-13	●0-4	○7-1	○2-1	-	○7-0	3	0	2	3位
名古屋	●0-16	●3-6	●2-9	●2-9	●0-7	-	0	0	5	6位

I・II部入れ替え戦

日本福祉大学(I部5位)6-1至学館大学(II部2位) ※日本福祉大はI部残留、至学館大もII部残留

中京学院大学(I部6位)9-2常葉大学(II部1位) ※中京学院大はI部残留、常葉大もII部残留

個人表彰選手

最優秀選手賞：久米 晶 (東海学園大)

I 部 盗 塁 賞：沖中由梨花 (東海学園大)

I 部 首位打者賞：佐藤 友香 (中京大)

記録5

記録8割0分0厘 ※リーグ新記録

I 部最優秀防御率賞：金丸侑志帆 (中京大)

I 部 打 点 賞：吉田 彩夏 (東海学園大)

記録0.00

記録6

II 部 優 秀 選 手 賞：鈴木 絢子 (常葉大)

I 部 本 塁 打 点 賞：該当者なし

ベストマネジメント賞：斎藤 萌生 (星城大)

ベストマーケティング賞：中村 弥来（中京大）
 ベストスコアラー賞：関戸 真紀（愛知教育大）

I 部 ベ ス ト 1 0 :

投 手 松岡 里歩（星城大）
 捕 手 棚町 佳奈（東海学園大）
 一 塁 手 水谷八重乃（岐阜経済大）
 二 塁 手 小島 新菜（東海学園大）
 三 塁 手 鈴木 里奈（日本福祉大）
 遊 撃 手 吉田 彩夏（東海学園大）
 外 野 手 沖中由梨花（東海学園大）
 外 野 手 昆野 藍加（東海学園大）
 外 野 手 佐藤 果歩（中京大）
 D P F P 佐藤 友香（中京大）

II 部 ベ ス ト プ レ イ ヤ ー 賞 :

至 学 館 大 学 : 山崎真梨音
 常 葉 大 学 : 上村 一華
 静 岡 大 学 : 宇佐美愛華
 岐阜聖徳学園大学 : 新實えりか
 愛 知 教 育 大 学 : 松内紗也香
 名 古 屋 大 学 : 野呂あかり

講 評

平成29年度秋季女子リーグ戦も愛知県高浜市碧海グラウンドと流作グラウンドにおいて予定通り開催できましたこと、関係各位に心から感謝申し上げます。また最終日には、中京テレビ様のご尽力により、女子I部の二試合をインターネット中継していただきました。毎回の多大なるご尽力に感謝申し上げます。

今季リーグ戦は、長年続いている中京大、東海学大の二強に日本福祉大、星城大が食い込めるかに注目が集まった。しかし二強の牙城は崩れず、星城大は4位、日本福祉大が5位という成績であった。そこに割って入ったのは、岐阜経済大。持ち前の打力と一年生投手が踏ん張りを見せ、2勝

を挙げ見事3位に返り咲いた。その岐阜経済大に二強以外で黒星をつけたのは、6位の中京学院大だった。結果、I部下位4チームの白星が入り乱れる混戦のリーグ戦となった。そんな中安定した力を見せつけて二強対決を制したのは東海学大。ライバルの中京大を7-0のコールドの圧勝で下し、二季連続14回目の優勝を飾った。中京大は、四年生が抜けた穴を埋めきれず、来季へ不安が残る試合となった。来季は、この二強を巻き込んだリーグ戦の競争激化に期待したい。

II部は中部学院大学の欠場で6チームのリーグ戦になったが、常葉大と至学館大の二強が全勝で優勝を争い、65回のII部降格後初の優勝を5戦全勝で獲得した。注目されたのは、静岡大学の3位であった。これまで最下位を争っていたが、このところの強化が実り着実に力を付けて上位へ進出した。また、全敗で最下位に甘んじた名古屋大であったが、理系の院生4名がチームを引っ張り清々しい戦いを見せた。

入れ替え戦では、II部優勝の常葉大とI部6位の中京学院大、II部2位の至学館大とI部5位の日本福祉大が戦った。I部の壁は厚く、3季連続で入れ替えはならなかった。これまで感じられなかったI部下位とII部上位の力の差が認められるようになってきたので、II部チームの奮起を期待したい。

中京テレビ最優秀選手賞には、優勝した東海学大の久米晶が選ばれた。新キャプテンとして、短期間でチームをまとめ上げ圧倒的な力を示したことは見事であった。また首位打者には中京大の佐藤友香が選ばれた。記録は8割で70回大会を最高打率の更新で飾った。I部上位4チームには第9回藤原初男杯への出場権が与えられた。

(理事長 二瓶雄樹)

【近畿地区】

平成29年度 第49回春季関西学生ソフトボールリーグ戦（男子）

会期：4月15日～5月28日

会場：大阪府泉南市／サザンスタジアム・なみはやグラウンド、大阪市／柴島スポーツグラウンド

1部リーグ戦

チーム	神戸学院	同志社	関西	立命館	京都産業	大阪体育	勝	分	敗	順位
神戸学院	-	○4-3	△3-3	○8-1	○7-4	○6-2	4	1	0	1位
同志社	●3-4	-	△2-2	○16-4	△7-7	○11-1	2	2	1	2位
関西	△3-3	△2-2	-	○9-2	○9-2	●1-3	2	2	1	3位
立命館	●1-8	●4-16	●2-9	-	○13-0	○7-3	2	0	3	4位
京都産業	●4-7	△7-7	●2-9	●0-13	-	○4-1	1	1	3	5位
大阪体育	●2-6	●1-11	○3-1	●3-7	●1-4	-	1	0	4	6位

☆神戸学院大学は5季ぶり9回目の優勝！★大阪体育大学は2部に自動降格 ※2位～3位は得失点差規定により決定

2部リーグ戦

2部A	大阪経済	大阪市立	佛教	大阪経法	関西学院	勝	分	敗	点	順位
大阪経済	-	○9-3	○12-1	○11-0	○21-2	4	0	1	12	1位
大阪市立	●3-9	-	○3-1	○9-4	○17-3	3	0	1	6	2位
佛教	●1-12	●1-3	-	○16-0	○10-0	2	0	2	6	3位
大阪経法	●0-11	●4-9	●0-16	-	○14-3	1	0	3	3	4位
関西学院	●2-21	●3-7	●0-10	●3-14	-	0	0	4	0	5位

2部B	四天王寺	大阪府立	神戸	大阪教育	兵庫教育	勝	分	敗	点	順位
四天王寺	-	○6-2	○16-5	○8-0	○5-0	4	0	0	12	1位
大阪府立	●2-6	-	○2-0	○6-4	○6-4	3	0	1	9	2位
神戸	●5-16	●0-2	-	○11-1	○4-2	2	0	2	6	3位
大阪教育	●0-8	●4-6	●1-11	-	○9-3	1	0	3	3	4位
兵庫教育	●0-5	●4-6	●2-4	●3-9	-	0	0	4	0	5位

◎2部ブロック決勝 大阪経済大学1-3四天王寺大学 ☆四天王寺大学は1部に自動昇格
 ◎2部最下位決定戦 関西学院大学4-18兵庫教育大学 ★関西学院大学は3部に自動降格

3部リーグ戦

3部A	大 阪	甲 南	和 歌 山	摂 南	流通科学	勝	分	敗	点	順 位
大 阪		○ 8 - 5	○ 2 - 1	○ 17 - 2	○ 11 - 1	4	0	0	12	1 位
甲 南	● 5 - 8		○ 15 - 3	○ 11 - 6	○ 14 - 2	3	0	1	9	2 位
和 歌 山	● 1 - 2	● 3 - 15		○ 8 - 6	○ 22 - 2	2	0	2	6	3 位
摂 南	● 2 - 17	● 6 - 11	● 6 - 8		○ 10 - 2	1	0	3	3	4 位
流通科学	● 1 - 11	● 2 - 14	● 2 - 22	● 2 - 10		0	0	4	0	5 位

3部B	近 畿	兵庫県立	京都学園	大阪産業	勝	分	敗	点	順 位
近 畿		△ 11 - 11	○ 18 - 4	○ 13 - 1	2	1	0	7	1 位
兵庫県立	△ 11 - 11		○ 6 - 5	○ 25 - 3	2	1	0	7	2 位
京都学園	● 4 - 18	● 5 - 6		○ 13 - 7	1	0	2	3	3 位
大阪産業	● 1 - 13	● 3 - 25	● 5 - 13		0	0	3	0	4 位

※1位～2位は得失点差規定により決定

3部C	京 都	奈良教育	大阪工業	龍 谷	勝	分	敗	点	順 位
京 都		○ 7 - 3	○ 13 - 7	○ 6 - 4	3	0	0	9	1 位
奈良教育	● 3 - 7		○ 6 - 2	○ 3 - 2	2	0	1	6	2 位
大阪工業	● 7 - 13	● 2 - 6		○ 12 - 0	1	0	2	3	3 位
龍 谷	● 4 - 6	● 2 - 3	● 0 - 12		0	0	3	0	4 位

◎3部ブロック決勝 近畿大学 5 - 6 大阪大学 京都大学 8 - 5 近畿大学
 大阪大学 2 - 5 京都大学 ☆京都大学は2部に自動昇格

◎入れ替え戦

1部・2部 京都産業大学 6 - 5 大阪経済大学 ☆京都産業大学は1部残留
 2部・3部 兵庫教育大学 2 - 5 大阪大学 ☆大阪学大は2部昇格、兵庫教育大学は3部降格

◇西日本インカレ出場チーム（リーグ戦結果の上位11大学）

神戸学院大学、同志社大学、関西大学、立命館大学、京都産業大学、大阪体育大学
 四天王寺大学、大阪経済大学、大阪府立大学、大阪市立大学、神戸大学

◇全日本インカレ出場チーム（1部1・2位、及びインカレ予選により決定）

神戸学院大学、同志社大学、関西大学、立命館大学、京都産業大学、四天王寺大学、大阪府立大学

【総評】 全日本インカレの予選も兼ねている
 春季リーグ戦。1部はピリピリしたムードで開幕
 した。

その中で、新戦力の加入によって昨年秋よりも
 戦力アップした神戸学院大学が、ここ数年間安定
 した投球を見せる松田選手を擁する関西大学と引

き分け、さらに残り4試合には全勝し、5年ぶりという久しぶりの優勝を果たした。一方の関西大学は肝心の試合で打線がうまくかみ合わず、2引き分けが響いて3位となった。また、昨年度起こした問題の反省に立ってチームをしっかりと立て直した同志社大学が大健闘し、準優勝となったことは非常にうれしい。この緊張感を忘れずに、西日本や全日本インカレでも頑張ってもらいたい。

2部は、投打で他チームを圧倒した大阪経済大学がAブロックで全勝し、ブロック決勝に駒を進めた。Bブロックは頭一つ抜けた四天王寺大学と大阪府立大学であったが、直接対決を制した四天王寺大学が全勝となった。ブロック決勝では、4年生になった北出投手が大阪経済大学を1点に抑え、四天王寺大学が1部復帰を果たした。

3部は、それぞれのブロックを制した、大阪大学、近畿大学、京都大学の3チーム総当たりとなったが、1勝1敗同士で迎えた最終試合で京都大学が逃げ切り、念願の2部復帰を果たした。残念ながら入れ替え戦にまわった大阪大学であったが、兵庫教育大学を圧倒し、これまた2部復帰を果たした。

今回の結果を見渡すと、やはりある程度計算のできる投手を抱えるチームが試合を優位に進めていたことは間違いない。西日本大会や全日本大会に出場するチームは、2ヶ月程の準備期間しかないが、チームとしての勝利に向けた方程式を明確にして関西を代表した戦いをしてほしい。

(理事長 森田啓之)

平成29年度 第49回春季関西学生ソフトボールリーグ戦 (女子)

会期：4月15・16・22・23・29・30日、5月3日

会場：園田学園女子大学・武庫川女子大学・四天王寺大学・摂南大学

1部リーグ戦成績

チーム	園田学園	大阪大谷	大阪国際	武庫川	奈良文化	神戸親和	大阪青山	同志社
園田学園	-	○2-1	○6-1	○7-0	○5-2	○12-0	○4-1	○6-0
大阪大谷	●1-2	-	○1-0	○8-0	○3-0	○7-0	○4-0	○2-1
大阪国際	●1-6	●0-1	-	○4-0	○3-2	○2-1	○3-2	○5-4
武庫川	●0-7	●0-8	●0-4	-	○2-1	○1-0	○3-1	○2-1
奈良文化	●2-5	●0-3	●2-3	●1-2	-	●0-2	○3-1	○9-3
神戸親和	●0-12	●0-7	●1-2	●0-1	○2-0	-	○4-2	●4-5
大阪青山	●1-4	●0-4	●2-3	●1-3	●1-3	●2-4	-	●1-4
同志社	●0-6	●1-2	●4-5	●1-2	●3-9	○5-4	○4-1	-

※5～7位は、当該チームの失点差により順位決定。

1部最終成績

優勝	園田学園女子大学	(7勝0分0敗)
2位	大阪大谷大学	(6勝0分1敗)
3位	大阪国際大学	(5勝0分2敗)
4位	武庫川女子大学	(4勝0分3敗)
5位	神戸親和女子大学	(2勝0分5敗)
6位	奈良学園大奈良文化女子短	(2勝0分5敗)
7位	同志社大学	(2勝0分5敗)
8位	大阪青山大学	(0勝0分7敗)

投手成績

順位	氏名	大 学	防御率
1位	吉崎菜々海	大阪大谷大学	0.26
2位	原 奈々	園田学園女子大学	0.35
3位	石川 千尋	大阪国際大学	0.78

ベストプレー賞

大 学	氏 名	守備位置
園田学園女子大学	栂山 奈々	捕 手
大阪大谷大学	仁科 芽惟	中堅手
大阪国際大学	石川 千尋	投 手
武庫川女子大学	中嶋美夏絵	一塁手
神戸親和女子大学	浜西千那美	投 手
奈良学園大奈良文化女子短	細見 真由	遊撃手
同志社大学	立迫 由樹	投 手
大阪青山大学	長井 すず	二塁手

1部個人表彰

打撃成績

順位	氏 名	大 学	打 率
1位	石川 恭子	園田学園女子大学	0.562
2位	稲岡 桃香	同志社大学	0.500
3位	井上 佳歩	大阪大谷大学	0.476
4位	白石 望美	園田学園女子大学	0.444
5位	奥村 愛梨	大阪国際大学	0.428
6位	仁科 芽惟	大阪大谷大学	0.416
7位	栂山 奈々	園田学園女子大学	0.400
8位	金谷 愛美	同志社大学	0.392
9位	小嶋那奈美	神戸親和女子大学	0.391
10位	佐々木萌香	大阪国際大学	0.347

ホームラン賞：栂山 奈々 園田学園女子大学
記録 2

盗塁賞：石川 恭子 園田学園女子大学 記録 6
堀 あかね 奈良学園大学奈良文化女子短期大学部

2部リーグ戦対戦成績

チーム	天 理	立 命 館	太成学院	関 西	大阪体育	龍 谷	勝	分	敗	順 位
天 理	-	● 2 - 3	● 5 - 7	● 5 - 12	● 2 - 4	○ 7 - 4	1	0	4	5位
立 命 館	○ 3 - 2	-	○ 2 - 1	○ 9 - 2	○ 7 - 0	○ 8 - 0	5	0	0	1位
太成学院	○ 7 - 5	● 1 - 2	-	● 1 - 8	● 5 - 9	○ 8 - 3	2	0	3	4位
関 西	○ 12 - 5	● 2 - 9	○ 8 - 1	-	○ 8 - 3	○ 3 - 2	4	0	1	2位
大阪体育	○ 4 - 2	● 0 - 7	○ 9 - 5	● 3 - 8	-	● 1 - 7	2	0	3	3位
龍 谷	● 4 - 7	● 0 - 8	● 3 - 8	● 2 - 3	○ 7 - 1	-	1	0	4	6位

※3・4位、5・6位は、当該チームの直接対戦により順位決定。

2部個人表彰

打撃成績

順位	氏 名	大 学	打 率
----	-----	-----	-----

1位	木村 浩子	関西大学	0.600
2位	神村 瑞穂	天理大学	0.560
2位	山元麻莉絵	関西大学	0.560

4位	服部 泉	龍谷大学	0.555
5位	向井 梨歩	立命館大学	0.500
6位	宮迫 南波	立命館大学	0.466
6位	柳瀬 瞳	大阪体育大学	0.466
8位	水口 楓	太成学院大学	0.461
8位	佐々木菜那	天理大学	0.461
10位	串崎めぐみ	太成学院大学	0.458
10位	小山 菜奈	太成学院大学	0.458

3位	古谷 麻美	大阪体育大学	1.75
ベストプレイ賞			
大 学	氏 名	守備位置	
立命館大学	宮迫 南波	中堅手	
関西大学	安平 泉	一塁手	
大阪体育大学	砂山 奈菜	中堅手	
太成学院大学	田中 花鈴	投 手	
天理大学	佐々木菜那	一塁手	
龍谷大学	井戸 渚	投 手	

投手成績

順位	氏 名	大 学	防御率
1位	山口 希	立命館大学	0.81
2位	田中 花鈴	太成学院大学	0.16

ホームラン賞：小山 菜奈 太成学院大学 記録2
盗塁賞：宮迫 南波 立命館大学 記録3

3部Aリーグ対戦成績表

チーム	びわこ	羽衣国際	京都女子	摂 南	勝	分	敗
びわこ	-	● 2-4	○ 12-3	○ 7-0	2	0	1
羽衣国際	○ 4-2	-	○ 19-0	○ 7-0	3	0	0
京都女子	● 3-12	● 0-19	-	○ 7-0	1	0	2
摂 南	● 0-7	● 0-7	● 0-7	-	0	0	3

3部Bリーグ対戦成績表

チーム	京都産業	兵庫教育	佛 教	府立・四天王寺	勝	分	敗
京都産業	-	○ 7-1	○ 23-0	○ 16-0	3	0	0
兵庫教育	● 1-7	-	○ 22-0	○ 18-8	2	0	1
佛 教	● 0-23	● 0-22	-	○ 14-4	1	0	2
府立・四天王寺	● 0-16	● 8-18	● 4-14	-	0	0	3

※Aリーグ、Bリーグでの結果を踏まえ、順位戦にて総合順位を決定。

3部最終成績

優勝	京都産業大学	(4勝0分0敗)
2位	羽衣国際大学	(3勝0分1敗)
3位	びわこ成蹊スポーツ大学	(3勝0分1敗)
4位	兵庫教育大学	(2勝0分2敗)
5位	京都女子大学	(2勝0分2敗)
6位	佛教大学	(1勝0分3敗)
7位	大阪府立大学・四天王寺大学	(1勝0分3敗)
8位	摂南大学	(0勝0分4敗)

3部個人表彰

打撃成績			
順位	氏 名	大 学	打 率
1位	西山 唯	京都女子大学	0.666
2位	中田 真帆	びわこ成蹊スポーツ大学	0.555
3位	吉岡 麗	京都女子大学	0.545
4位	永井 志穂	羽衣国際大学	0.500
4位	鶴藪 彩菜	京都女子大学	0.500
4位	糸井 愛	佛教大学	0.500

4位	玉城 華奈	四天王寺大学	0.500
4位	中村 月覇	大阪府立大学	0.500
4位	大江佳奈子	大阪府立大学	0.500
10位	板越 愛美	羽衣国際大学	0.476

羽衣国際大学	恵良比奈乃	中堅手
びわこ成蹊スポーツ大学	中田 真帆	一塁手
兵庫教育大学	藤岡明日香	遊撃手
京都女子大学	大西優里佳	投手
佛教大学	佐藤絵里香	投手
大阪府立大学	中村 月覇	投手
四天王寺大学	玉城 華奈	三塁手
摂南大学	時枝 栞子	内野手

投手成績

順位	氏名	大 学	防御率
1位	宮本 菜那	京都産業大学	2.07
2位	由川茅成実	びわこ成蹊スポーツ大学	2.23
3位	永井 志穂	羽衣国際大学	5.65

ホームラン賞：古嶋 唯 京都産業大学 記録2
盗塁賞：永井 志穂 羽衣国際大学 記録11

ベストプレー賞

大 学	氏 名	守備位置
京都産業大学	宮本 菜那	投手

平成29年度 第49回秋季関西学生ソフトボールリーグ戦（男子）

会期：9月9日～11月26日

会場：大阪府泉南市／サザンスタジアム・なみはやグラウンド、大阪市／柴島スポーツグラウンド

1部リーグ戦

チーム	神戸学院	関 西	立 命 館	京都産業	四天王寺	同 志 社	勝	分	敗	順 位
神戸学院	-	○3-2	○3-1	○4-3	○10-2	●2-4	4	0	1	1位
関 西	●2-3	-	○7-0	○9-7	○4-2	○11-2	4	0	1	2位
立 命 館	●1-3	●0-7	-	○4-2	○6-3	○16-11	3	0	2	3位
京都産業	●3-4	●7-9	●2-4	-	○5-1	○10-9	2	0	3	4位
四天王寺	●2-10	●2-4	●3-6	●1-5	-	○6-5	1	0	4	5位
同 志 社	○4-2	●2-11	●11-16	●9-10	●5-6	-	1	0	4	6位

☆神戸学院大学は2季連続10回目の優勝！★同志社大学は2部に自動降格
※1位と2位、5位と6位は、ともに該当チーム間勝ち点規定により決定

2部リーグ戦

2部A	大阪教育	京 都	大 阪	大阪経済	佛 教	勝	分	敗	点	順 位
大阪教育	-	○7-6	○12-4	●2-6	○7-4	3	0	1	9	1位
京 都	●6-7	-	●5-11	○15-7	○7-2	2	0	2	6	2位
大 阪	●4-12	○11-5	-	●3-5	○11-0	2	0	2	6	3位
大阪経済	○6-2	●7-15	○5-3	-	●0-6	2	0	2	6	4位
佛 教	●4-7	●2-7	●0-11	○6-0	-	1	0	3	0	5位

2部B	大阪府立	大阪体育	神戸	大阪経法	大阪市立	勝	分	敗	点	順位
大阪府立		○7-4	○6-0	○3-2	○5-4	4	0	0	12	1位
大阪体育	●4-7		○8-6	○2-1	○4-2	3	0	1	9	2位
神戸	●0-6	●6-8		○5-4	△2-2	1	2	2	4	3位
大阪経法	●2-3	●1-2	●4-5		○8-7	1	0	3	3	4位
大阪市立	●4-5	●2-4	△2-2	●7-8		0	1	3	1	5位

◎2部ブロック決勝 大阪教育大学4-3大阪府立大学 ☆大阪教育大学は1部に自動昇格

◎2部最下位決定戦 佛教大学0-7大阪市立大学(棄権) ★佛教大学は3部に自動降格

3部リーグ戦

3部A	龍谷	近畿	奈良教育	大阪産業	兵庫球育	勝	分	敗	点	順位
龍谷		△5-5	○9-2	○7-0	○2-0	3	1	0	10	1位
近畿	△5-5		○2-0	○10-3	○7-0	3	1	0	10	2位
奈良教育	●2-9	●0-2		○7-0	○8-1	2	0	2	6	3位
大阪産業	●0-7	●3-10	●0-7		○9-6	1	0	3	3	4位
兵庫球育	●0-2	●0-7	●1-8	●6-9		0	0	4	0	5位

※1位~2位は該当チーム間勝ち点規定により決定

3部B	関西学院	兵庫県立	甲南	流通科学	勝	分	敗	点	順位
関西学院		○9-1	○11-6	○21-1	3	0	0	9	1位
兵庫県立	●1-9		○26-0	○7-0	2	1	0	6	2位
甲南	●6-11	●0-26		○32-0	1	0	2	3	3位
流通科学	●1-21	●0-7	●0-32		0	0	3	0	4位

3部C	大阪工業	和歌山	摂南	京都学園	勝	分	敗	点	順位
大阪工業		△9-9	○15-0	○9-1	2	1	0	7	1位
和歌山	△9-9		○12-1	○10-9	2	1	0	7	2位
摂南	●0-15	●1-12		○11-9	1	0	2	3	3位
京都学園	●1-9	●9-10	●9-11		0	0	3	0	4位

※1位~2位は該当チーム間勝ち点規定により決定

◎3部ブロック決勝 龍谷大学6-0関西学院大学 関西学院大学12-2大阪工業大学
 龍谷大学2-3大阪工業大学 ☆龍谷大学は2部に自動昇格

◎入れ替え戦

- 1部・2部 四天王寺大学8 - 1大阪府立大学 ☆四天王寺大学は1部残留
- 2部・3部 大阪市立大学6 - 5関西学院大学 ☆大阪学大は2部残留

【総評】 半世紀近い関西リーグの歴史の中で、これほど雨に悩まされたリーグ戦はなかったし、これからもないであろうというほど、順延につぐ順延の「第49回秋季男子リーグ戦」であった。最終の入れ替え戦が終了したのは、当初設定の予備日をはるかに越えた11月26日であった（9月9日開幕）。この順延により各大学ともスケジュール調整に苦心し、少なからずチームパフォーマンスに影響が出たことは間違いないだろう。

肝心の試合の中身であるが、1部は新チーム体制になった大学がほとんどであったが、神戸学院大学と関西大学がやや戦力的には抜けて、直接対決を制した神院大が2季連続の優勝を果たした。

2部は、大阪教育大学と大阪府立大学という国公立大学によるブロック決勝となったが、地力に勝る大教大が接戦を制して、念願の1部復帰を果

たした。大阪府立大学は残念ながら1部との入れ替え戦でも涙をのんだが、好投手・濱口選手の出来が試合を大きく左右する。来季こそ頑張ってもらいたいものである。

3部は、龍谷大学、関西学院大学、大阪工業大学によるブロック決勝となった。この3チームには試合の順延が大きな負担となったことは間違いないが、その中でも龍谷大学が安定した戦いをして全勝で2部に昇格を果たした。

新チーム体制で迎えた本リーグ戦。ここ数年の傾向にたがわず全体を通して投手力の強化は課題であるが、特に1部チームにとってはその失点結果が象徴するように深刻である。関西のトップレベルにふさわしい試合が展開できるよう、是非ともこの冬の精進を期待したい。

(理事長 森田啓之)

平成29年度 第49回秋季関西学生ソフトボールリーグ戦（女子）

会期：9月18・23・24・30日、10月1・8・9日、11月3日

会場：武庫川女子大学・四天王寺大学・摂南大学・兵庫教育大学

1部リーグ戦成績

チーム	園田学園	大阪大谷	大阪国際	立命館	神戸親和	同志社	関西	武庫川
園田学園	-	○2-0	○4-0	○7-0	○9-0	○8-0	○7-0	○7-2
大阪大谷	●0-2	-	○5-2	●2-5	○5-1	○7-0	○3-1	△4-4
大阪国際	●0-4	●2-5	-	○5-1	○2-0	○8-7	○8-0	○10-1
立命館	●0-7	○5-2	●1-5	-	○4-2	●0-6	○5-2	○1-0
神戸親和	●0-9	●1-5	●0-2	●2-4	-	●1-4	●1-5	○7-0
同志社	●0-8	●0-7	●7-8	○6-0	○4-1	-	○7-0	●4-5
関西	●0-7	●1-3	●0-8	●2-5	○5-1	●0-7	-	●0-2
武庫川	●2-7	△4-4	●1-10	●0-1	●0-7	○5-4	○2-0	-

※7、8位は、当該チームの直接対戦の勝敗より順位決定

1部最終成績

優勝	園田学園女子大学	(7勝0分0敗)
2位	大阪国際大学	(5勝0分2敗)
3位	大阪大谷大学	(4勝1分2敗)
4位	立命館大学	(4勝0分3敗)
5位	同志社大学	(3勝0分4敗)
6位	武庫川女子大学	(2勝1分4敗)
7位	関西大学	(1勝0分6敗)
8位	神戸親和女子大学	(1勝0分6敗)

1部個人表彰

打撃成績

順位	氏名	大学	打率
1位	山口みどり	大阪国際大学	0.632
2位	石川 恭子	園田学園女子大学	0.500
3位	中村 優花	園田学園女子大学	0.455
4位	金谷 愛美	同志社大学	0.440
5位	屋瀬 未奈	園田学園女子大学	0.437
6位	江口 実里	関西大学	0.381
7位	山元麻莉絵	関西大学	0.370
8位	松尾ほの華	立命館大学	0.368
9位	野表 明歩	同志社大学	0.364
9位	仁科 芽惟	大阪大谷大学	0.364

投手成績

順位	氏名	大学	防御率
1位	原 奈々	園田学園女子大学	0.00
2位	杉本 樹菜	関西大学	1.00
3位	本田 明梨	立命館大学	1.85

ベストプレイ賞

大学	氏名	守備位置
園田学園女子大学	原 奈々	投手
大阪国際大学	石川 千尋	投手
大阪大谷大学	山根 志帆	左翼手
立命館大学	松本 里菜	投手
同志社大学	松下 奈央	捕手
武庫川女子大学	中塚 芽生	左翼手
関西大学	江口 実里	捕手
神戸親和女子大学	山本 実咲	二塁手

盗塁賞：小嶋那奈美 神戸親和女子大学 記録5

ホームラン賞：栂山 奈々 園田学園女子大学
記録2 石川 恭子 園田学園女子大学
松本 里菜 立命館大学

2部リーグ戦対戦成績

チーム	大阪青山	奈良文化	太成学院	龍 谷	大阪体育	天 理	勝	分	敗	順位
大阪青山	-	○4-1	○9-1	○6-5	○3-2	●1-3	4	0	1	1位
奈良文化	●1-4	-	○5-1	○3-0	○3-2	○3-0	4	0	1	2位
太成学院	●1-9	●1-5	-	○4-0	●1-2	○6-0	2	0	3	4位
龍 谷	●5-6	●0-3	●0-4	-	○4-3	●1-4	1	0	4	6位
大阪体育	●2-3	●2-3	○2-1	●3-4	-	○3-0	2	0	3	3位
天 理	○3-1	●0-3	●0-6	○4-1	●0-3	-	2	0	3	5位

※1・2位、3～5位は、当該チームでの直接対戦による勝敗にて順位決定

2部個人表彰

打撃成績

順位	氏名	大学	打率
1位	峰 サアヤ	龍谷大学	0.611

2位	宮本 咲希	大阪青山大学	0.533
3位	細見 真由	奈良学園大奈良文化女子短	0.461
4位	中原乃々花	奈良学園大奈良文化女子短	0.444
5位	柳瀬 瞳	大阪体育大学	0.437

6位	五十嵐安奈	大阪青山大学	0.400
6位	小山 菜奈	太成学院大学	0.400
8位	松尾 慧音	龍谷大学	0.388
9位	砂山 奈菜	大阪体育大学	0.375
10位	水口 楓	太成学院大学	0.352

ベストプレイ賞

大 学	氏 名	守備位置
大阪青山大学	中尾 百伽	投 手
奈良学園大奈良文化女子短	藤木 未来	右翼手
大阪体育大学	安食 優花	遊撃手
太成学院大学	大村明日香	一塁手
天理大学	藤本 実莉	投 手
龍谷大学	峰 サアヤ	左翼手

投手成績

順位	氏 名	大 学	防御率
1位	川添 恵	大阪青山大学	1.54
2位	中原 璃子	大阪体育大学	1.84
3位	緒方 雛乃	龍谷大学	2.42

盗塁賞：該当者なし

ホームラン賞：大村明日香 太成学院大 記録3

3部Aリーグ対戦成績表

チーム	京都産業	びわこ	兵庫教育	羽衣国際	京都女子	経済・京学	勝	分	敗	順位
京都産業	-	● 3-4	○ 11-0	○ 4-3	○ 10-0	-	3	0	1	2位
びわこ	○ 4-3	-	○ 11-1	○ 5-2	-	○ 4-0	4	0	0	1位
兵庫教育	● 0-11	● 1-11	-	-	○ 6-2	○ 9-8	2	0	2	4位
羽衣国際	● 3-4	● 2-5	-	-	○ 7-3	○ 5-2	2	0	2	3位
京都女子	● 0-10	-	● 2-6	● 3-7	-	○ 11-4	1	0	3	5位
経済・京学	-	● 0-4	● 8-9	● 2-5	● 4-11	-	0	0	4	6位

※3・4位は、総失点差による勝敗にて順位決定

3部Bリーグ対戦成績表

チーム	大阪産業	佛 教	大阪府立	大阪教育	四天王寺	摂 南	勝	分	敗	順位
大阪産業	-	○ 7-0	○ 11-1	○ 15-7	○ 7-0	● 0-7	4	0	1	7位
佛 教	● 0-7	-	● 0-7	○ 15-6	○ 13-10	○ 7-0	3	0	2	9位
大阪府立	● 1-11	○ 7-0	-	● 6-13	○ 7-0	○ 17-10	3	0	2	8位
大阪教育	● 7-15	● 6-15	○ 13-6	-	● 10-15	○ 7-0	2	0	3	10位
四天王寺	● 0-7	● 10-13	● 0-7	○ 15-10	-	● 0-7	1	0	4	12位
摂 南	○ 7-0	● 0-7	● 10-17	● 0-7	○ 7-0	-	2	0	3	11位

※8・9位、10・11位は、直接対決による勝敗にて順位決定

3部個人表彰

打撃成績

順位	氏 名	大 学	打率
1位	坂口菜里菜	大阪教育大学	0.769

2位	西沢 祐香	京都産業大学	0.636
3位	中田 真帆	びわこ成蹊スポーツ大学	0.615
4位	吉岡 麗	京都女子大学	0.611
5位	永井 志穂	羽衣国際大学	0.600

5位	山田 智香	大阪経済法科大学	0.600
7位	松下 桃奈	びわこ成蹊スポーツ大学	0.574
8位	小林 千紗	大阪教育大学	0.538
9位	佐藤 里菜	京都女子大学	0.533
10位	田淵 都花	京都産業大学	0.500
10位	的場 萌	羽衣国際大学	0.500
10位	福井さやか	兵庫教育大学	0.500
10位	藤岡明日香	兵庫教育大学	0.500

投手成績

順位	氏名	大学	防御率
1位	新井 笑瑠	羽衣国際大学	1.05
2位	荒川 花涼	びわこ成蹊スポーツ大学	1.17
2位	宮本 菜那	京都産業大学	3.50

ベストプレー賞

大学	氏名	守備位置
びわこ成蹊スポーツ大学	中田 真帆	一塁手
京都産業大学	西沢 祐香	捕手
羽衣国際大学	永井 志穂	投手
兵庫教育大学	藤岡明日香	遊撃手
京都女子大学	吉川 紗生	左翼手
大阪経済法科大学・京都学園大学	土田 知春	遊撃手
大阪産業大学	國木 里奈	内野手
大阪教育大学	坂口 茉里菜	三塁手
大阪府立大学	岡山 紘子	遊撃手
摂南大学	名取 裕美	内野手
四天王寺大学	中野 咲	遊撃手

盗塁賞：永井 志穂 羽衣国際大学 記録4
ホームラン賞：該当者なし

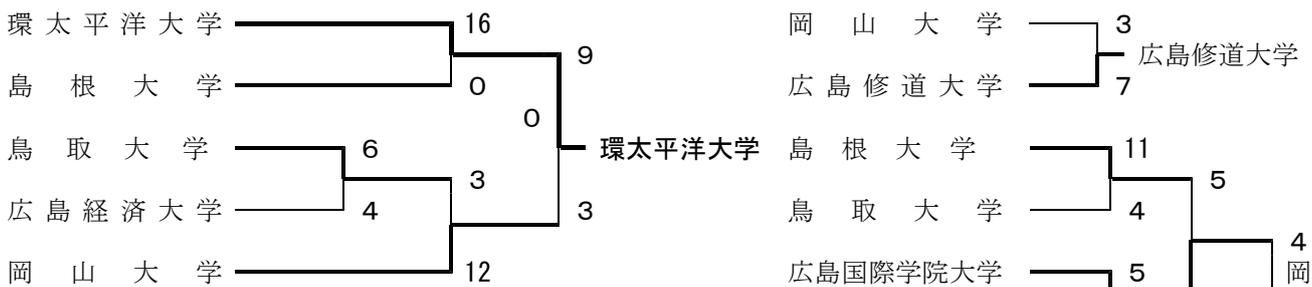
【中国地区】

第52回全日本大学・第49回西日本大学ソフトボール選手権大会中国地区予選会

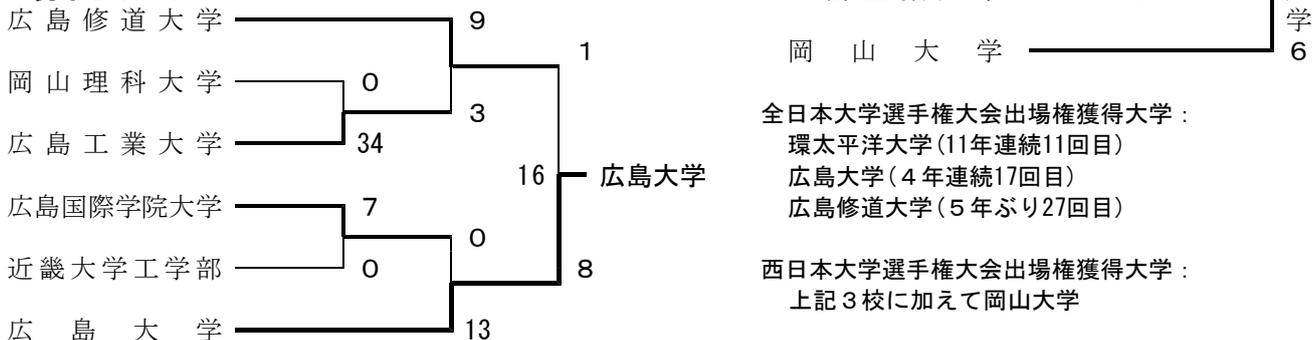
会期：5月20日(土)・21日(日)

会場：岡山県美咲町／中央運動公園

男子Aゾーン



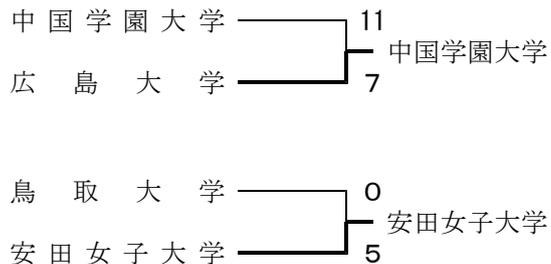
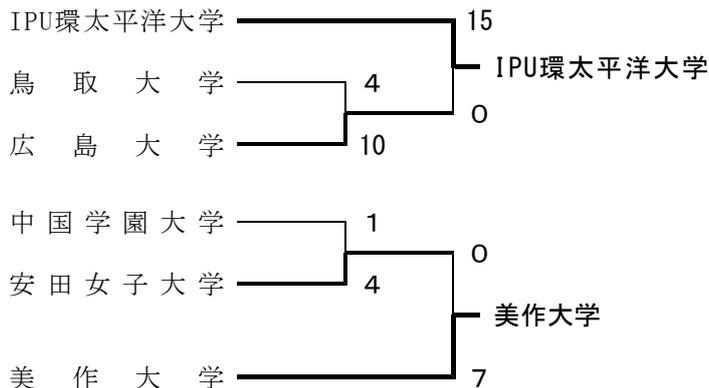
男子Bゾーン



全日本大学選手権大会出場権獲得大学：
環太平洋大学(11年連続11回目)
広島大学(4年連続17回目)
広島修道大学(5年ぶり27回目)

西日本大学選手権大会出場権獲得大学：
上記3校に加えて岡山大学

女子



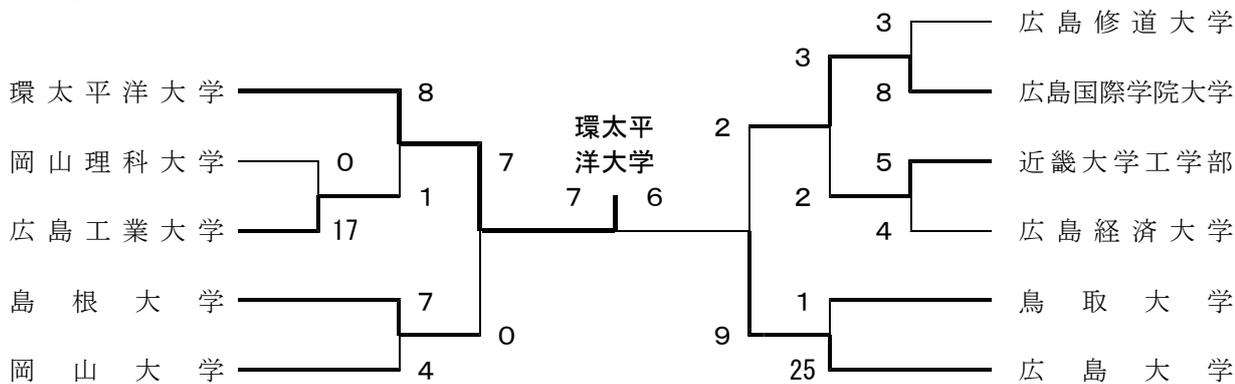
全日本大学選手権大会出場権獲得大学：IPU環太平洋大学(11年連続11回目)・美作大学(4年連続4回目)・
西日本大学選手権大会出場権獲得大学：上記2校に加えて中国学園大学学・安田女子大学

第17回 中国地区大学ソフトボール選手権大会

会期：11月11日・12日（男子）、11月3・4日（女子）

会場：広島市／広島修道大学ソフトボール場（男子）、赤磐市／吉井B&G海洋センター（女子）

【男子】



【女子予選リーグ】

Aゾーン	美作	中国	鳥取	勝	敗	順	Bゾーン	IPU	安田	修道	勝	敗	順
美作	●	○ 9-0	○ 16-0	2	0	1	環太平洋	●	○ 17-2	○ 14-0	2	0	1
広島修道	● 0-9	●	○ 9-0	1	1	2	中国学園	● 2-17	●	● 4-5	0	2	3
鳥取	● 0-16	● 0-9	●	0	0	3	広島	● 0-14	○ 5-4	●	1	1	3

【女子順位決定リーグ】

上位	美作	I P U	広島	修道	勝	敗	順
美作	● 1-7	○ 9-0	*	1	1	2	
環太平洋	○ 7-1	*	○ 10-0	2	0	1	
広島	● 0-9	*	○ 4-3	1	1	3	
広島修道	*	● 0-10	● 3-4	0	2	4	

下位	広島	修道	勝	敗	順
鳥取	○ 16-6	1	0	5	
中国学園	● 6-16	0	1	6	

【女子個人賞】最優秀選手：西野 希美（IPU・環太平洋大学） 優秀選手：重竹美乃里（美作大学）

【四国地区】平成29年度四国地区大学(男子)ソフトボール春季大会

会期：4月15日(土)・16日(日)

会場：徳島県徳島市／吉野川北岸ソフトボール場

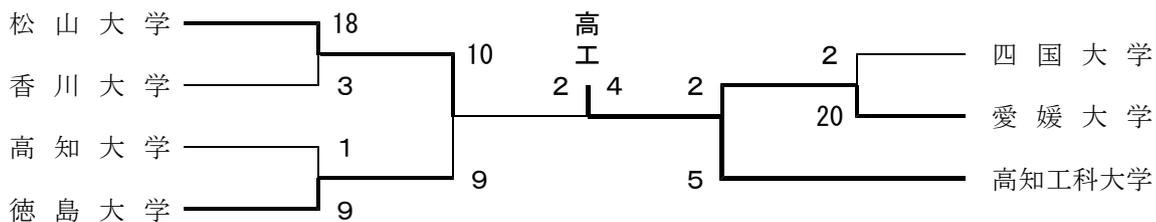
男子	高知工科	徳島	松山	香川	愛媛	勝	分	敗	順位
高知工科	○3-0	○7-0	●0-1	○9-0	3	0	1	2位	
徳島	●0-3	●3-10	●2-9	●4-11	0	0	4	5位	
松山	●0-7	○10-3	●4-8	○3-0	2	0	2	3位	
香川	○1-0	○9-2	○8-4	○6-4	0	0	5	1位	
愛媛	●0-9	○11-4	●0-3	●4-6	1	0	3	4位	

第52回 全日本大学(男・女)ソフトボール選手権大会四国予選会
一兼、第49回西日本大学ソフトボール選手権大会四国予選会一

会期：5月14日(土)・15日(日)

会場：高知県高知市／春野総合運動公園

【男子】



全日本大学選手権出場権獲得校：高知工科大学（3年連続5回目）・松山大学（2年ぶり12回目）・
西日本大学選手権出場権獲得校：高知工科大学・松山大学・徳島大学

【女子】

チーム	環太	四国	香川	勝	敗	順位
環太平洋大学短期大学部	-	○ 7-0	○ 20-0	2	0	1位
四国大学	● 0-7	-	○ 11-1	1	1	2位
香川大学	● 0-20	● 1-11	-	0	2	3位

全日本大学選手権出場権獲得校：
環太平洋大学短期大学部（20年連続20回目）
西日本大学選手権出場権獲得校：
環太平洋大学短期大学部

平成29年度 四国地区大学(男・女)ソフトボール秋季大会

会期：10月7日(土)・8日(日)
会場：香川県坂出市／総社グラウンド

【男子】

チーム	高知工科	香川	四国	徳島	愛媛	松山	勝	分	敗	順位
高知工科	-	○ 5-4		○ 3-2	○ 20-1	○ 4-1	4	0	0	1位
香川	● 4-5	-	○ 9-2		○ 9-0	○ 8-1	3	0	1	2位
四国		● 2-9	-	● 7-8	○ 13-6	△ 7-7	1	1	2	4位
徳島	● 2-3		○ 8-7	-	○ 6-5	○ 7-1	3	0	1	3位
愛媛	● 1-20	● 0-9	● 6-13	● 5-6	-		0	0	4	6位
松山	● 1-4	● 1-8	△ 7-7	● 1-7		-	0	1	3	5位

※2～3位は得失点差による。

【女子】

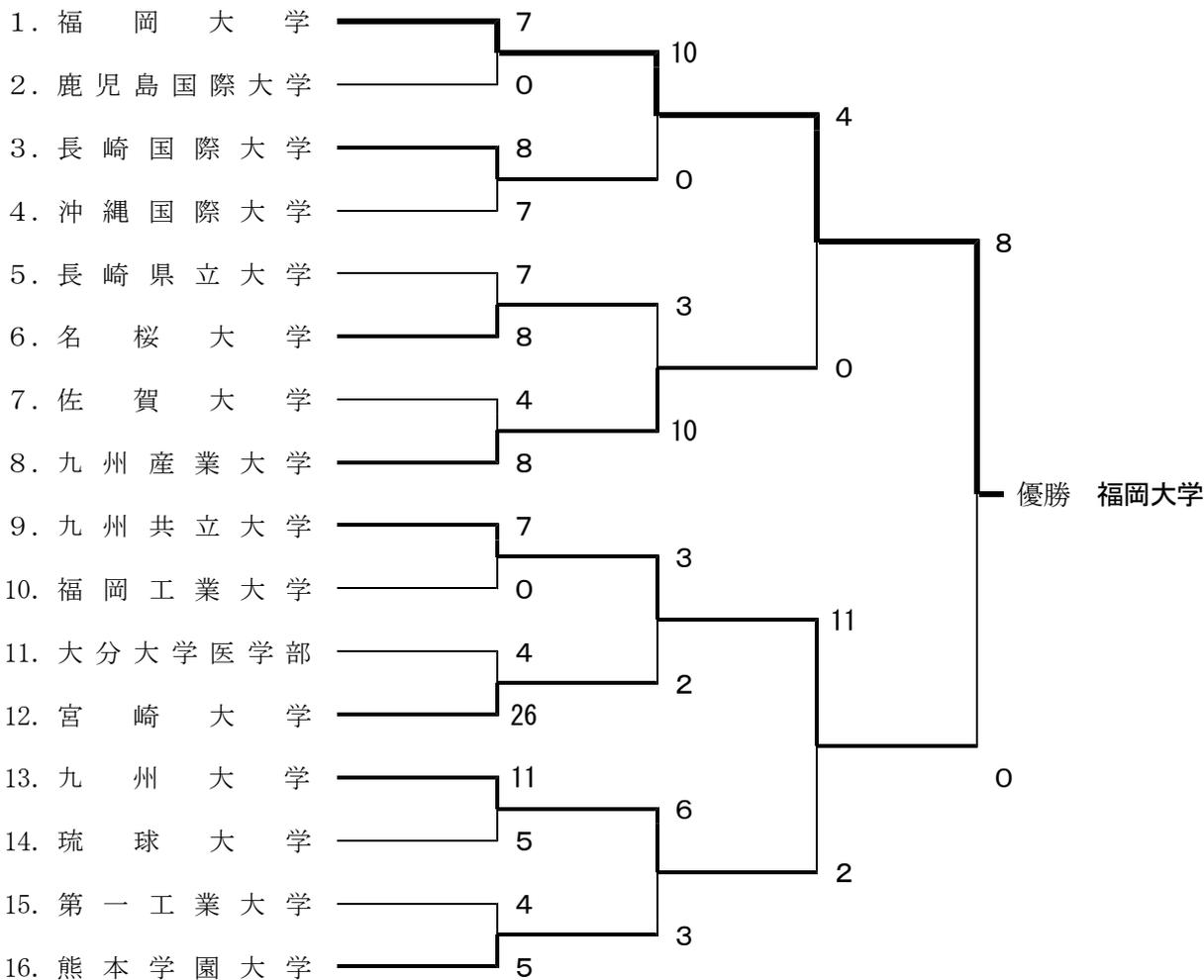
チーム	香川	四国	I P U	順
I P U短大	-	○ 23-11	○ 11-1	1
香川	● 11-23	-	● 4-7	3
四国	● 1-11	○ 7-4	-	2

【九州地区】第36回九州地区大学（男子・女子）ソフトボール春季大会
 （兼、第52回全日本大学（男子・女子）ソフトボール選手権大会予選会）

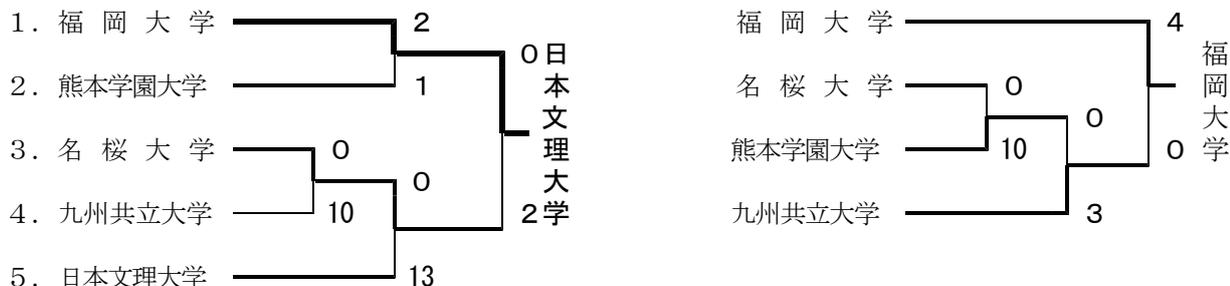
会期：5月20日（土）～21日（日）

会場：鹿児島県南九州市知覧町／平和公園多目的球場 他

【男子】



【女子】



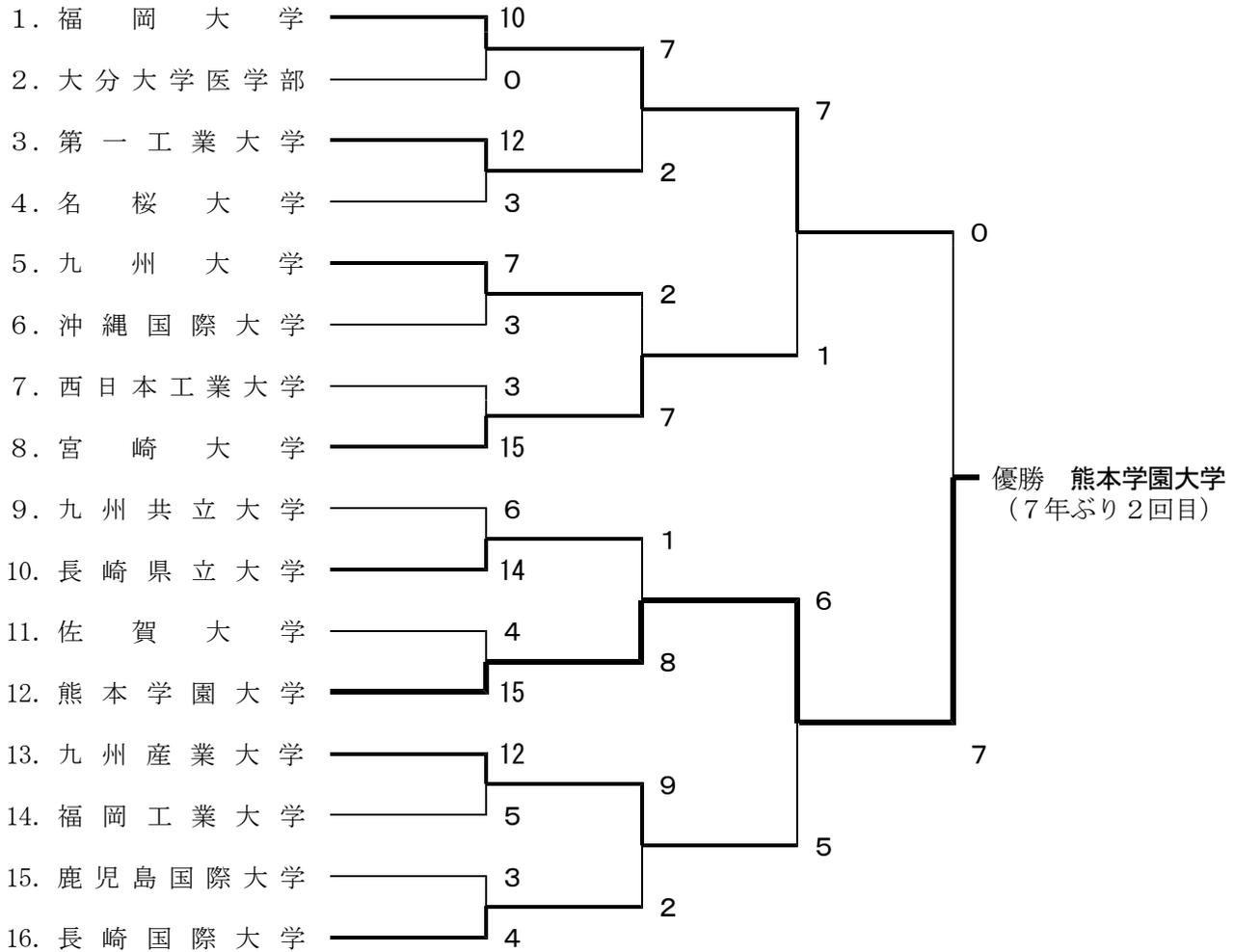
※第52回全日本・第49回西日本大学選手権大会出場校：
 日本文理大学（2年連続7回目）、福岡大学（2年ぶり19回目）

第17回 九州地区大学男子ソフトボール秋季大会

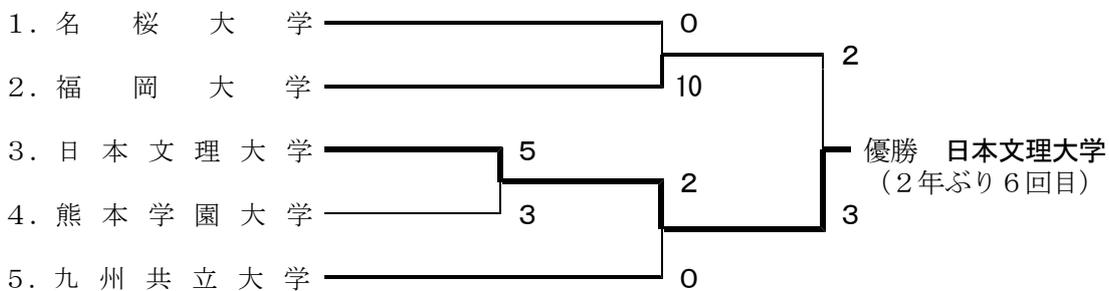
会期：11月11日(土)～12日(日)

会場：福岡県みやこ町／犀川運動公園運動場、豊津グラウンド

【男子】



【女子】



機関誌ウインドミルの原稿並びに研究企画などの募集

来年度以降も、内容をいっそう充実・発展させていくために、どしどし原稿をお願いします。論説、提言から研究報告、あるいは情報の提供に至るまで、多様なものを期待しています。とともに、こんな研究内容や企画をしてほしい！というようなものがあれば、併せて連絡をくださいますようお願いいたします。特に学生の皆さんから。なお、毎年11月末日が原稿の〆切となりますが、随時受付しておりますので、下記までお問い合わせください。

森 田 啓 之

〒673-1494 兵庫県加東郡社町下久米942-1 兵庫教育大学

TEL&FAX：(0795)44-2227

E-mail:hmorita@hyogo-u.ac.jp

【調査研究部会】

投 稿 規 程

平成11年7月30日交付

1. 投稿資格

原稿を投稿できる者は、全日本大学ソフトボール連盟に登録された者（理事、監督、コーチ、選手等）に限る。調査・研究委員会が特に必要と認めた者については、この限りではない。

2. 投稿内容

内容はソフトボールに関したものとし、巻頭言、提言、総説、論文（含、抄録）、実践研究、事例報告、卒・修論、その他などとする。原稿は、原則として一編につき本誌4ページ以内（巻頭言、提言の場合は1ページ以内）とするが、調査・研究委員会が必要と認めた場合はこの限りで

はない。なお、未刊行のものが望ましいが、既刊のものであってもよい。

3. 投稿原稿の審査

原則として投稿されたものはすべて受理・採択する。

なお、書式等に問題がある場合は、調査・研究委員会名で修正を求める場合がある。

4. 原稿の提出

原稿は所定の執筆要項に準拠して作成し、総説、論文などの別を指定して、調査・研究委員会へ書留郵便で送付する。投稿の締め切りは特に設けないが、毎年11月30日で区切るものとする。

執 筆

原稿の執筆にあたっては、以下の事項を厳守されたい。

投稿原稿をそのままオフセット印刷するので、原稿を作成する場合は、A4版縦置き横書き、本文は全角22字×40行の2段組（上下余白20mm・左

要 項

右余白20mm・段間10mm）、文字サイズは10ポイント・和文フォントは明朝体を基本とする。ワープロソフトは、「Word」もしくは「一太郎」とし（「Excel」は認められない。）、CD-Rなどのメディアとともに提出すること。

【広報記録部会】

全日本大学ソフトボール連盟チャンピオンエンブレムのご紹介

○このエンブレムは連盟創立50周年記念事業で全日本大学ソフトボール連盟優勝旗の月桂樹と日本ソフトボール協会優勝旗の鷹をモチーフにデザインされました。

○このエンブレムは全日本大学ソフトボール連盟創立50周年を記念して制定され、文部科学大臣杯第51回全日本大学選手権大会より厳しい試合を次々に勝ち抜き、チームを全国の頂点に導いた選手達に本学連から贈られます。

○文部科学大臣杯全日本大学選手権を制したチームに限り、このエンブレムをユニホームの袖に付けてプレイする権利が与えられます。また、エンブレムには、文部科学大臣杯全日本大学ソフトボール選手権大会の優勝チームの

一員としての名誉は基より、本連盟の模範チームの選手としての活動、さらには、ソフトボールの普及・発展への活動等へのリーダーとしての多くの期待が込められています。



全日本大学ソフトボール連盟新ロゴマークの制定



新



旧

50年間使われてきたロゴマークもなかなか味のあるものでしたが、スッキリさせて次の50年に向けての新鮮さとイエローボールをアピールしたものになりました。学連の関係する各種大会での活用をお願いします。また、ロゴの入ったグッズの作成も考えています。

平成28・29年度
全日本大学ソフトボール連盟役員名簿

職名	氏名	所属	氏名	所属
会長	一谷 宣宏	園田学園女子大学	7月13日急逝、ご冥福をお祈りします。合掌	
会長代理	中野 元	熊本学園大学	-	
副会長	丸山 悟	日本福祉大学	小嶋 高良	八戸工業大学
顧問	角田 真一郎	早稲田大学名誉教授	水野 信義	WSM教育研究所
	斎藤 滋雄	学習院大学名誉教授	大内 敬哉	中京大学名誉教授
	中野 紀明	国土舘大学名誉教授	末井 健作	兵庫県立大学名誉教授
	武藤 政幸	城西大学名誉教授	吉野 みねこ	東京女子体育大学名誉教授 12月5日急逝、ご冥福をお祈りします。合掌
理事長	久保田 豊司	大阪国際大学		
副理事長	岩間 英明	松本大学	清水 正	山梨学院大学
常任理事	森田 啓之	兵庫教育大学（事務局長） hmorita@hyogo-u.ac.jp		
	大塚 健樹	盛岡大学	柳田 信也	東京理科大学
	長澤 俊恵	城西大学	高橋 流星	日本体育大学
	二瓶 雄樹	中京大学	西村 信紀	環太平洋大学
	宮尾 直海	環太平洋大学短期大学部	濱 貴一	熊本学園大学
理事	舟山 健一	東北福祉大学	高橋 和美	富士大学
	高橋 光平	城西国際大学	増淵 まり子	淑徳大学
	森田 一雄	金沢学院大学	藤原 徹	東京富士大学
	筒井 崇護	日本体育大学	佐藤 理恵	東京女子体育大学
	川崎 千明	岐阜経済大学	大矢 隆二	常葉大学

理事	石井 賀一郎	日本福祉大学	東 美 幸	東海学園大学
	板谷 昭彦	園田学園女子大学	平野 義明	関西大学
	鈴木 正明	四天王寺大学	山本 薫	名桜大学
	竹下 俊一	第一工業大学	水谷 博	至学館大学名誉教授
	富田 国興	(広島修道大学)	吉末 和也	関西大学
評議員	平良 拓也	仙台大学	高橋 伸次	高崎経済大学
	大塚 隆	東海大学	近藤 弘康	長岡大学
	菅野 貴広	静岡大学	和田 正志	中京学院大学
	宮澤 千尋	南山大学	但尾 哲哉	神戸親和女子大学
	大島 新司	大阪工業大学	児玉 公正	大阪大谷大学
	辻井 美恵子	びわこ成蹊スポーツ大学	河内 満	広島修道大学
	伊勢 幸広	高知工科大学	山中 卓	鹿児島国際大学
	井上 博司	熊本学園大学	—	
監事	細田 きみ子	東京女子体育大学	秋澤 俊史	摂南大学
事務局	〒570-855 大阪府守口市藤田町6-21-57 大阪国際大学 kubota@oiu.ac.jp			
学生委員長	久保 潤平	関西大学	※学生委員は29年度のみ	
学生副委員長	松浦 絵理	実践女子大学	木田 裕輔	名古屋大学
学生委員	平子 文崇	東京大学	丸山 咲紀	中央大学
	山内 滉大	日本体育大学	末吉 紗希	日本体育大学
	竹内 優介	神戸大学	森 奈々穂	園田学園女子大学
	東 愛莉	園田学園女子大学	—	

平成29年度 男子加盟大学一覧		
全日本大学ソフトボール連盟		
地区	数	加盟大学名
北海道・東北	9	仙台大学 東北大学 日本大学工学部 八戸工業大学 弘前大学 福島大学 北海道大学 宮城教育大学 盛岡大学
関東	18	茨城大学 関東学園大学 国際武道大学 埼玉大学 芝浦工業大学 城西大学 高崎経済大学 千葉大学 筑波大学 中央学院大学 都留文科大学 東海大学 東京国際大学 東京理科大学 日本大学生物資源科学部 日本大学生産工学部 文教大学 山梨学院大学
北信越	7	金沢大学 信州大学 富山大学 長野大学 長岡大学 福井大学 福井県立大学
東京	20	桜美林大学 学習院大学 慶應義塾大学 国士舘大学 専修大学 成蹊大学 大東文化大学 中央大学 帝京大学 東京大学 東京学芸大学 東京農業大学 東洋大学 日本大学 日本体育大学 文教大学湘南 明治大学 明星大学 立教大学 早稲田大学
東海	15	愛知大学 愛知学院大学 愛知教育大学 岐阜聖徳学園大学 静岡大学 中京大学 中京学院大学 中部大学 東海学園大学 常葉大学 名古屋大学 名古屋商科大学 南山大学 日本福祉大学 名城大学
近畿	29	大阪大学 大阪経済大学 大阪経済法科大学 大阪工業大学 大阪産業大学 大阪市立大学 大阪教育大学 大阪体育大学 大阪府立大学 関西大学 関西学院大学 京都大学 京都学園大学 京都産業大学 近畿大学 神戸大学 神戸学院大学 甲南大学 四天王寺大学 摂南大学 同志社大学 奈良教育大学 兵庫教育大学 兵庫県立大学 佛教大学 立命館大学 龍谷大学 流通科学大学 和歌山大学
中国	11	岡山大学 岡山理科大学 環太平洋大学 近畿大学工学部 島根大学 鳥取大学 広島大学 広島経済大学 広島工業大学 広島修道大学 広島国際学院大学
四国	7	愛媛大学 香川大学 高知大学 高知工科大学 四国大学 徳島大学 松山大学
九州	17	大分大学医学部 沖縄国際大学 鹿児島国際大学 九州大学 九州共立大学 九州産業大学 熊本学園大学 佐賀大学 第一工業大学 長崎県立大学 長崎国際大学 西日本工業大学 福岡大学 福岡工業大学 宮崎大学 名桜大学 琉球大学

平成29年度 女子加盟大学一覧

全日本大学ソフトボール連盟

地 区	数	加 盟 大 学 名
北海道・東北	7	仙台大学 東北福祉大学 弘前大学 富士大学 北翔大学 宮城教育大学 宮城学院女子大学
関 東	18	茨城大学 関東学園大学 国際武道大学 埼玉大学 淑徳大学 順天堂大学 城西大学 城西国際大学 清和大学 千葉大学 筑波大学 東海大学 東京国際大学 日本大学生物資源科学部 新島学園短期大学 白鷗大学 文教大学 山梨学院大学
北 信 越	5	金沢大学 金沢学院大学 信州大学 富山大学 松本大学
東 京	18	桜美林大学 学習院大学 慶應義塾大学 国士舘大学 実践女子大学 専修大学 成蹊大学 中央大学 東京学芸大学 東京女子体育大学 東京富士大学 東洋大学 日本大学 日本女子体育大学 日本体育大学 文教大学湘南 明治大学 早稲田大学
東 海	13	愛知教育大学 岐阜経済大学 岐阜聖徳学園大学 至学館大学 静岡大学 星城大学 中京大学 中京学院大学 中部学院大学 東海学園大学 常葉大学 名古屋大学 日本福祉大学
近 畿	27	大阪青山大学 大阪大谷大学 大阪教育大学 大阪経済法科大学 大阪国際大学 大阪産業大学 大阪体育大学 大阪府立大学 関西大学 京都学園大学 京都女子大学 京都産業大学 神戸親和女子大学 四天王寺大学 摂南大学 園田学園女子大学 太成学院大学 天理大学 同志社大学 奈良学園大学奈良文化女子短期大学 兵庫教育大学 羽衣国際大学 びわこ成蹊スポーツ大学 佛教大学 武庫川女子大学 立命館大学 龍谷大学
中 国	7	環太平洋大学 中国学園大学 鳥取大学 広島大学 広島修道大学 美作大学 安田女子大学
四 国	3	環太平洋大学短期大学 香川大学 四国大学
九 州	5	九州共立大学 熊本学園大学 日本文理大学 福岡大学 名桜大学
男 子	133大学	2,841名
女 子	103大学	2,351名
合 計	236大学	5,192名

平成29年12月25日現在

編 集 後 記

全日本大学ソフトボール連盟は創立50年を経過し、新しい半世紀に1歩を踏み出したところでした。この時期に7月には一谷宣宏会長、12月には吉野みね子前副会長が相次いで急逝されるという不幸に見舞われました。これまで以上に強力なリーダーシップとご助言を求めていたところですので、残念でなりません。謹んでご両名のご冥福をお祈りいたしますとともに、前会長・前元理事長からお言葉をいただいて本号を「追悼号」といたしました。

また、本号では「男子ソフトボールの魅力」を特集し、3名の方々から原稿をいただきました。それぞれ非常に興味深いものでした。しかし、これだけでは十分に男子ソフトボールの魅力を到底お伝えできませんので、今後ともこのことを追求していきたいと存じます。特に、次回は現役選手の声を集めその魅力にいつそう迫りたいと考えています。

最後になりましたが、本誌に原稿や情報をお寄せいただいた方々に御礼と感謝を申し上げ、編集後記といたします。

広報記録部会：水谷 博（部長）・大塚健樹（盛岡大学）・
高橋光平（城西国際大学）・宮尾直海（環太平洋大学短期大学部）

表紙デザイン：川北卓史（画家、長野県安曇野市在住）

全日本大学ソフトボール連盟機関誌 ウインドミル 第21号

2018年1月15日発行

発 行 者 全日本大学ソフトボール連盟会長代理 中野 元

編集責任者 広報記録部長 水谷 博

E-mail mztn@xd6.so-net.ne.jp

発 行 所 全日本大学ソフトボール連盟

〒570-8555 大阪府守口市藤田町6-21-57 大阪国際大学守口キャンパス

U R L : www001.upp.so-net.ne.jp/ajc-softball/

E-mail : kubota@oiu.ac.jp

印 刷 西濃印刷(株)

〒500-8074 岐阜市七軒町15番地

I S S N 1 3 4 3 - 4 3 9 X

想いを込める一球がある。



NAIGAI SOFTBALL

(財)日本ソフトボール協会検定球 検定1号・2号・3号・皮製3号・14インチ



NAIGAI BASEBALL

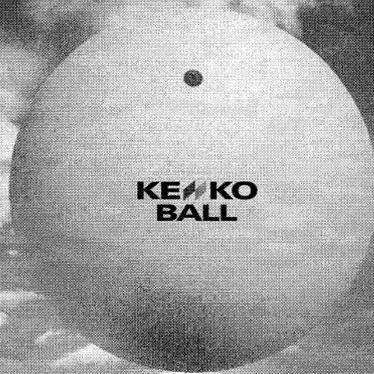
(財)全日本軟式野球連盟公認球 A号・B号・C号・D号・H号

内外ゴム株式会社

感動！ サプライヤー ケンコーボール



(公財)全日本軟式野球連盟公認球
ケンコーボール



(公財)日本ソフトテニス連盟公認球
ケンコーソフトテニスボール



(公財)日本ソフトボール協会検定球
ケンコーソフトボール

一九三四年創業以来七〇年以上にわたり 一心にボールを作り続けてまいりました
これからもスポーツライフに相応しい自信作をお届けしていきます

「ボールのロゴマークカラーはイメージ
実際の商品とは異なります」

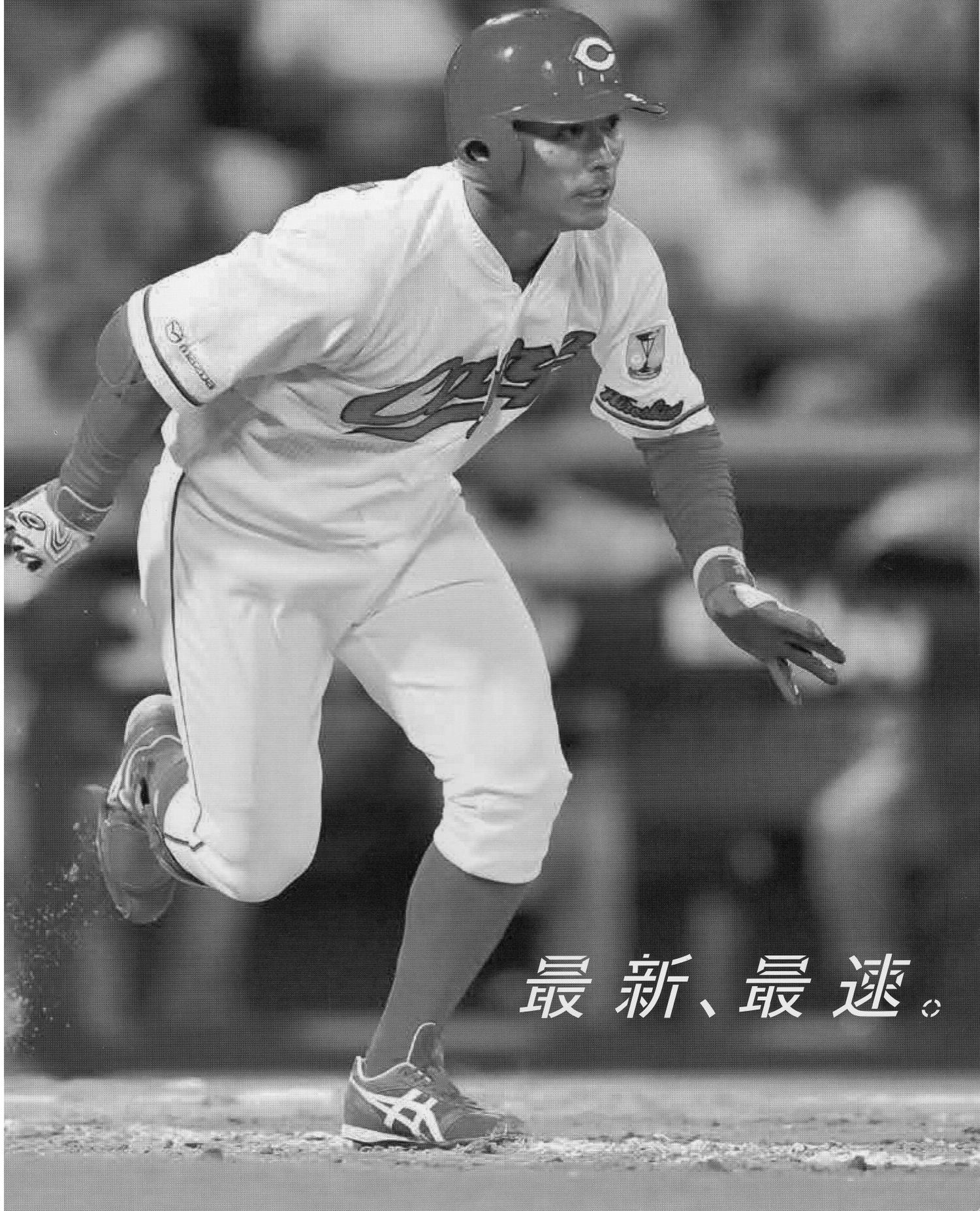
KENKO BALL

ケンコーボール

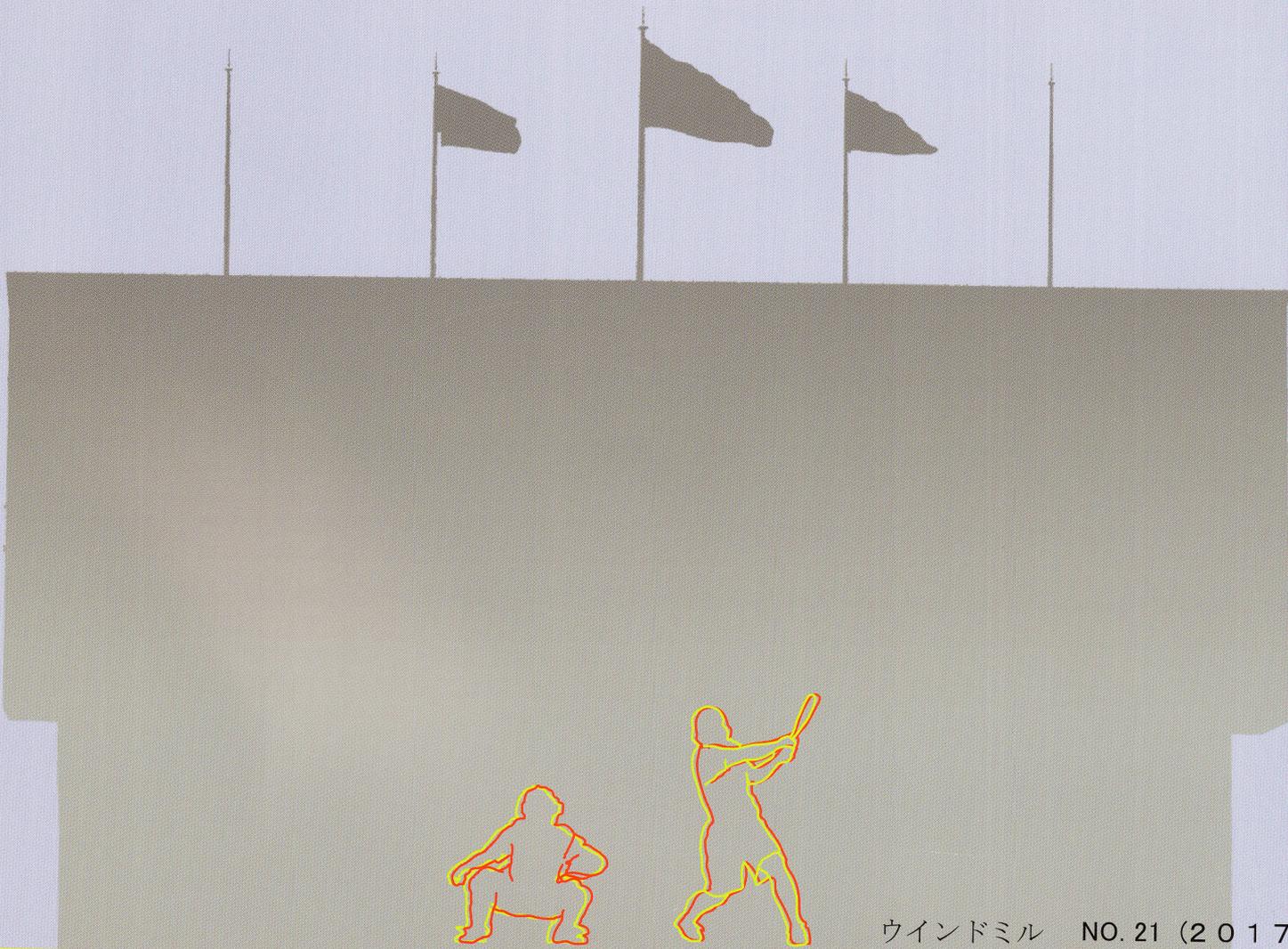
ナガセケンコー株式会社 www.nagase-kenko.com

[東京本社] TEL(03)3614-3501(代) [大阪営業所] TEL(06)6531-0783(代) [九州営業所] TEL(092)471-5381(代) [名古屋営業所] TEL(052)734-8886

asics



最新、最速。



ウインドミル NO. 21 (2017)

ISSN 1343-439 X